

川越市の環境に関するアンケート調査結果

平成 27 年 3 月

川 越 市

目 次

1. 調査概要	1
1.1 調査目的	1
1.2 調査対象及び調査方法	1
1.3 調査結果の見方	2
2. アンケート調査結果	3
2.1 市民アンケート	3
2.2 事業者アンケート	52
資料編	
資料 1 市民アンケート調査票	資- 1
資料 2 事業者アンケート調査票	資-10
資料 3 市民アンケート 問 16 自由意見回答	資-19
資料 4 市民アンケート 問 17 自由意見回答	資-30
資料 5 市民アンケート 問 19 自由意見回答	資-39

1. 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、「第二次川越市環境基本計画」及び「川越市緑の基本計画」の次期計画の策定にあたり、川越市民・事業者の環境に対する意識等を把握し、計画内容検討における基礎資料として活用することを目的としています。

1.2 調査対象及び調査方法

市民、事業者への調査の概要はそれぞれ以下のとおりです。

1) 市民アンケート調査の概要

調 査 対 象	20 歳以上の市民から無作為に抽出
サ ン プ ル 数	2,000 人
調 査 期 間	平成 26 年 9 月 5 日～9 月 19 日
調 査 方 法	調査票の郵送配布・郵送回収（無記名）
回 収 数 （ 回 収 率 ）	844 人（42.2%）

2) 事業所アンケート調査の概要

調 査 対 象	市内の事業所から無作為に抽出
サ ン プ ル 数	250 事業所
調 査 期 間	平成 26 年 9 月 5 日～9 月 19 日
調 査 方 法	調査票の郵送配布・郵送回収（無記名）
回 収 数 （ 回 収 率 ）	120 事業所（48.0%）

1.3 調査結果の見方

1) 集計・表記について

- ・集計は、小数第2位を四捨五入して算出しています。そのため、回答率の合計が100%にならないことがあります。
- ・本文やグラフ等の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化しています。
- ・択一式の設問に対し複数回答されている場合や無回答の場合は、「不明」として集計しています。

2) 標本誤差について

今回の調査は、調査対象となる母集団（20歳以上の市民）から一部を無作為に抽出して行った「標本調査」であり、母集団に対する標本誤差が生じます。

標本誤差は、次の公式によって算出されます（信頼度95.4%）。

なお、公式中の信頼度係数「2」については、信頼度95.0%となる「1.96」が用いられることもあります。ここでは「川越市市民意識調査」等の報告書で用いられている「2」を使用しています。

$$b = 2 \sqrt{\frac{X - n}{X - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b : 標本誤差
 X : 母集団
 n : 回収数
 P : 回収率

今回の実際の設問に当てはめてみると、問1の環境問題に対する関心度合に関する設問に関して、回答者数844人のうち、39.0%の人が「関心がある」と答えました。この場合の標本誤差は±3.4%となります。

したがって、環境問題に対して「関心がある」と考える20歳以上の市民の割合は、全体の35.6%から42.4%の範囲内にあると考えられます。

標本誤差早見表

回答の比率 (P) 基数(n)	90% または 10%	80% または 20%	70% または 30%	60% または 40%	50%
844	±2.1%	±2.8%	±3.2%	±3.4%	±3.4%
400	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%
200	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
100	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
50	±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

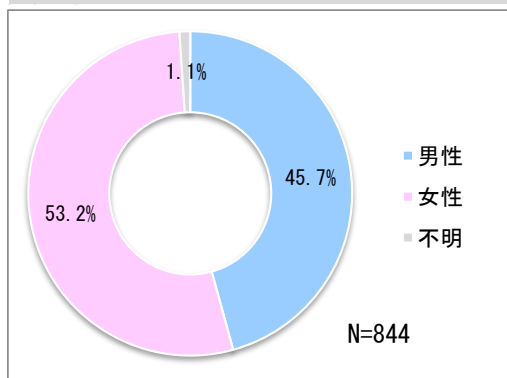
2. アンケート調査結果

2.1 市民アンケート

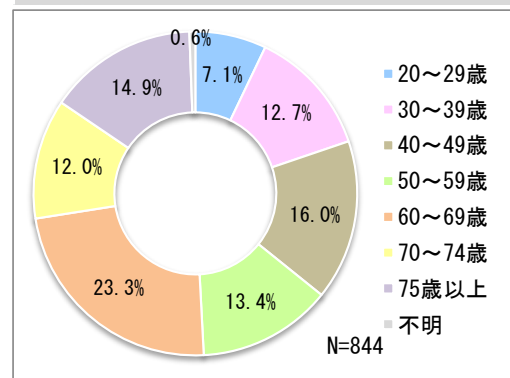
回答者の属性

市民に対するアンケートは 844 人から回答がありました。回答者の男女比は、男性 45.7%、女性 53.2%となっています。年齢別では、「60～69 歳」が 23.3%と最も多く、次いで「40～49 歳」が 16.0%となっています。60 歳以上が全体の 5 割を占めています。

F1（性別）

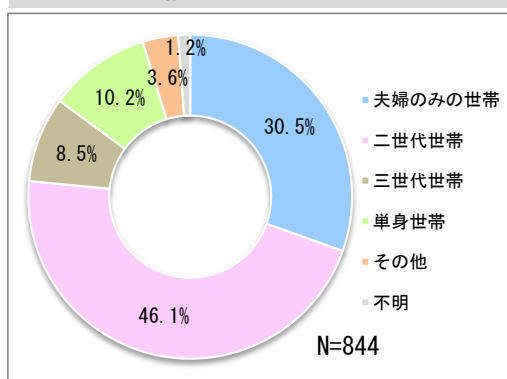


F2（満年齢）

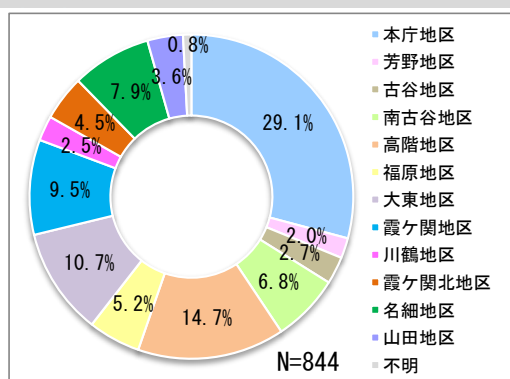


家族構成は、「二世世代世帯（親・子）」が 46.1%と最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」が 30.5%となっています。また、回答者の住居地区は、「本庁地区」が 29.1%と最も多くなっています。

F3（家族構成）

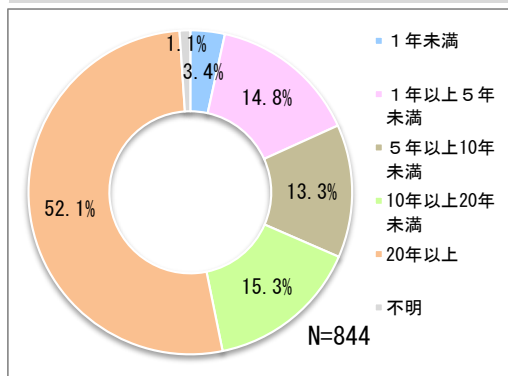


F4（居住地区）

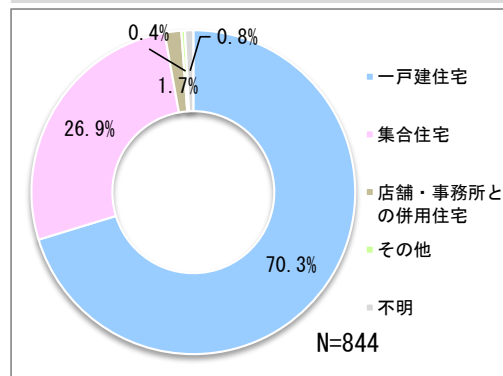


居住歴は、「20 年以上」が 52.1%と最も多く、半数以上を占めています。また、住宅形態は、「一戸建住宅」が 70.3%、「集合住宅」が 26.9%となっています。職業は、「無職」が 27.1%と最も多く、次いで「会社員」が 26.1%となっており、これは、回答者の 5 割が 60 歳以上であることも原因となっているものと思われます。

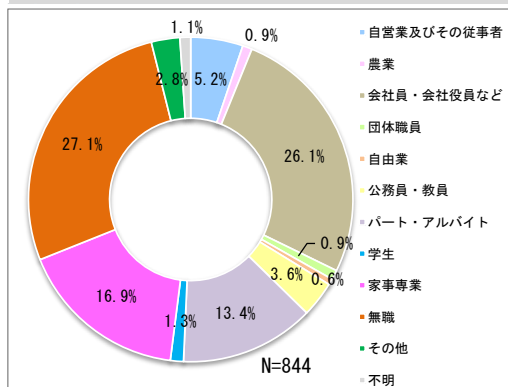
F5（居住歴）



F6（住宅形態）



F7（職業）

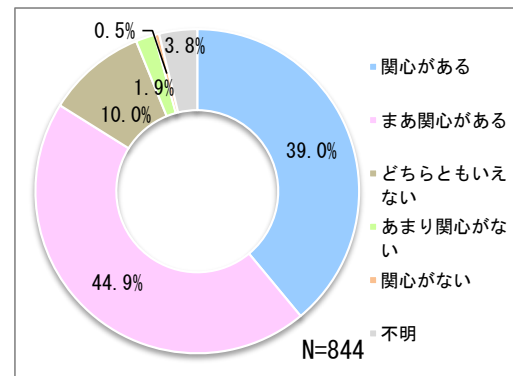


「環境」に対する考え方

ここからは、市民アンケートによる市民の環境への関心度、考え方について示します。

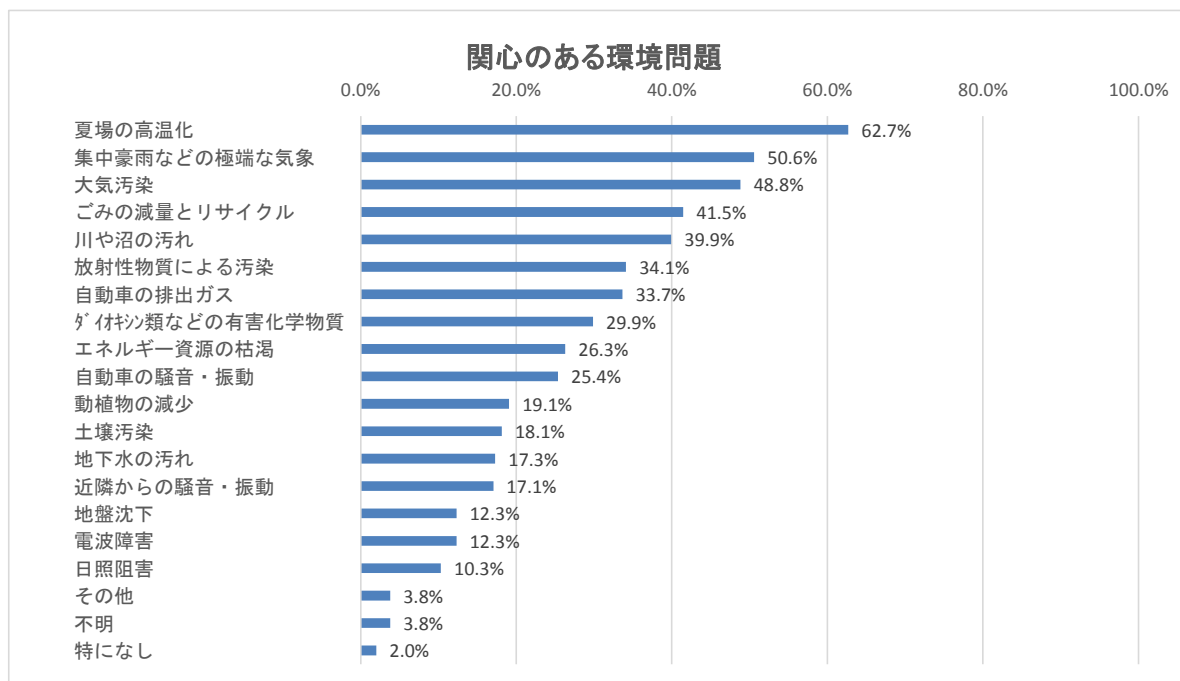
問1. 「環境問題」に対する関心度合

「環境問題」に対する関心度合については、「まあ関心がある」が44.9%と最も多く、次いで「関心がある」が39.0%となっており、環境に対する関心の高さが分かります。



問2. 身のまわりで関心のある環境問題

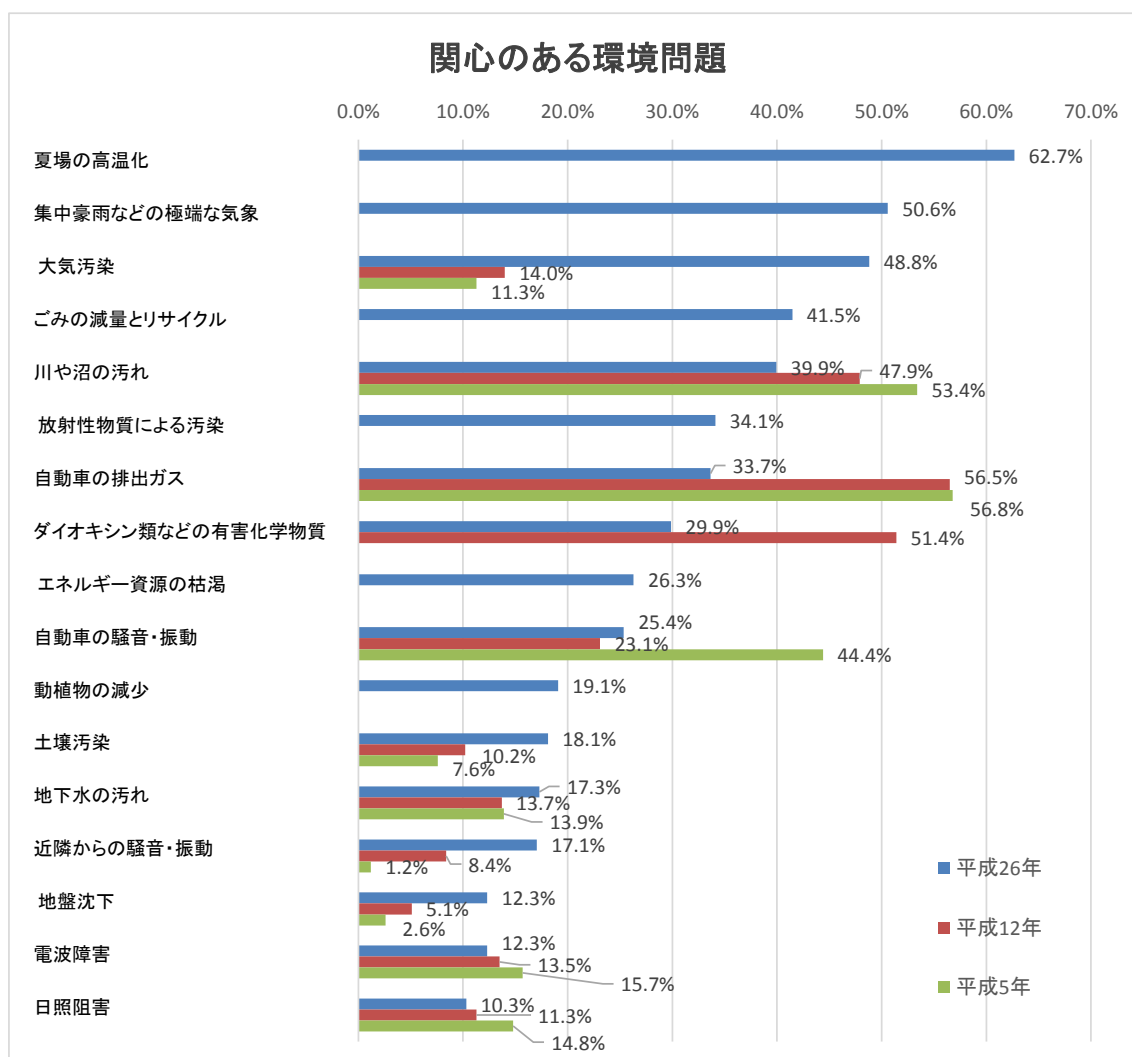
身のまわりで関心のある環境問題については、「夏場の高温化」が62.7%と最も多く、次いで「集中豪雨などの極端な気象」が50.6%となっています。ニュース等で報じられたり、災害につながるおそれのある問題等に対する関心が高くなっています。



次に、今回の調査結果と過去のアンケート調査結果（平成5年、平成12年）の比較を示します。

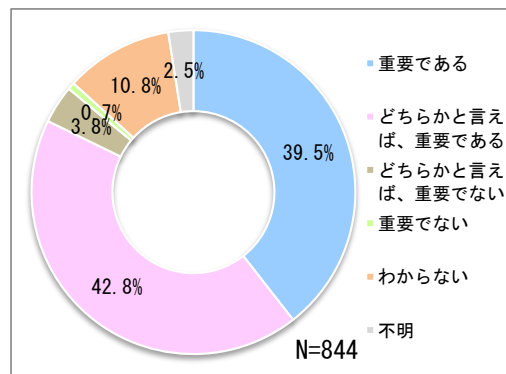
過去と比べて割合が高くなっている項目は、「大気汚染」、「土壌汚染」、「地下水の汚れ」、「近隣からの騒音・振動」、「地盤沈下」となっています。特に、大気汚染は12年度から3倍以上に増加しており、これは、ニュース等でも報じられたPM_{2.5}への関心の高まりが一因であると考えられます。

反対に、過去と比べて割合が低くなっている項目は、「川や沼の汚れ」、「自動車の排出ガス」、「ダイオキシン類などの有害化学物質」、「電波障害」となっています。



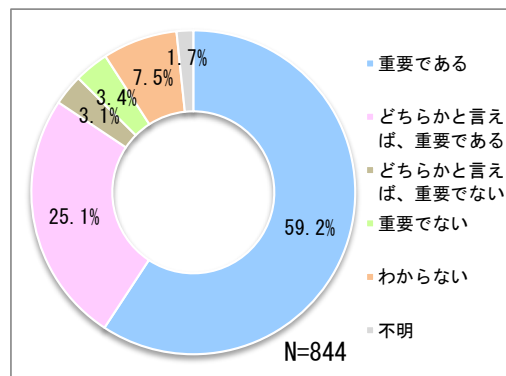
問3. 身近な生き物の保全に対する考え

市内に生息する身近な生き物の保全については、「どちらかと言えば、重要である」が42.8%と最も多く、次いで「重要である」が39.5%となっており、重要と考える回答者が8割以上となっています。



問4. 外来種対策に対する考え

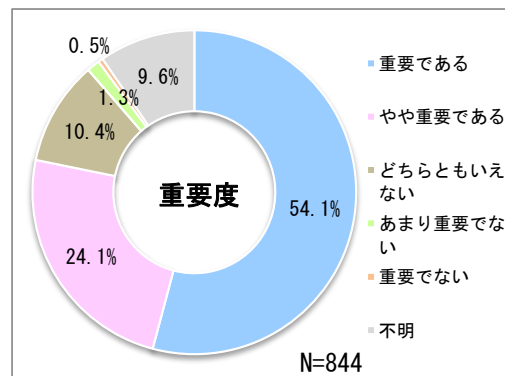
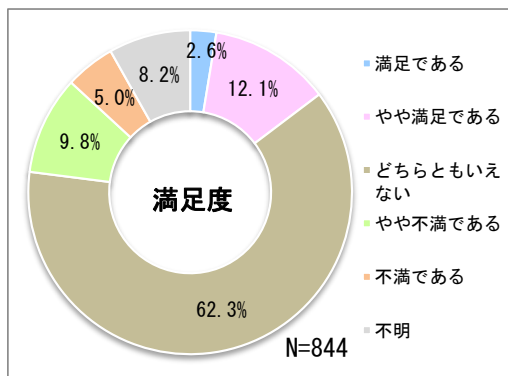
外来種対策については、「重要である」が59.2%と最も多く、次いで「どちらかと言えば、重要である」が25.1%となっており、重要と考える回答者が8割以上となっています。



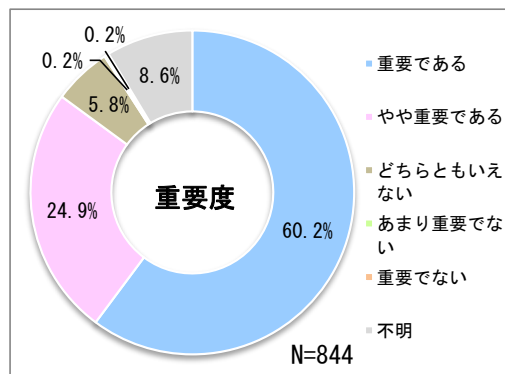
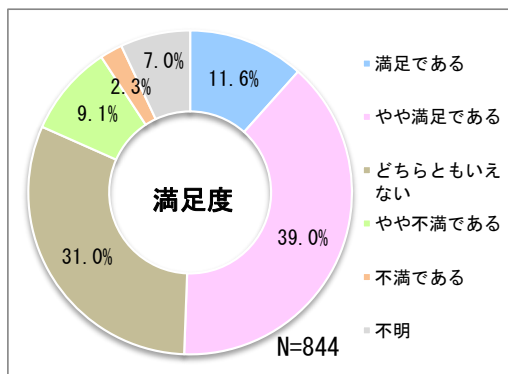
問5 本市における環境の取組に対する評価

本市における 12 の環境の取組に対する重要度と満足度の評価を示します。

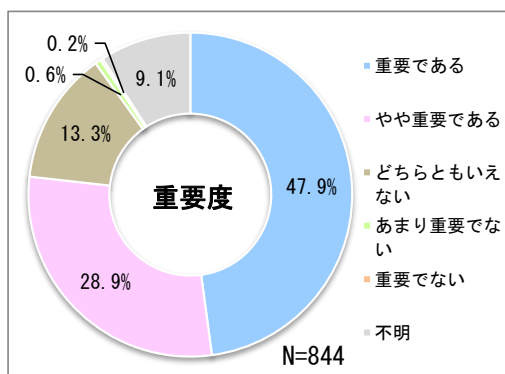
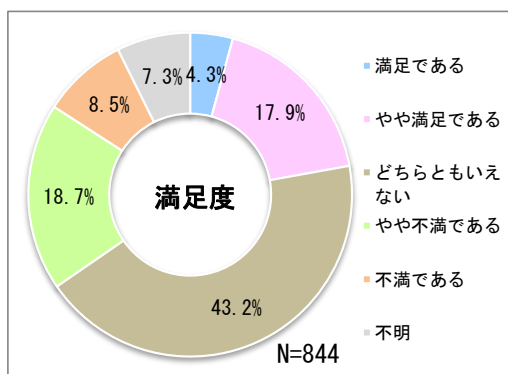
1) 温室効果ガスの排出削減など地球温暖化防止に向けた取組



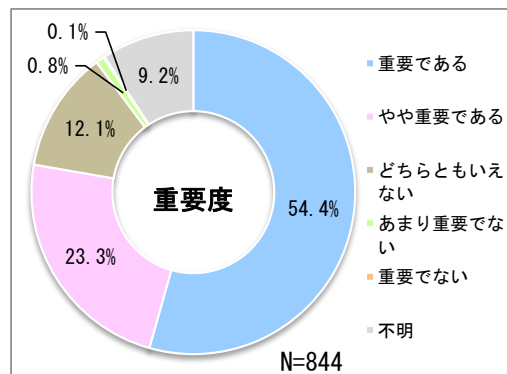
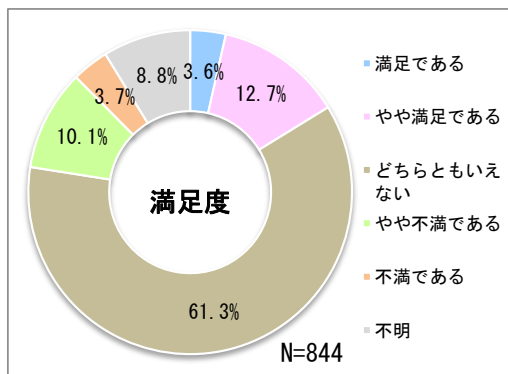
2) ごみの減量、リサイクルなど資源の有効利用の取組



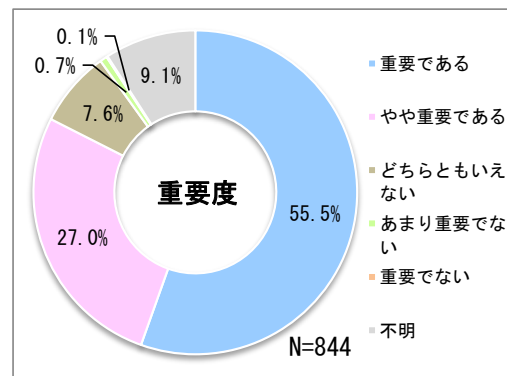
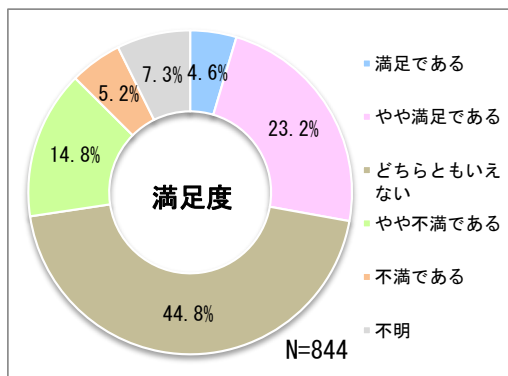
3) 人と環境にやさしい交通体系づくりの取組



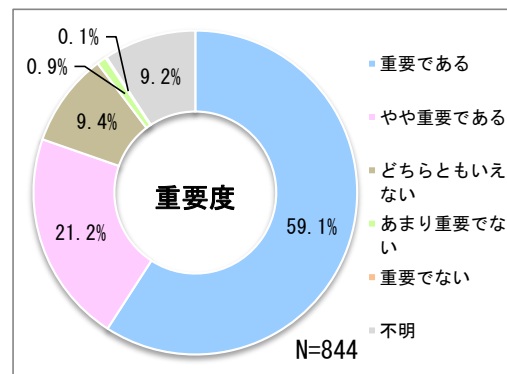
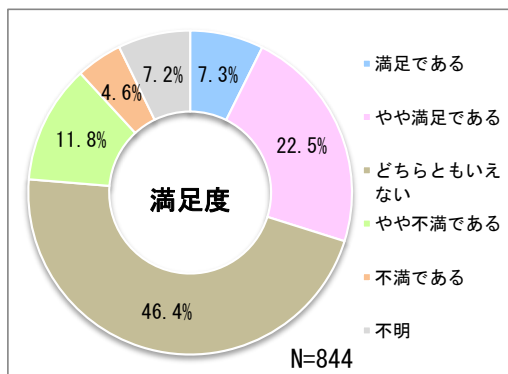
4) 有害な化学物質(ダイオキシン類など)によるリスクを下げる取組



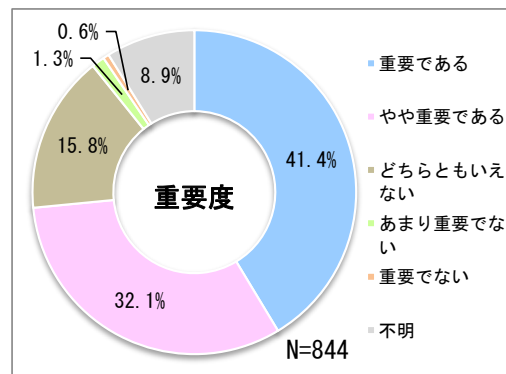
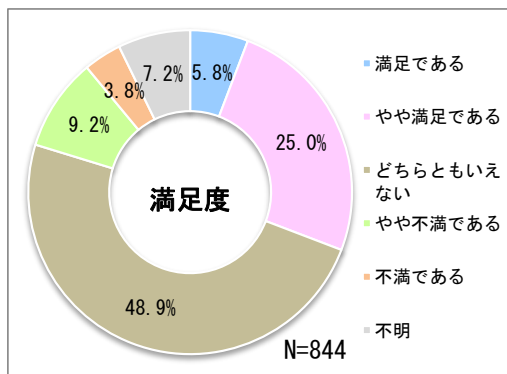
5) 河川など水辺の水質汚濁をなくし、身近な水辺環境を保全する取組



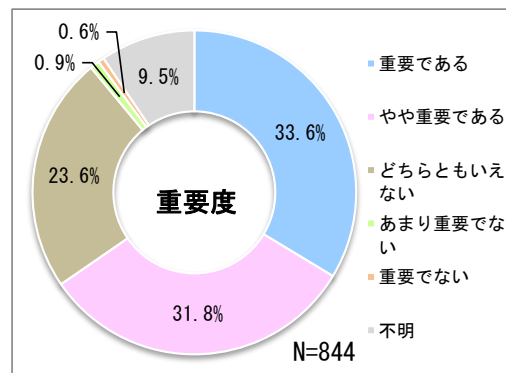
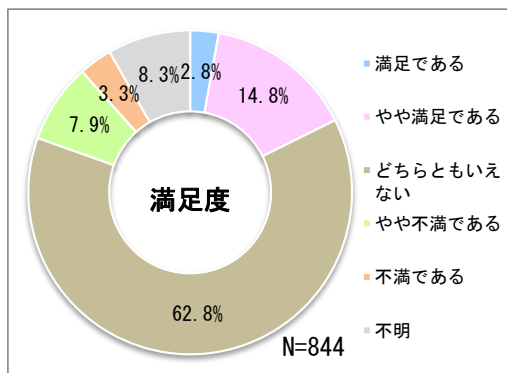
6) 健全な水の循環を確保し、集中豪雨による浸水被害を防止する取組



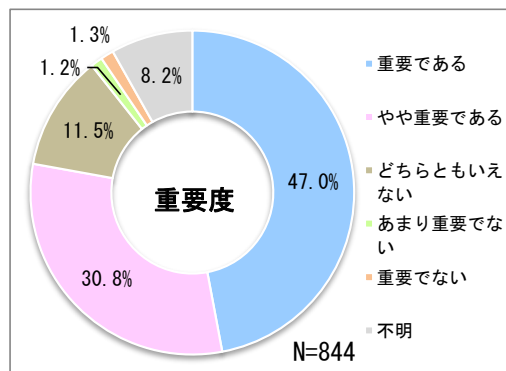
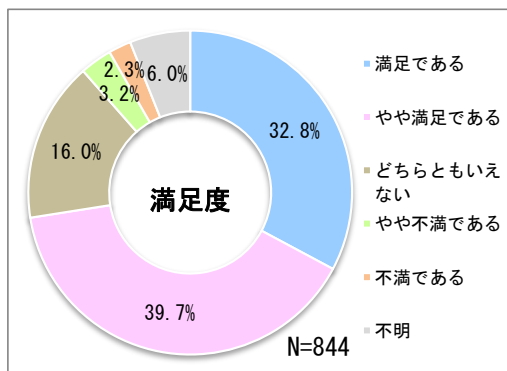
7) 武蔵野の面影を残す雑木林等を守る取組



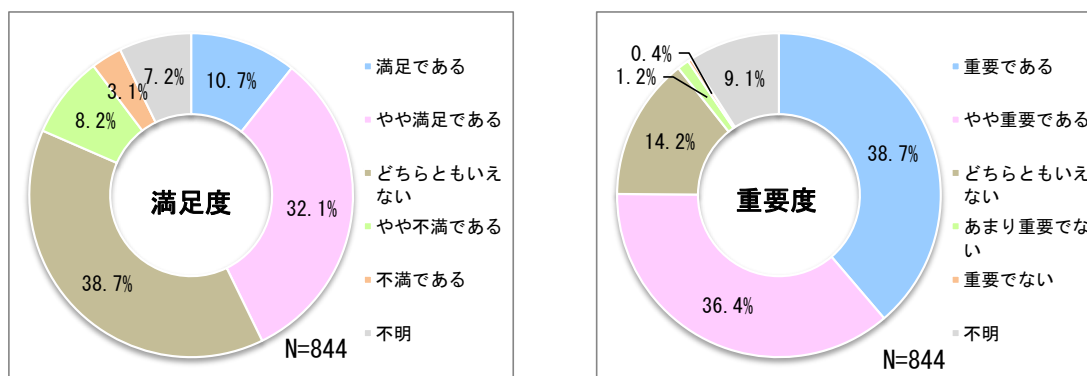
8) 自然環境の保全、身近な生き物との共生の取組



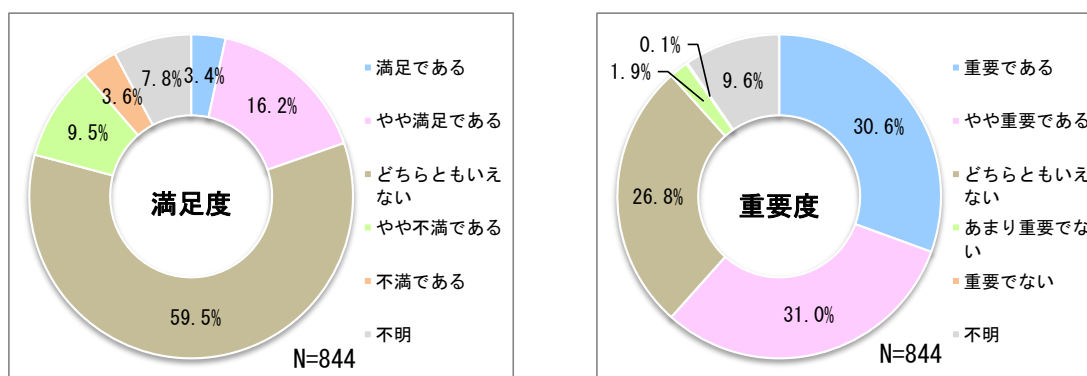
9) 時の鐘や菓子屋横丁など、歴史的・文化的なまちなみを継承する取組



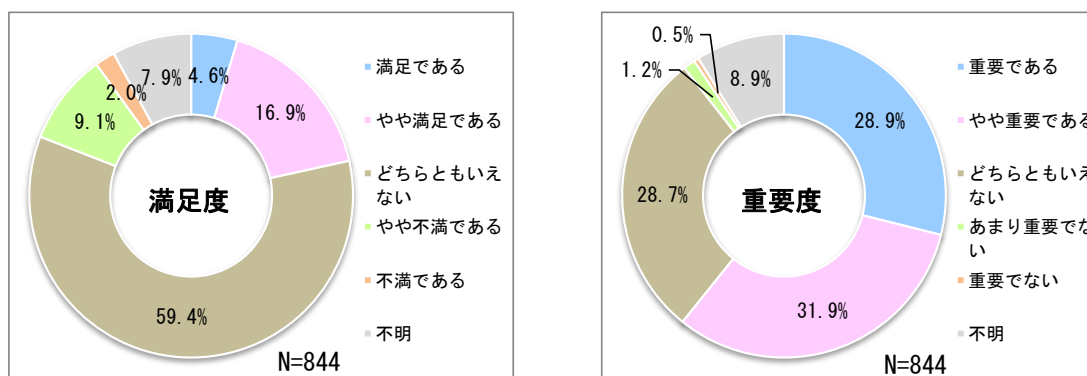
10) 良好な都市景観の形成を図り、音風景の保全、都市緑化・美化など都市のうるおいを創造する取組



11) 環境情報の提供や環境教育・環境学習の機会を推進する取組

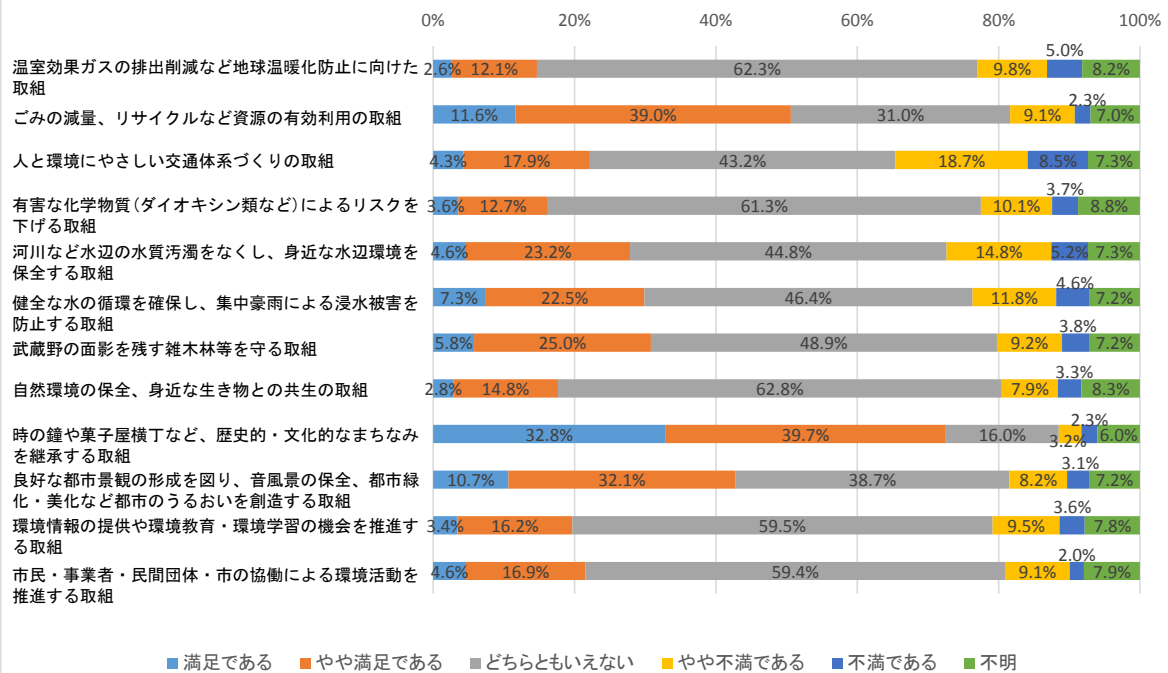


12) 市民・事業者・民間団体・市の協働による環境活動を推進する取組

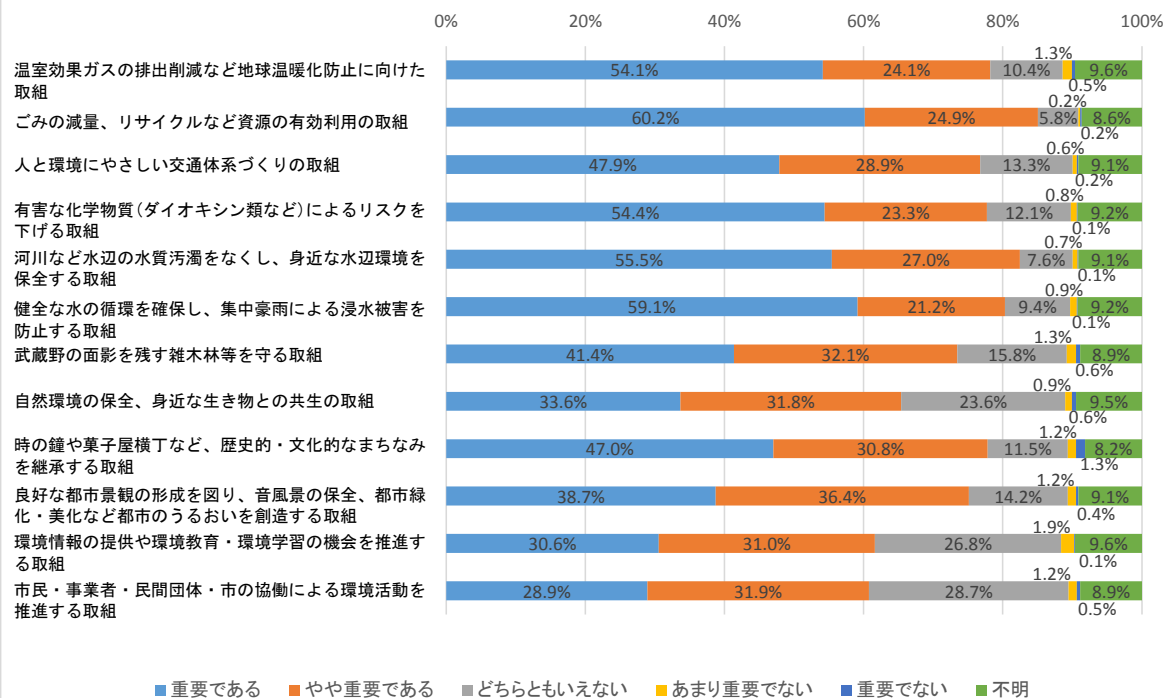


以上、12の取組に対する満足度と重要度の割合を見てきました。
次頁では、全ての取組を一覧にした棒グラフで示します。

川越市における環境の取組に対する満足度



川越市における環境の取組に対する重要度



環境に対する取組の重要度については、全ての取組で「重要である」と「やや重要である」の合計が 60%を超えています。一方、全ての取組で「あまり重要でない」と「重要でない」の合計が 3%未満となっており、環境の取組が重要であるという意識が高いことが分かります。

一方、満足度については、12 の取組中、8 の取組において、「満足である」が 10%を下回っています。また、「どちらとも言えない」が多数を占めています。

以上のように、多くの回答者が環境の取組について重要であると考えているが、具体的な取組の状況についてはよく分からないという結果となっています。

次に、これら 12 の取組に対する満足度と重要度を、男女別、年齢別、居住地区別に示します。全体的な傾向として、満足度については、年齢が若いほど「どちらとも言えない」の割合が高い傾向にあります。

なお、いくつかの取組において、芳野地区、古谷地区の回答が他の地区と異なるような値を示していますが、これはアンケートの回答者数が少ないため、標本誤差（3 ページ参照）が大きくなったことが一因と考えられます。

参考として、下表に、地区別・年齢別の回答者数を示します。なお、男女別では、各地区とも結果に大きな差は見られませんでした。

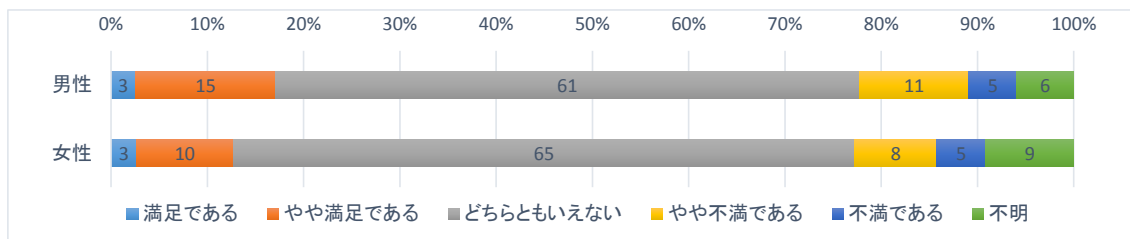
【アンケートの地区別・年齢別回答者数】

地区／満年齢	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	75歳以上	不明	合計
1:本庁地区	16	31	37	46	48	28	39	1	246
2:芳野地区	3	3	4	2	4		1		17
3:古谷地区	2	5	3	1	6	4	2		23
4:南古谷地区	3	10	12	10	15	4	3		57
5:高階地区	12	12	20	16	24	17	23		124
6:福原地区	3	4	6	3	13	7	8		44
7:大東地区	8	10	19	8	24	9	12		90
8:霞ヶ関地区	4	14	12	11	19	9	11		80
9:川鶴地区		1	2	2	9	3	3	1	21
10:霞ヶ関北地区	3	1	3	5	11	4	11		38
11:名細地区	3	9	12	5	19	10	9		67
12:山田地区	2	7	5	4	5	4	3		30
不明	1					2	1	3	7
合計	60	107	135	113	197	101	126	5	844

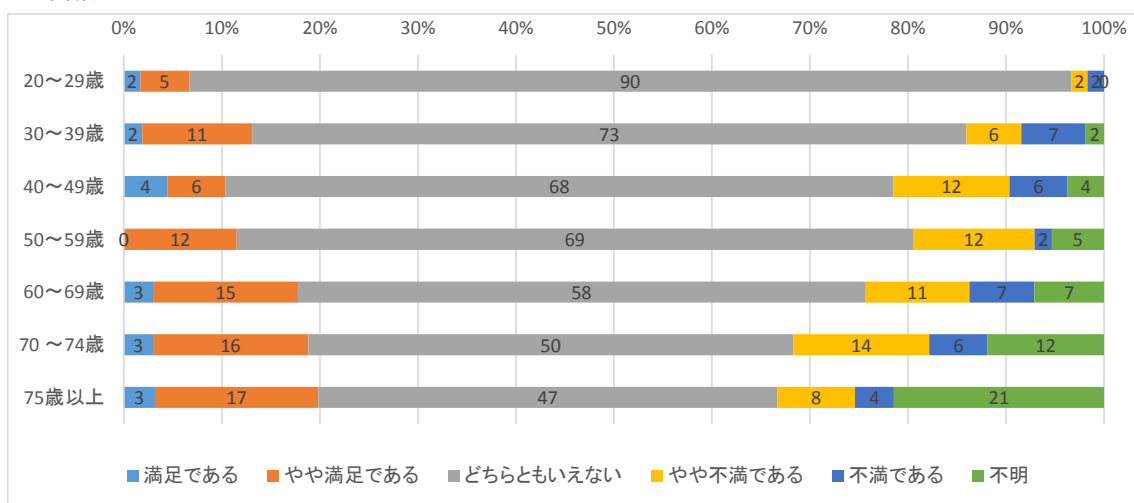
1) 温室効果ガスの排出削減など地球温暖化防止に向けた取組

■満足度

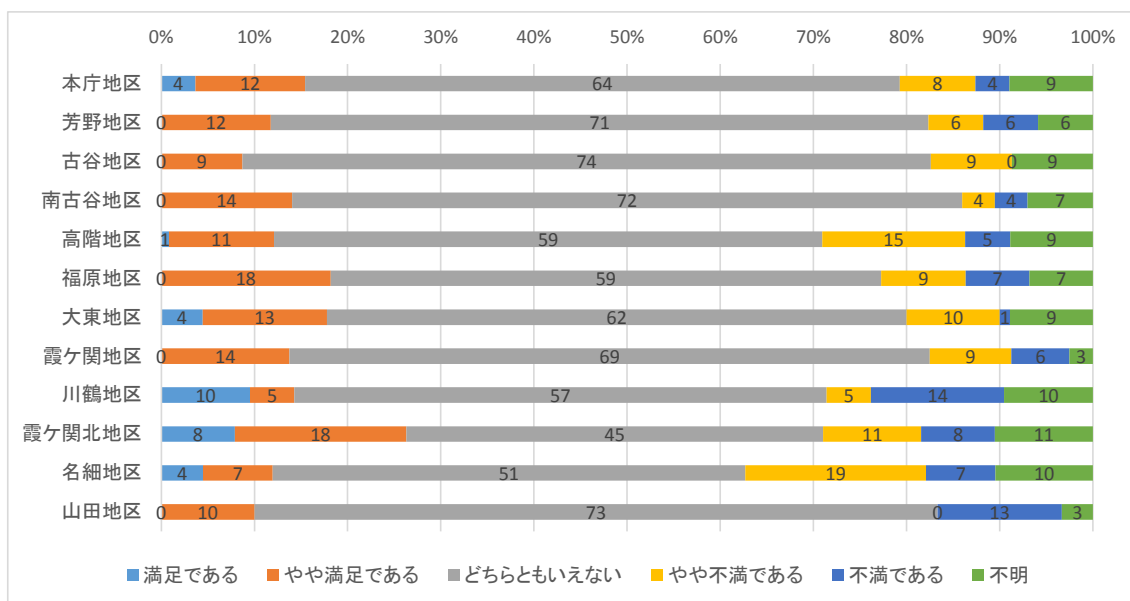
≪男女別≫



≪年齢別≫

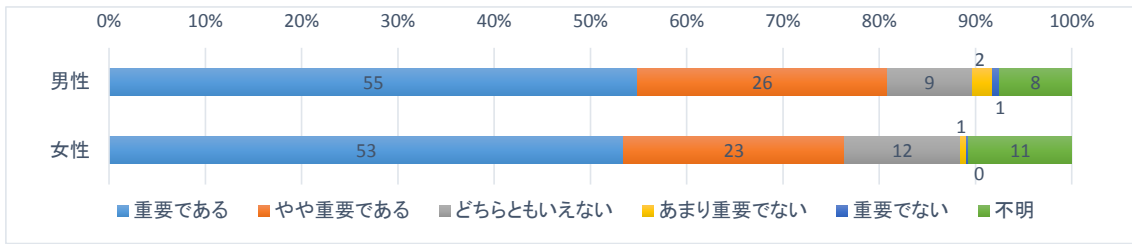


≪地区別≫

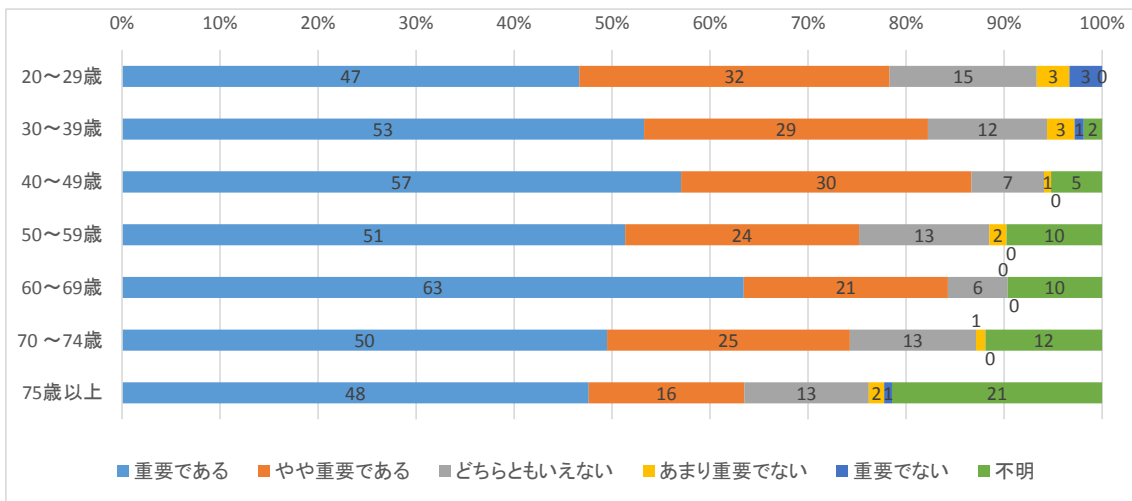


■重要度

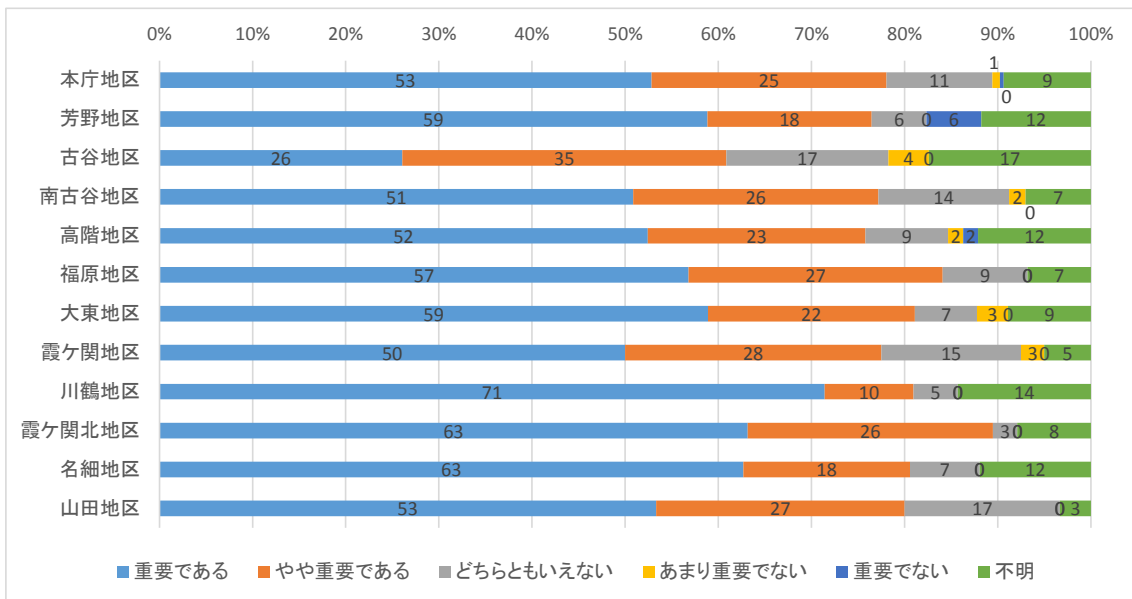
《男女別》



《年齢別》



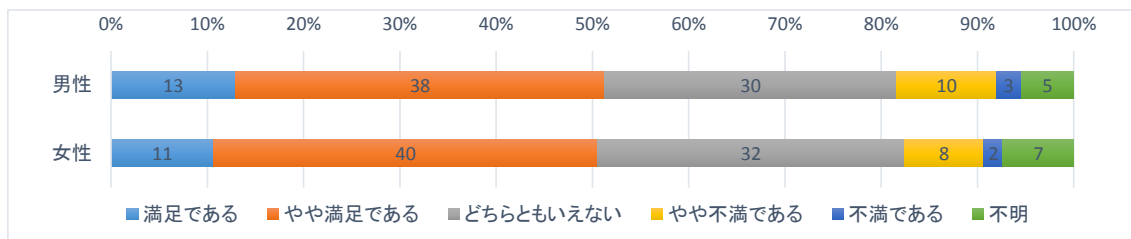
《地区別》



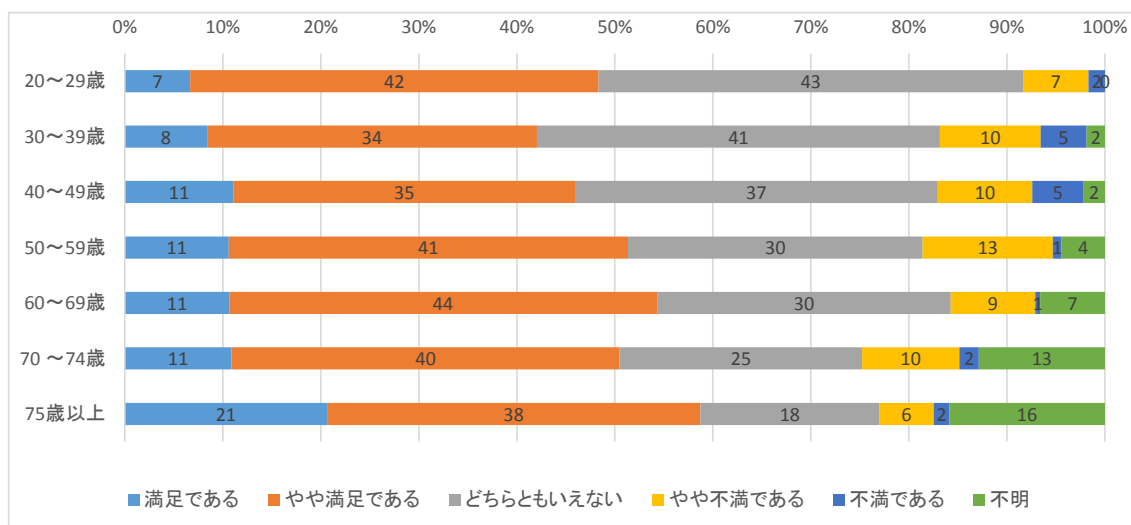
2) ごみの減量、リサイクルなど資源の有効利用の取組

■満足度

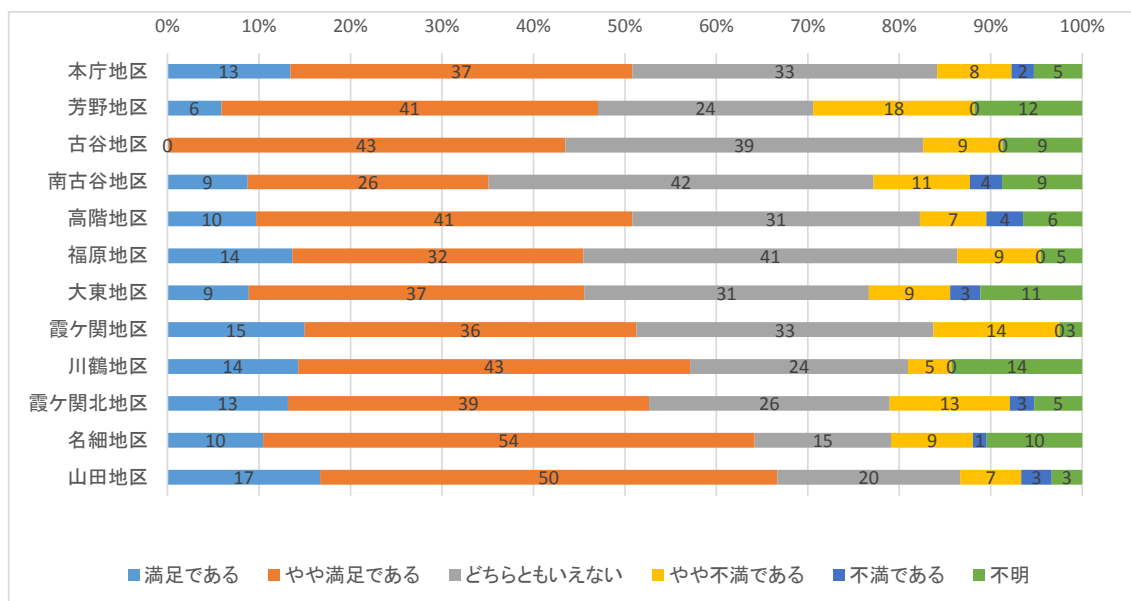
≪男女別≫



≪年齢別≫

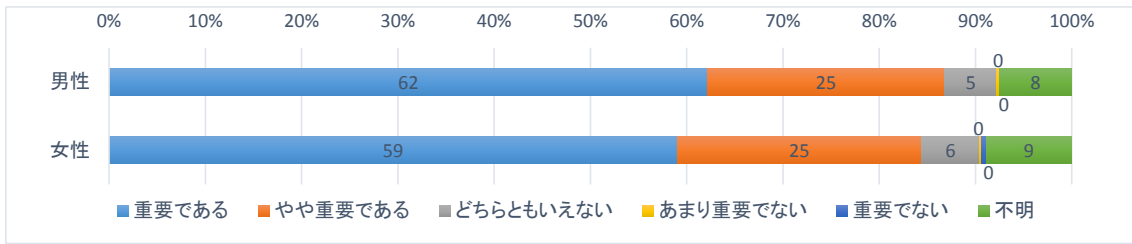


≪地区別≫

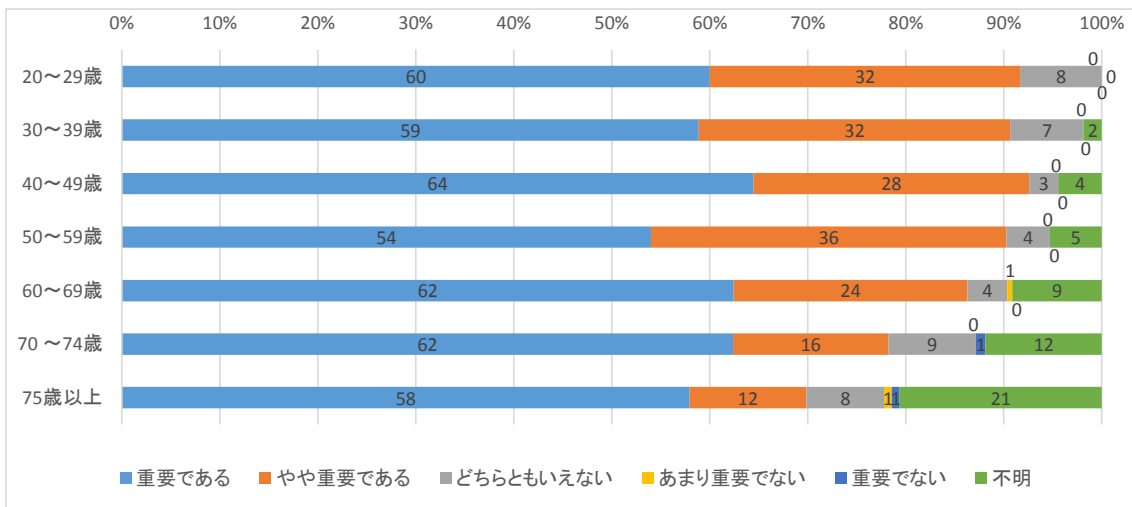


■重要度

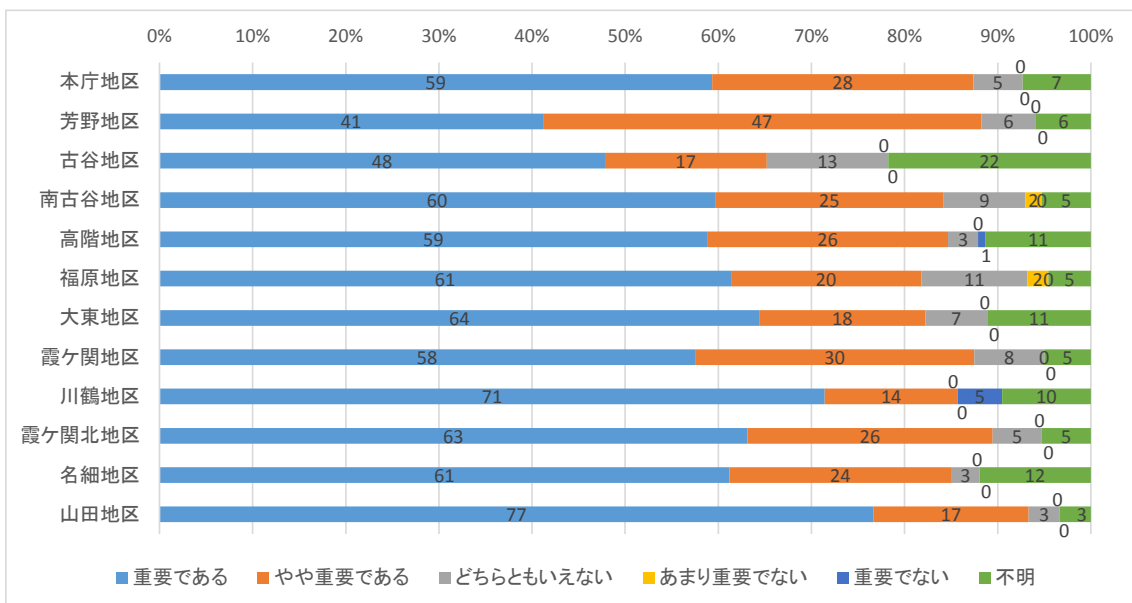
≪男女別≫



≪年齢別≫



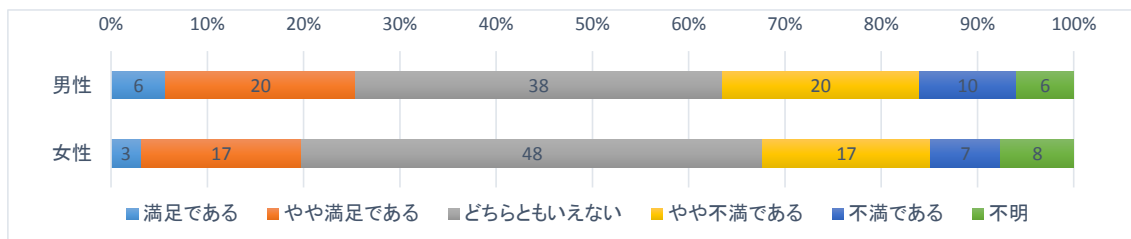
≪地区別≫



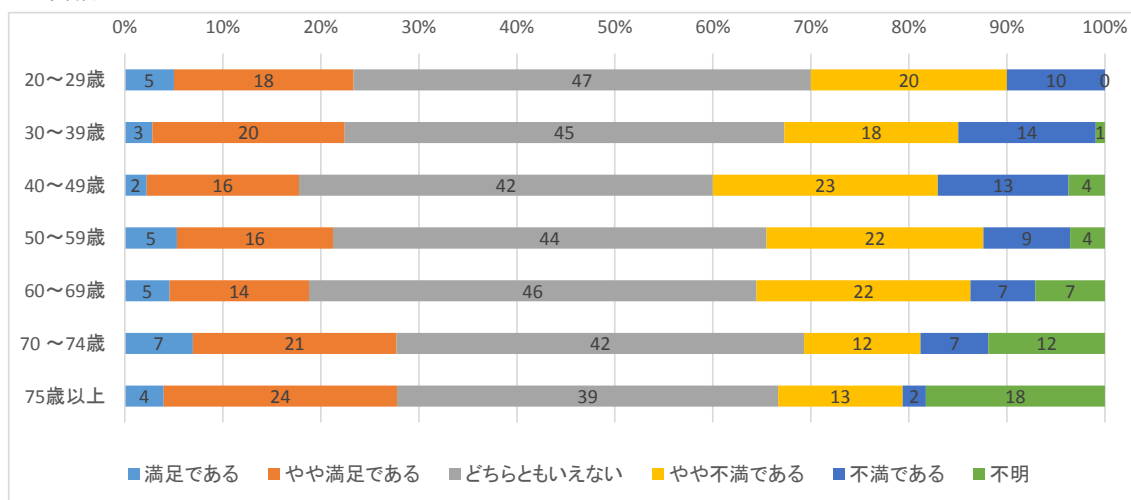
3) 人と環境にやさしい交通体系づくりの取組

■満足度

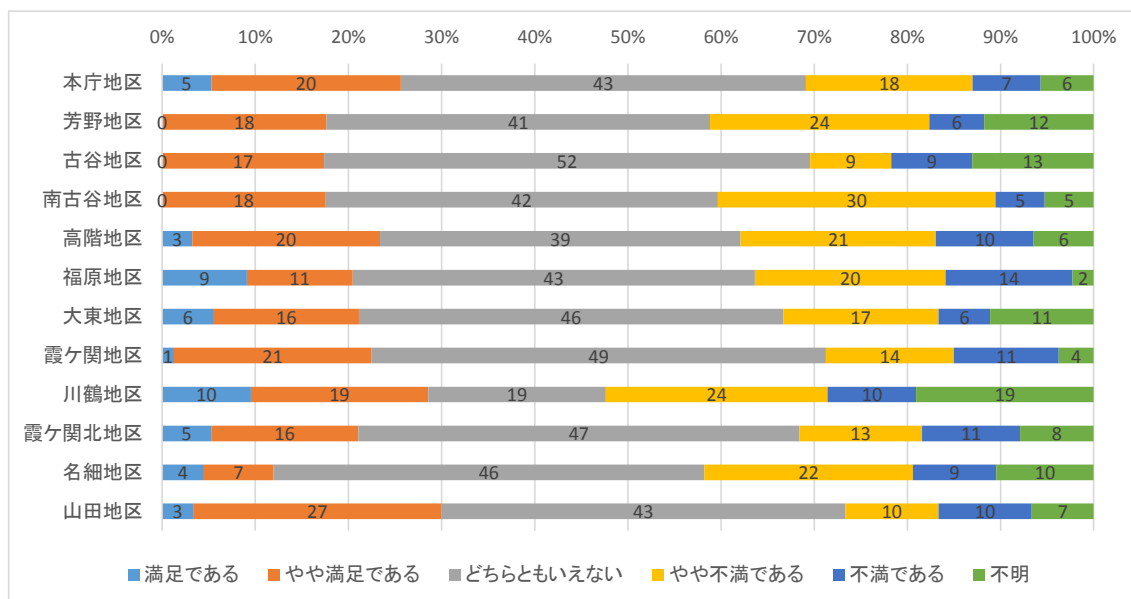
《男女別》



《年齢別》

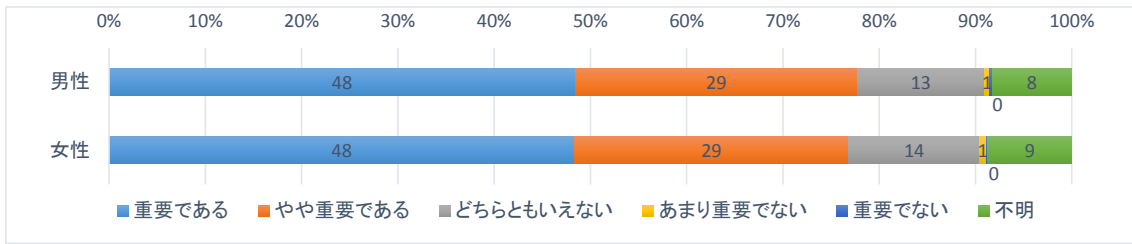


《地区別》

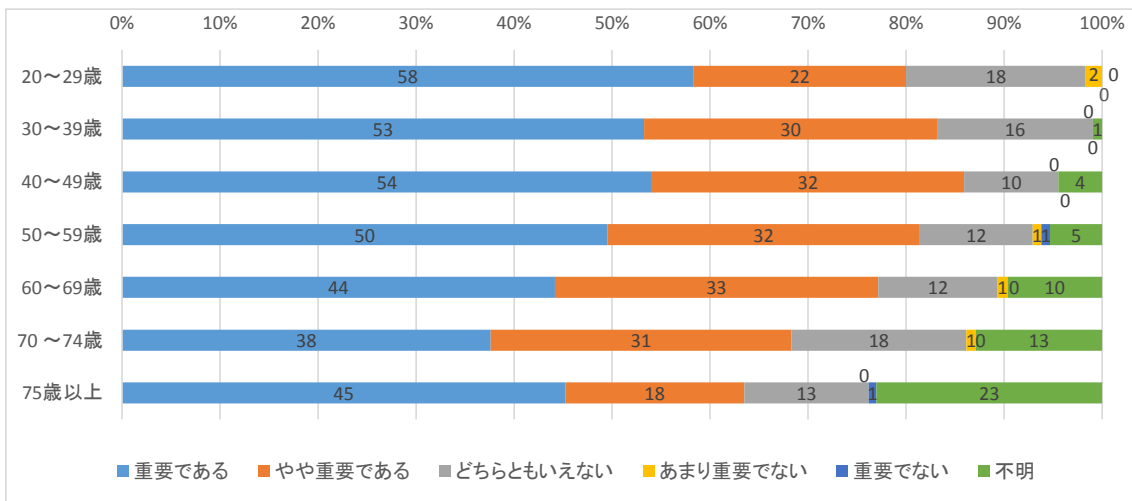


■重要度

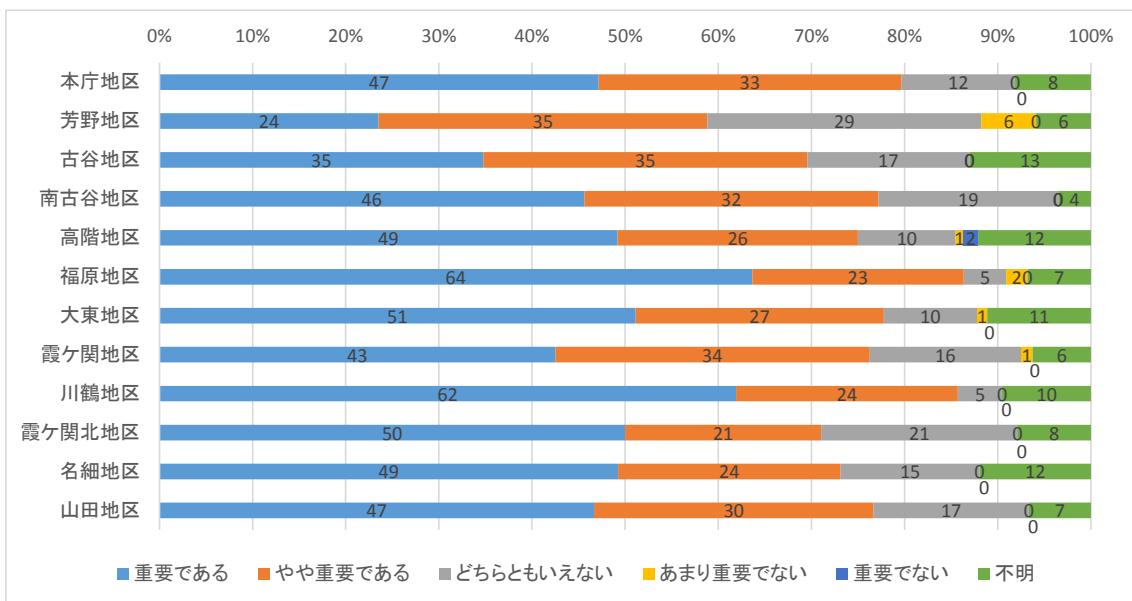
≪男女別≫



≪年齢別≫



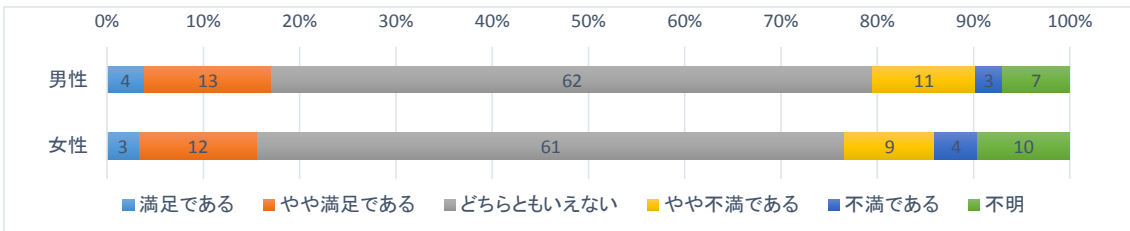
≪地区別≫



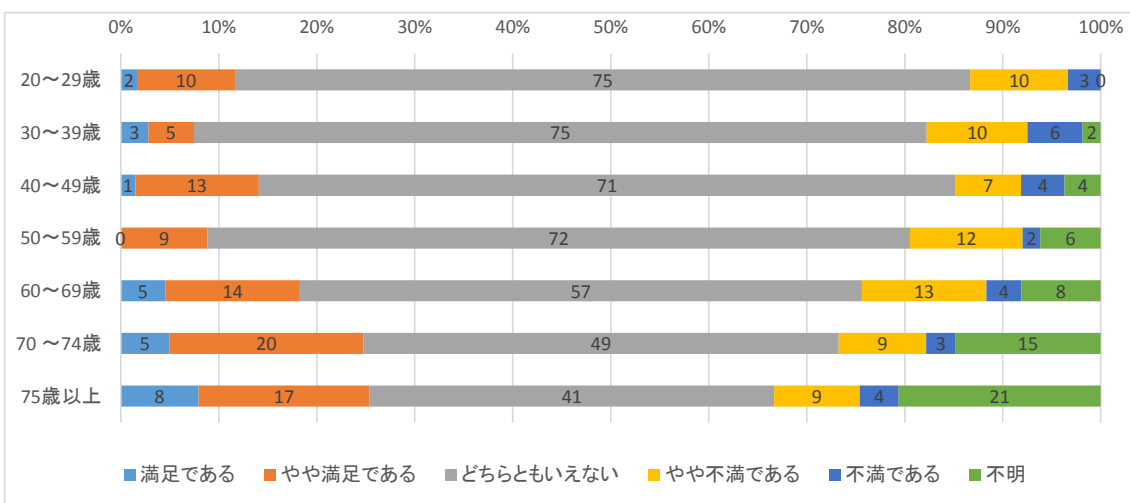
4) 有害な化学物質（ダイオキシン類など）によるリスクを下げる取組

■満足度

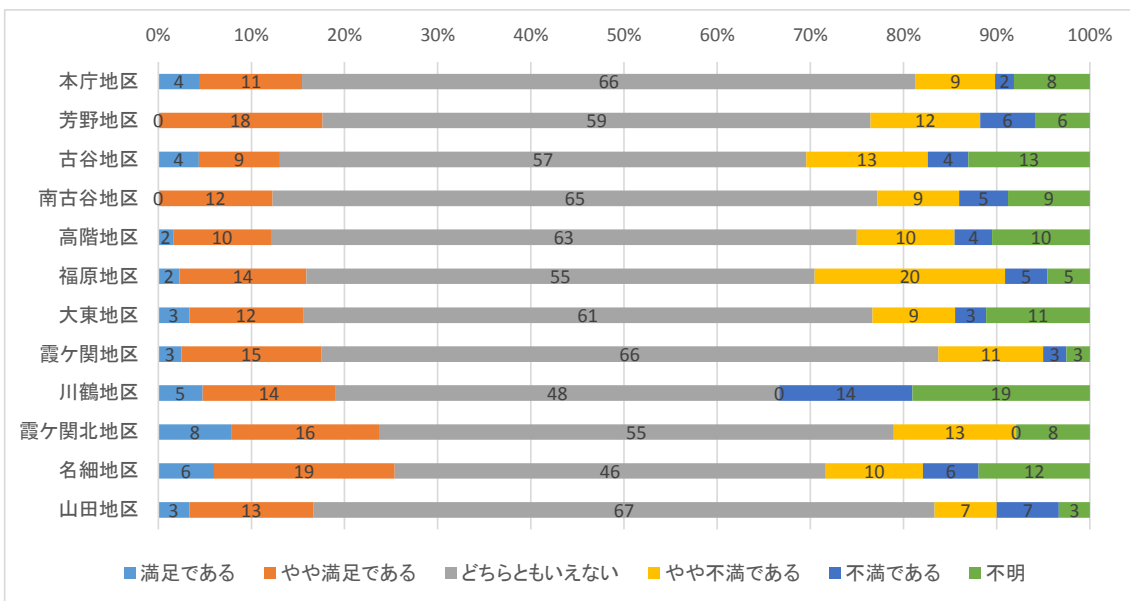
≪男女別≫



≪年齢別≫

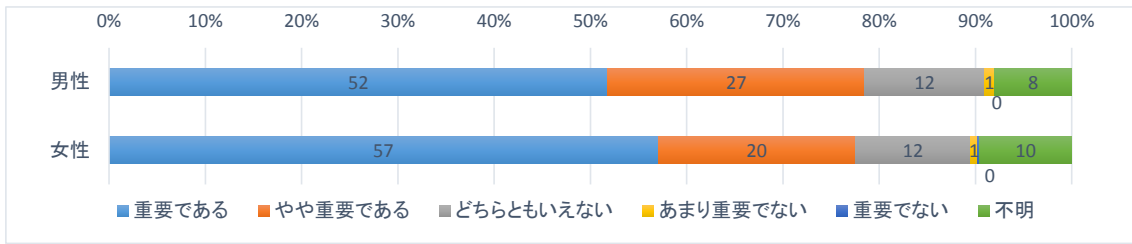


≪地区別≫

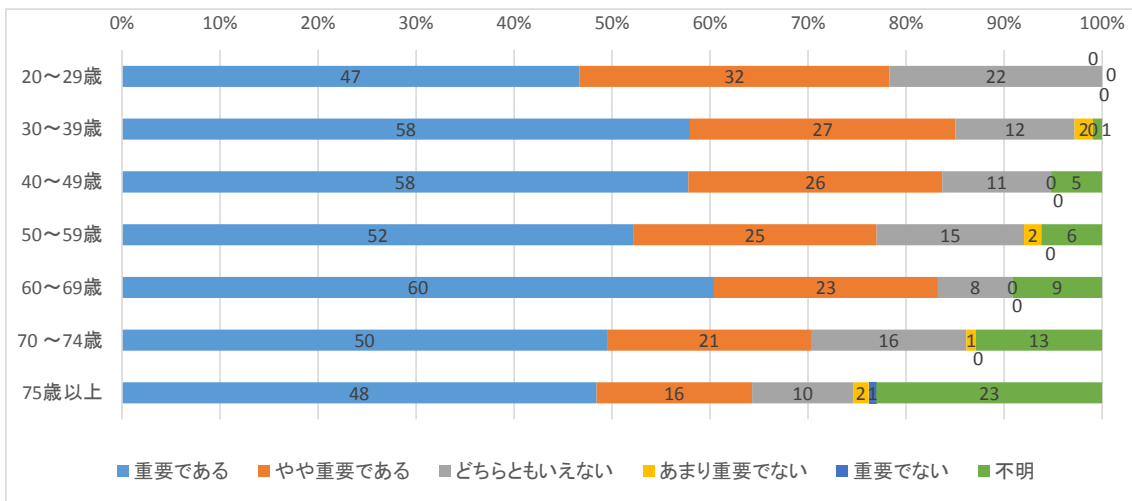


■重要度

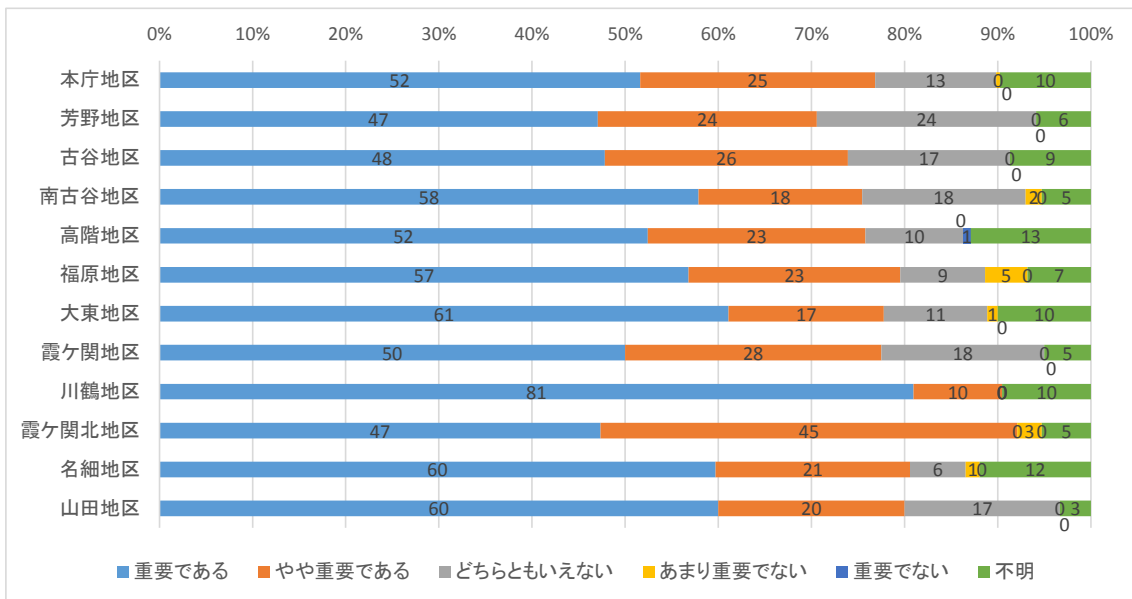
《男女別》



《年齢別》



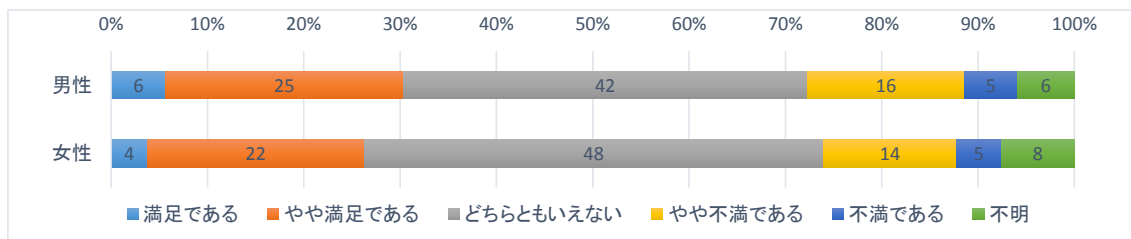
《地区別》



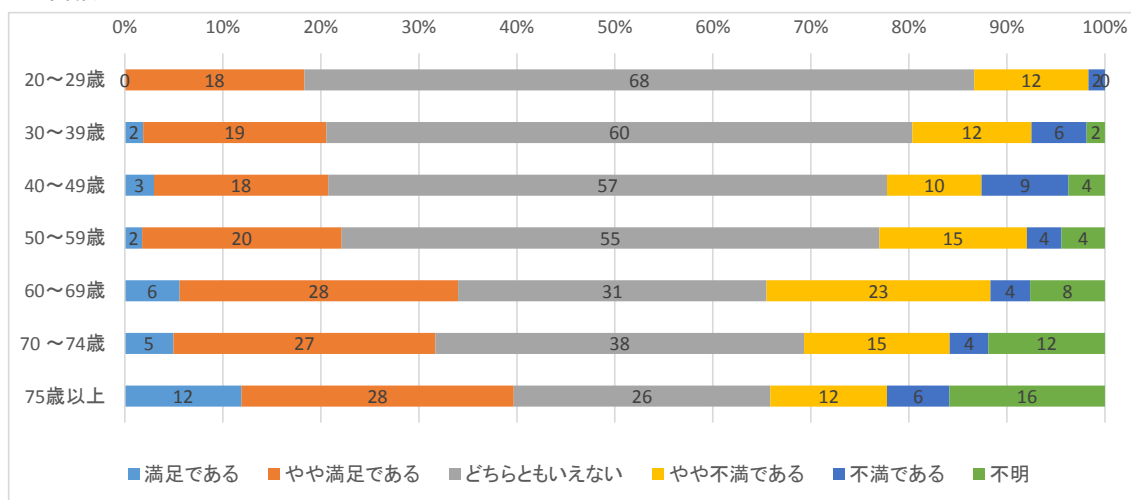
5) 河川など水辺の水質汚濁をなくし、身近な水辺環境を保全する取組

■満足度

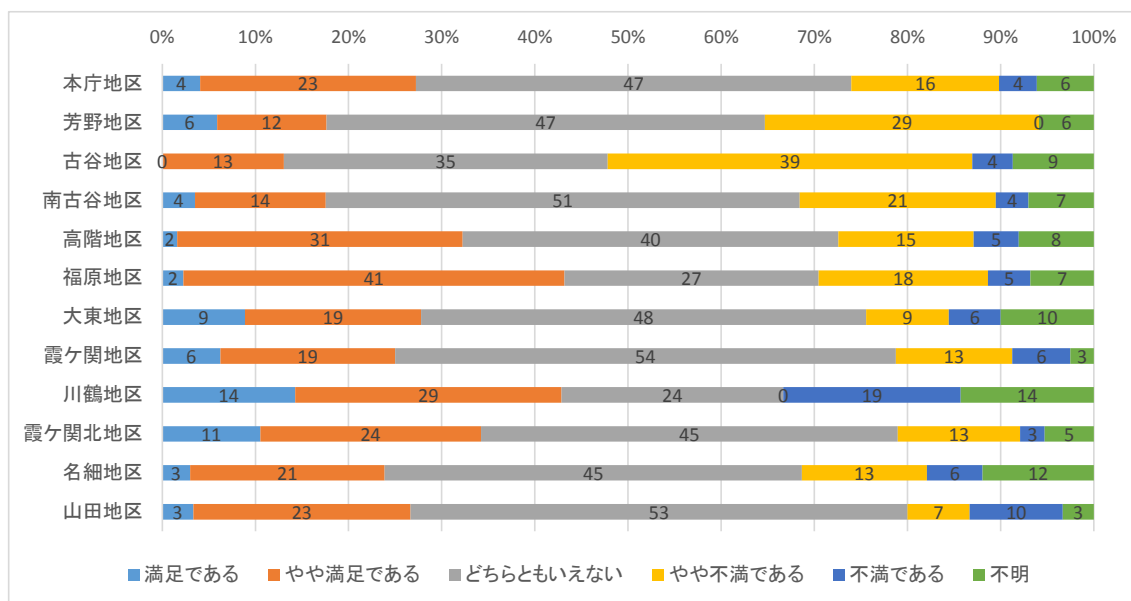
≪男女別≫



≪年齢別≫

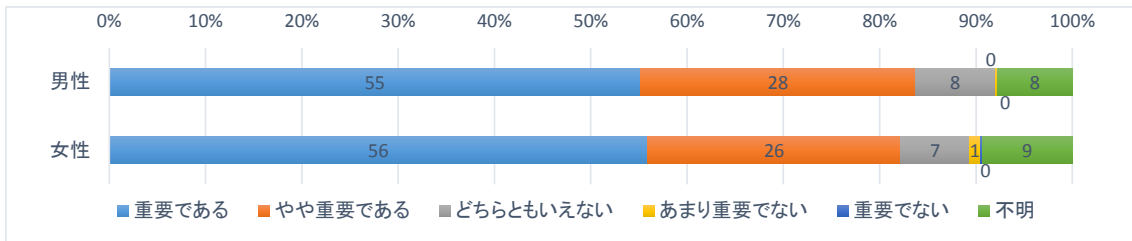


≪地区別≫

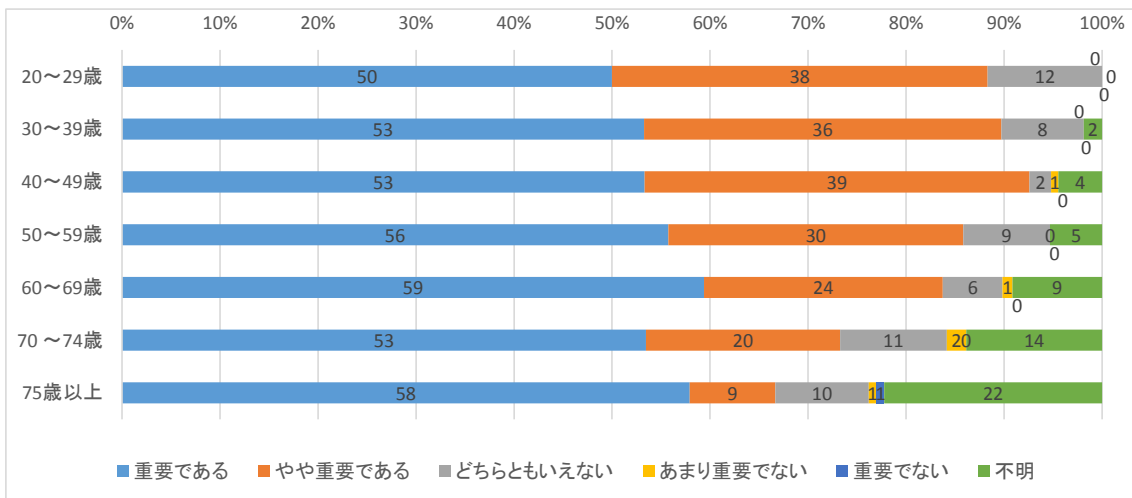


■重要度

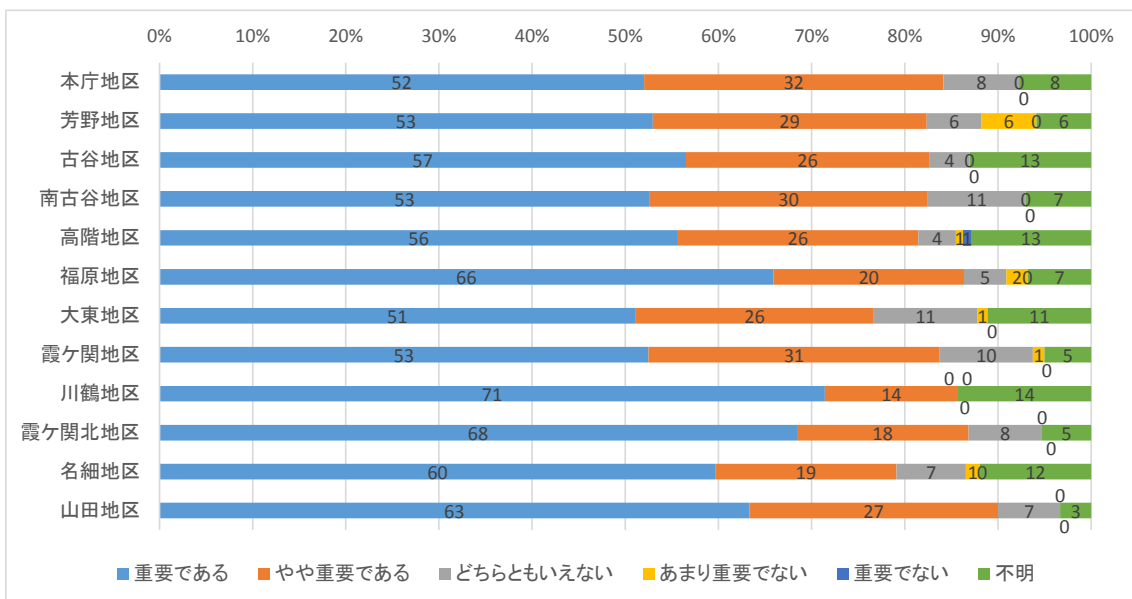
≪男女別≫



≪年齢別≫



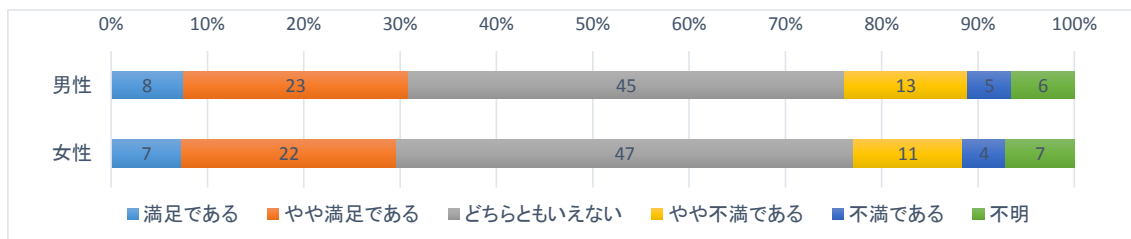
≪地区別≫



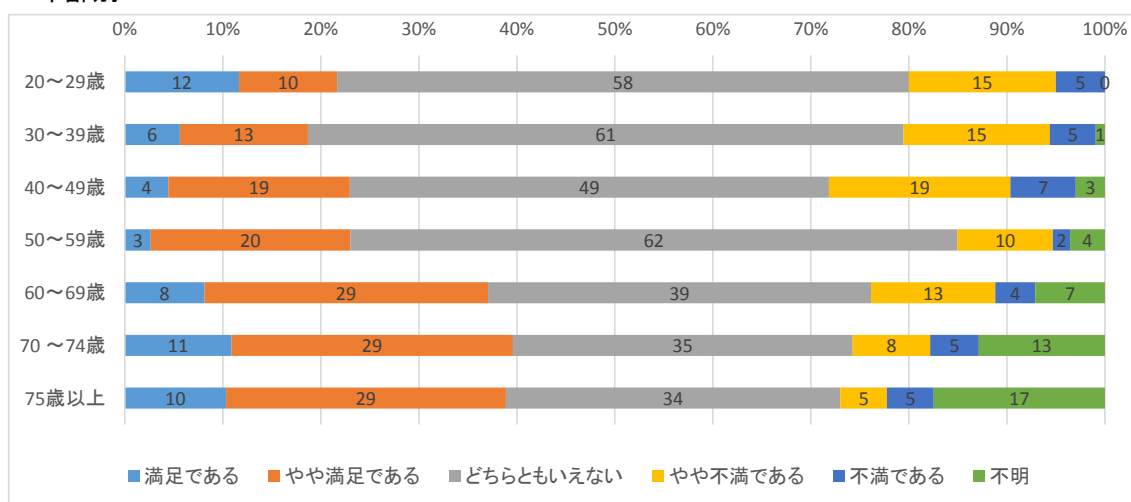
6) 健全な水の循環を確保し、集中豪雨などによる浸水被害を防止する取組

■満足度

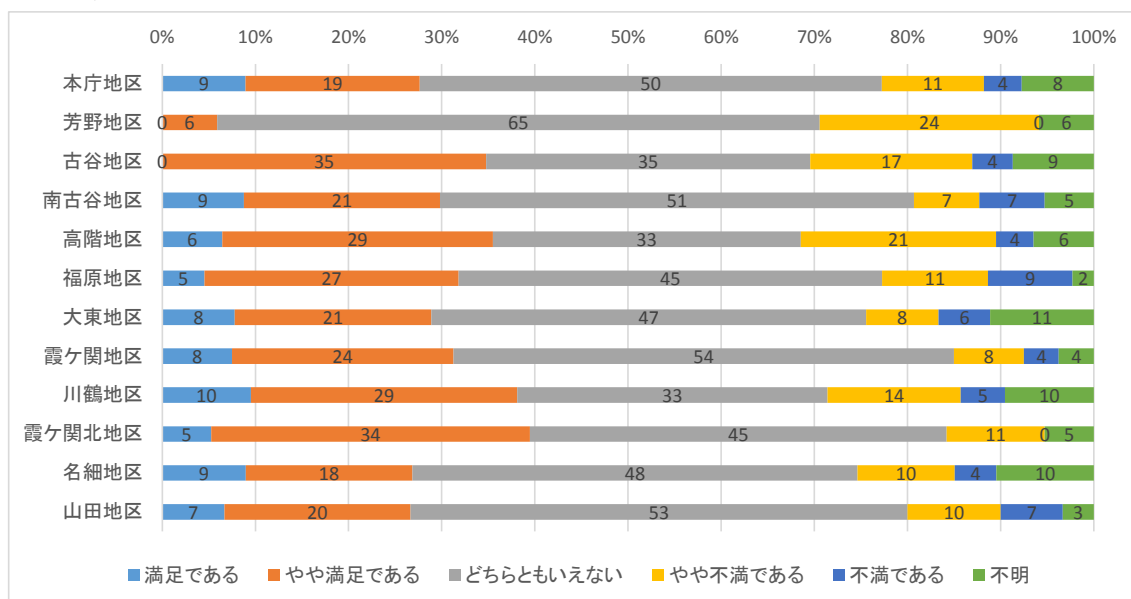
≪男女別≫



≪年齢別≫

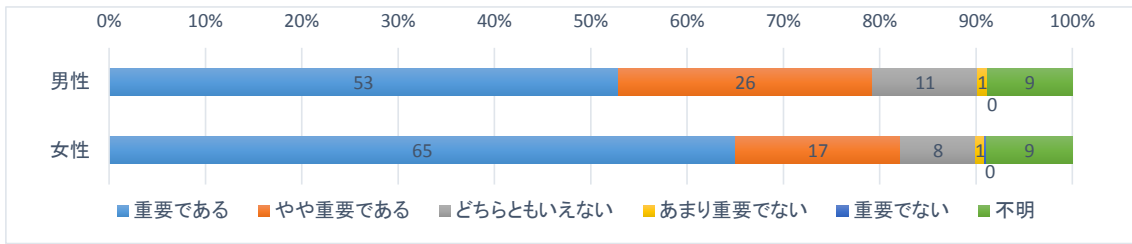


≪地区別≫

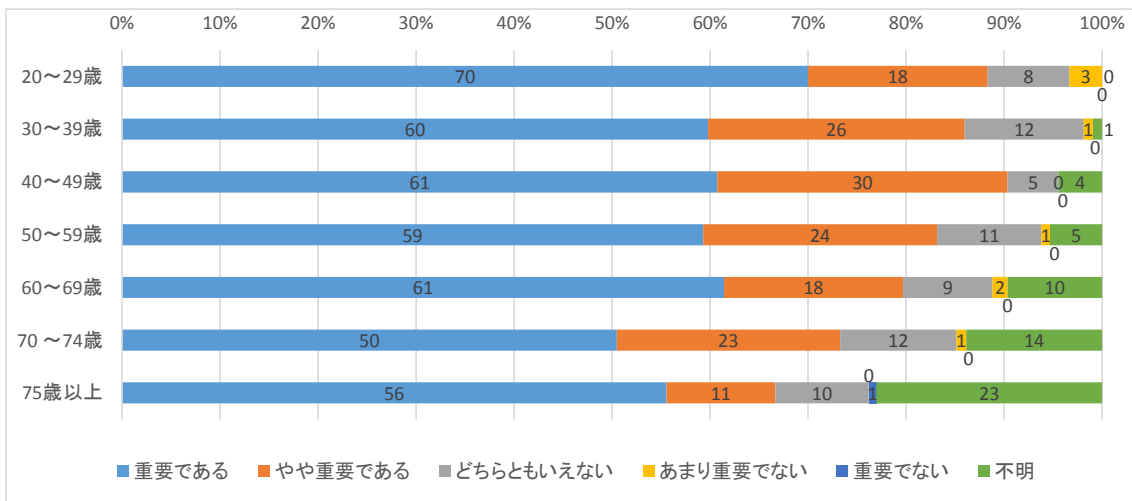


■重要度

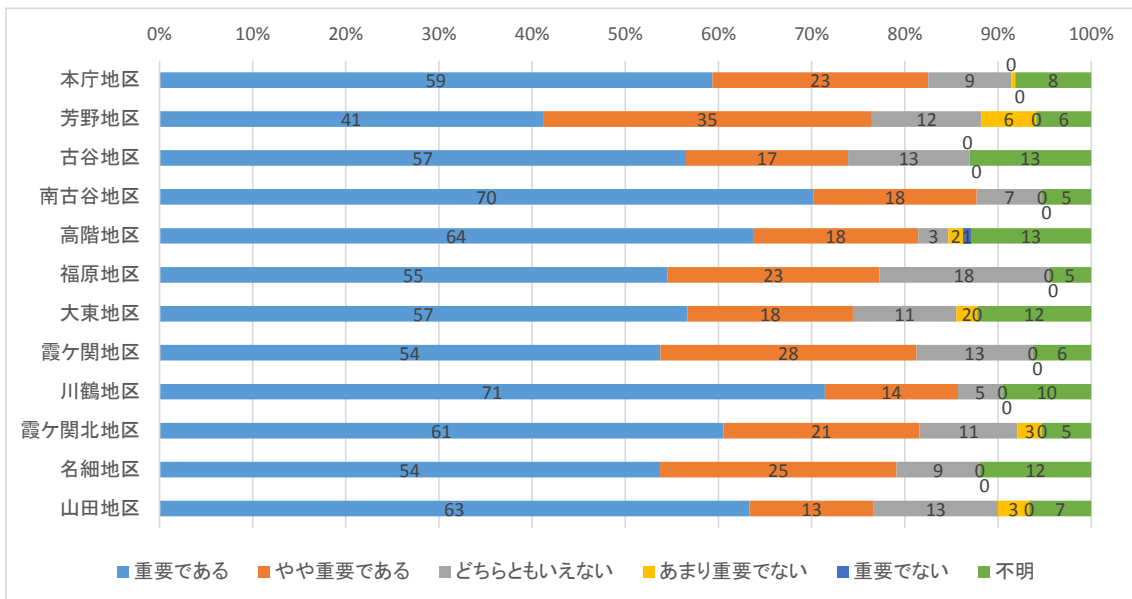
《男女別》



《年齢別》



《地区別》



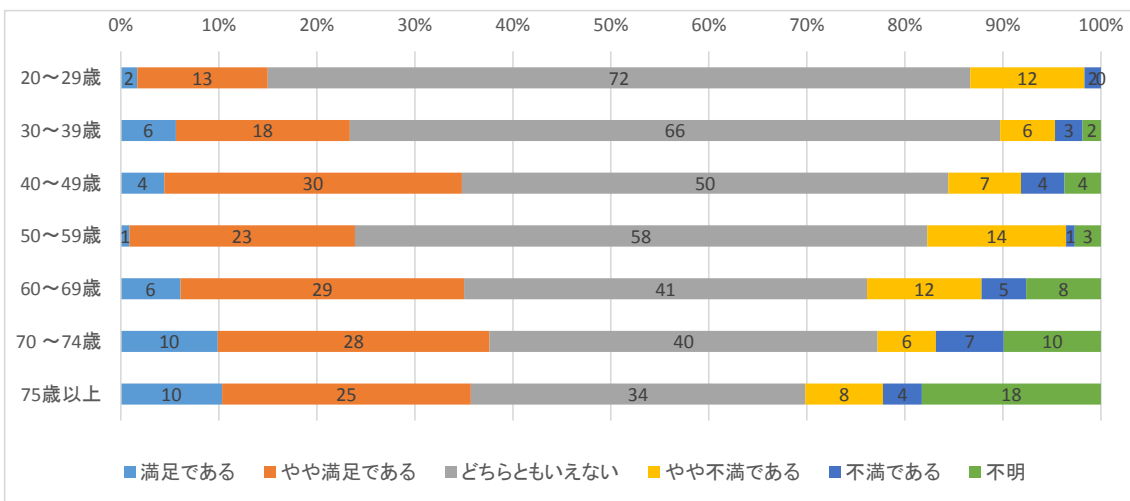
7) 武蔵野の面影を残す雑木林等を守る取組

■満足度

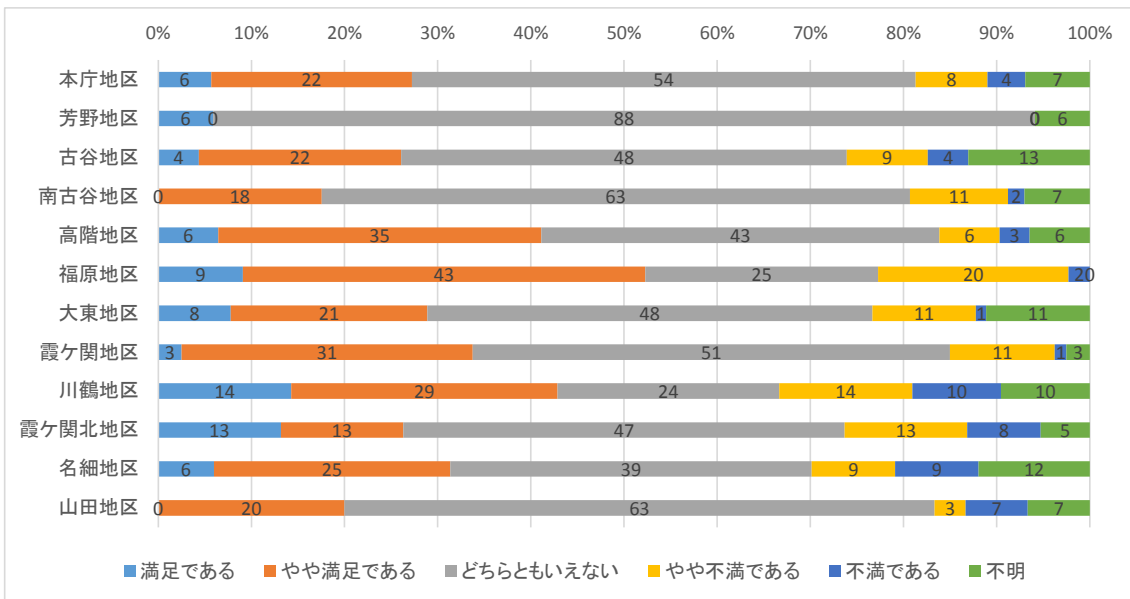
≪男女別≫



≪年齢別≫

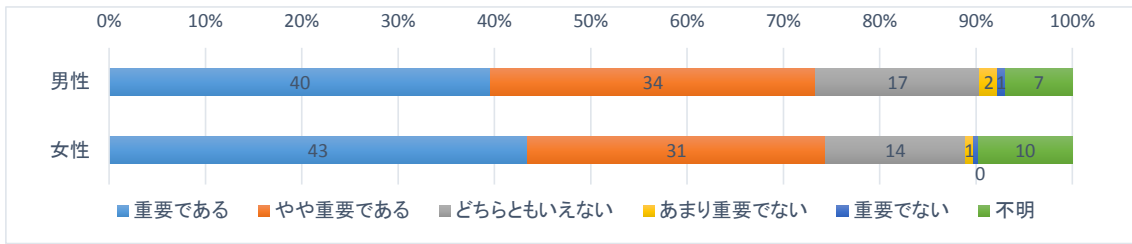


≪地区別≫

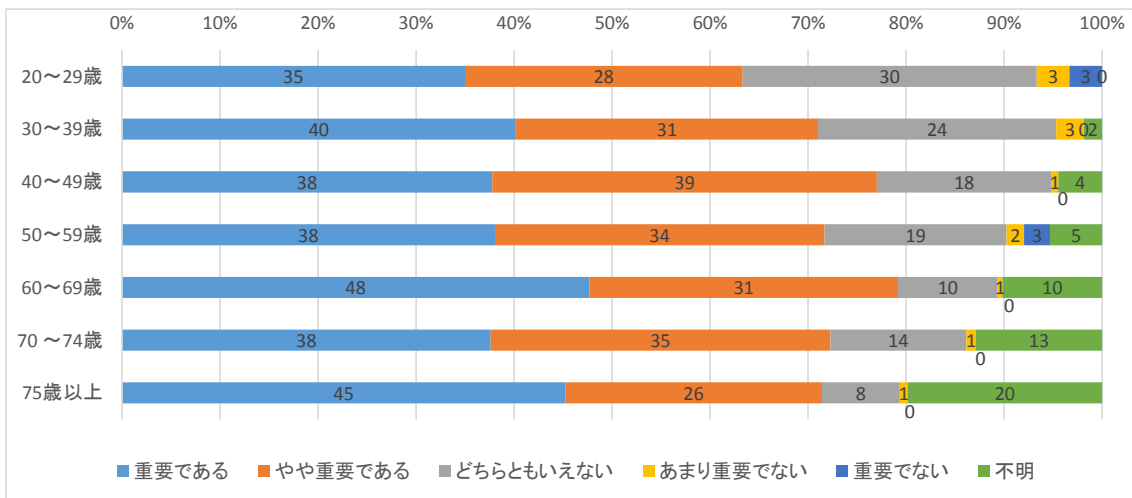


■重要度

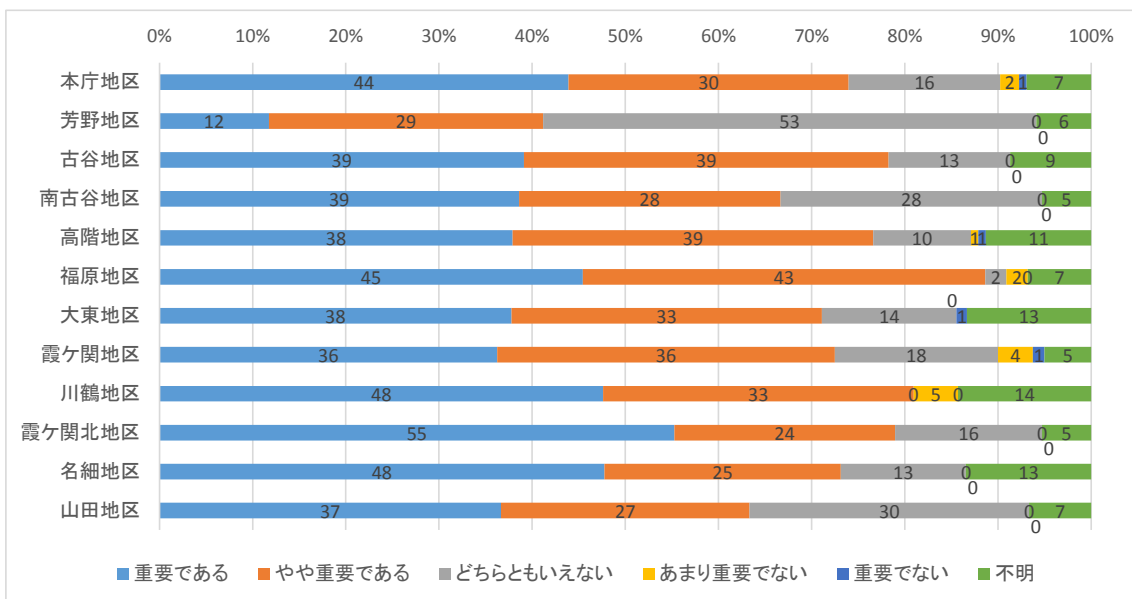
≪男女別≫



≪年齢別≫



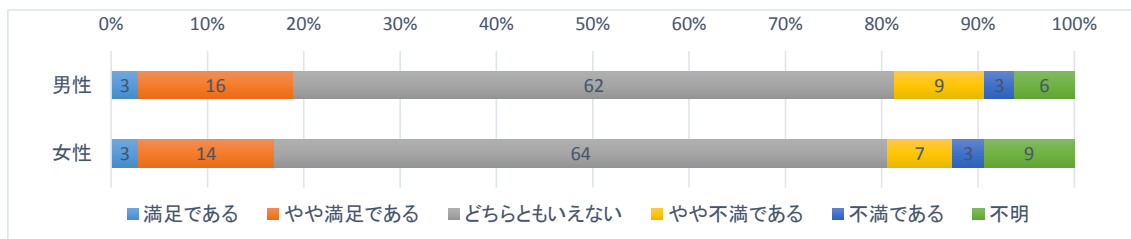
≪地区別≫



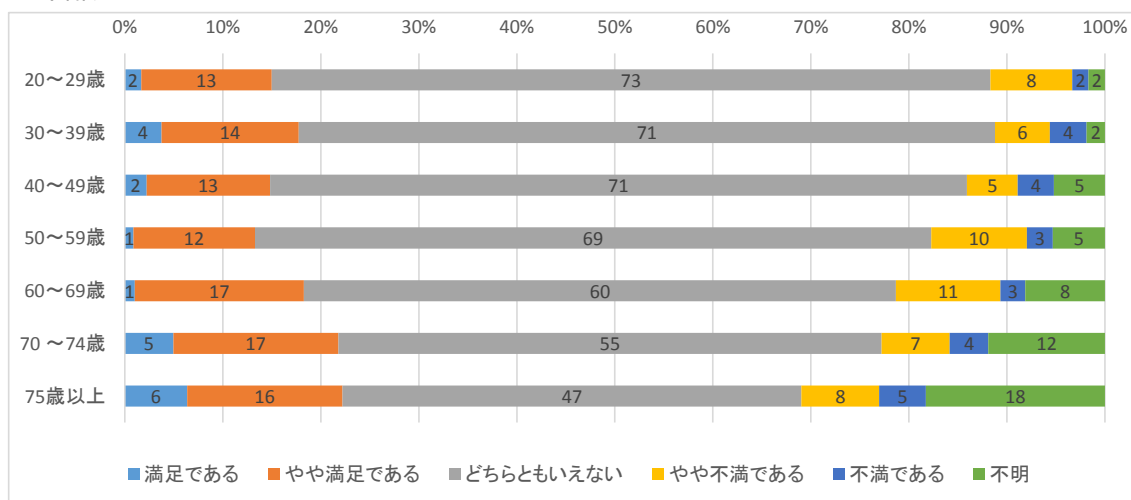
8) 自然環境の保全、身近な生き物との共生の取組

■満足度

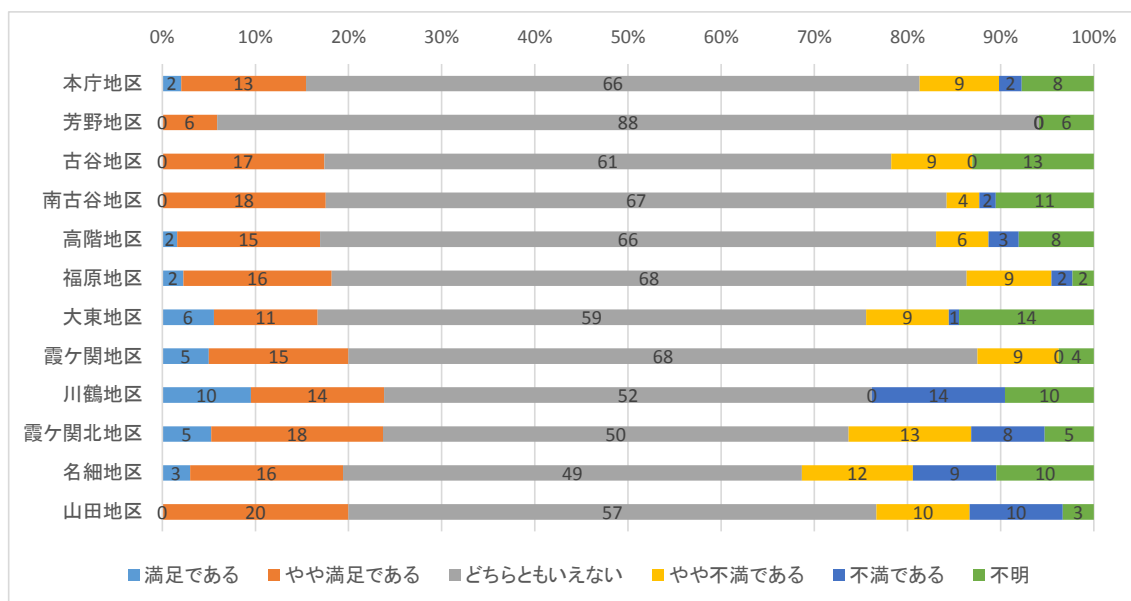
≪男女別≫



≪年齢別≫

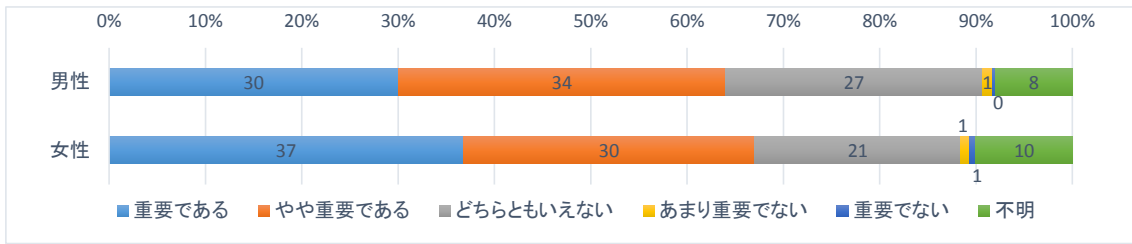


≪地区別≫

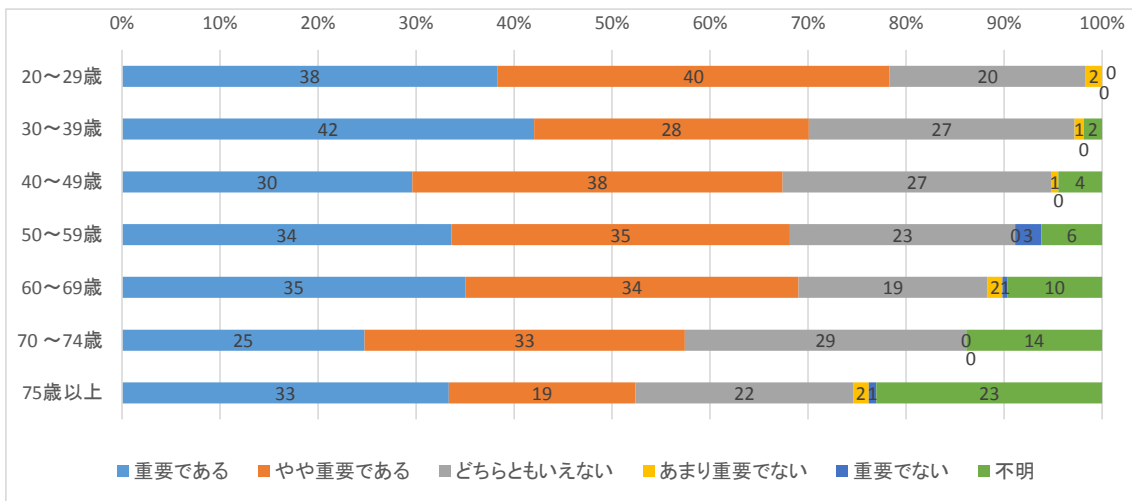


■重要度

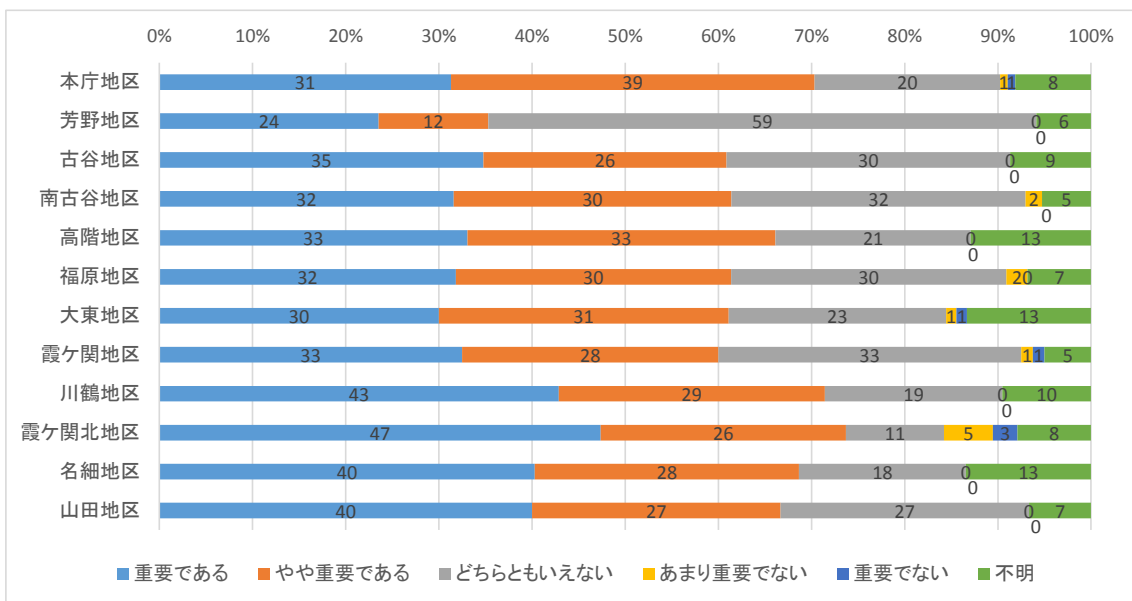
≪男女別≫



≪年齢別≫



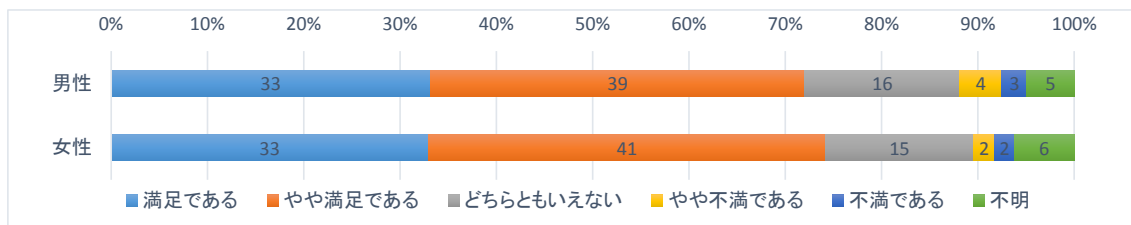
≪地区別≫



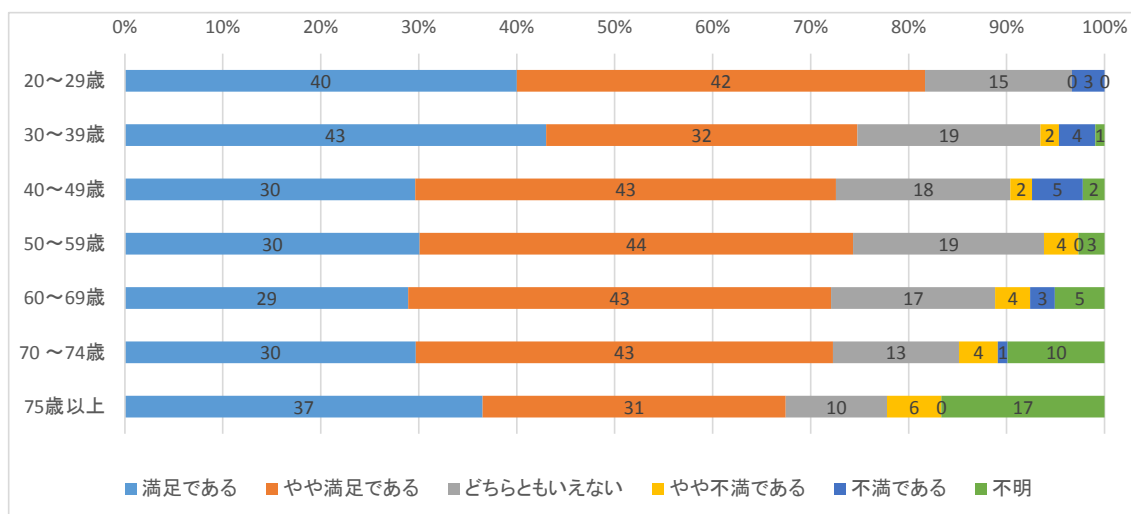
9) 時の鐘や菓子屋横丁など、歴史的・文化的なまちなみを継承する取組

■満足度

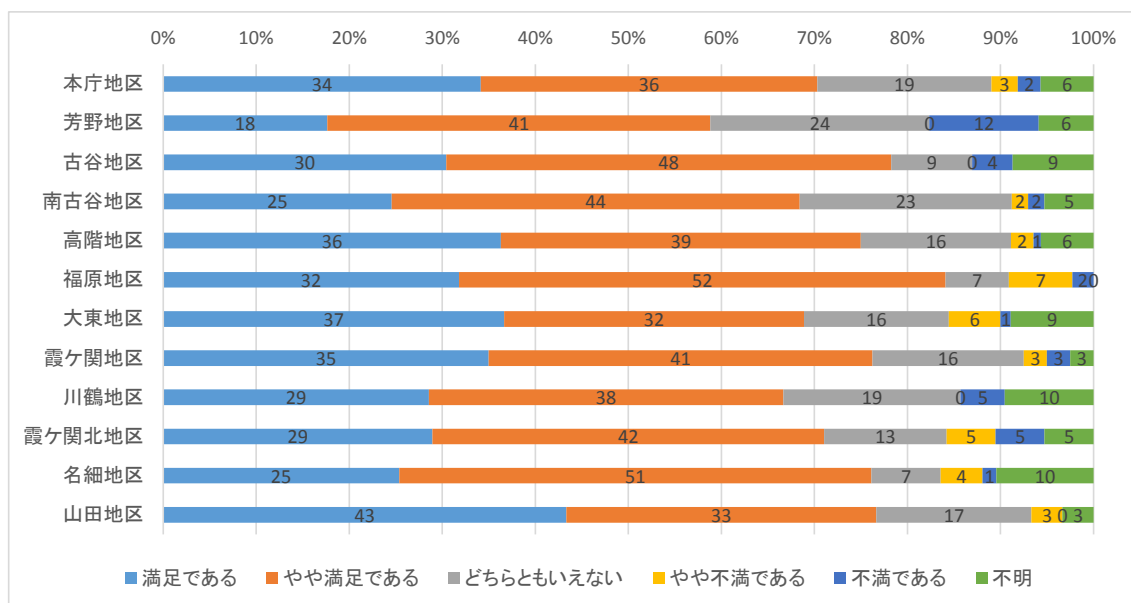
≪男女別≫



≪年齢別≫

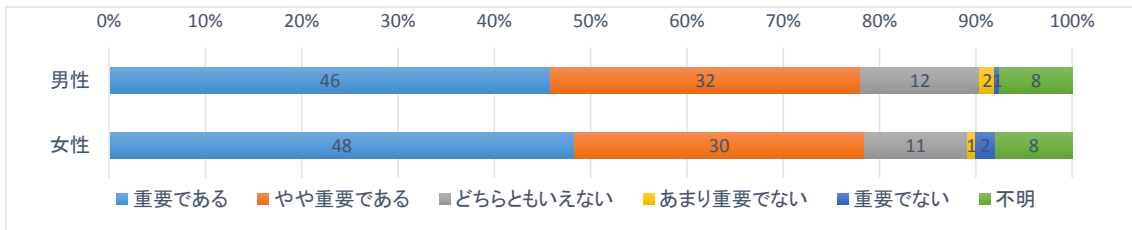


≪地区別≫

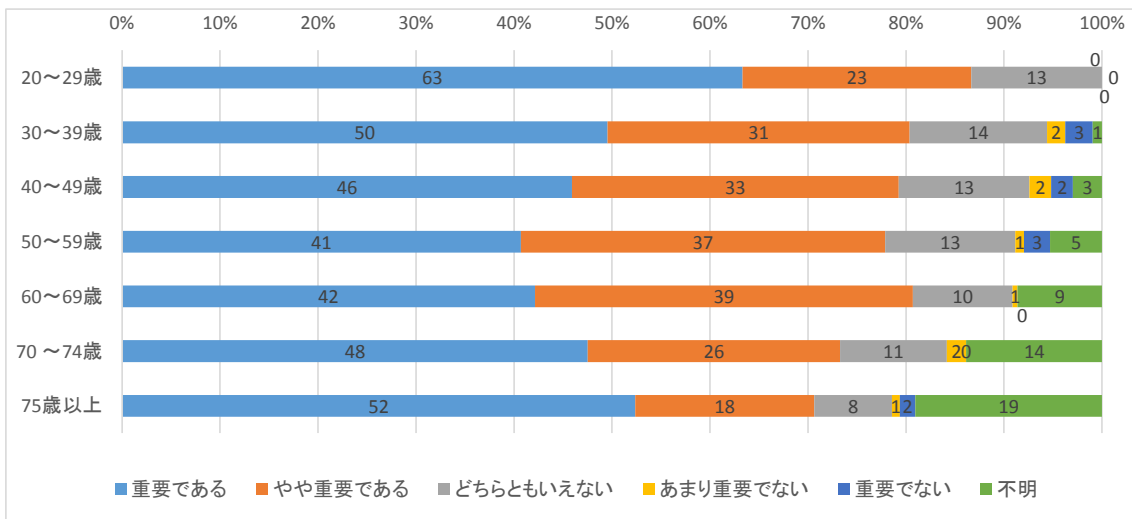


■重要度

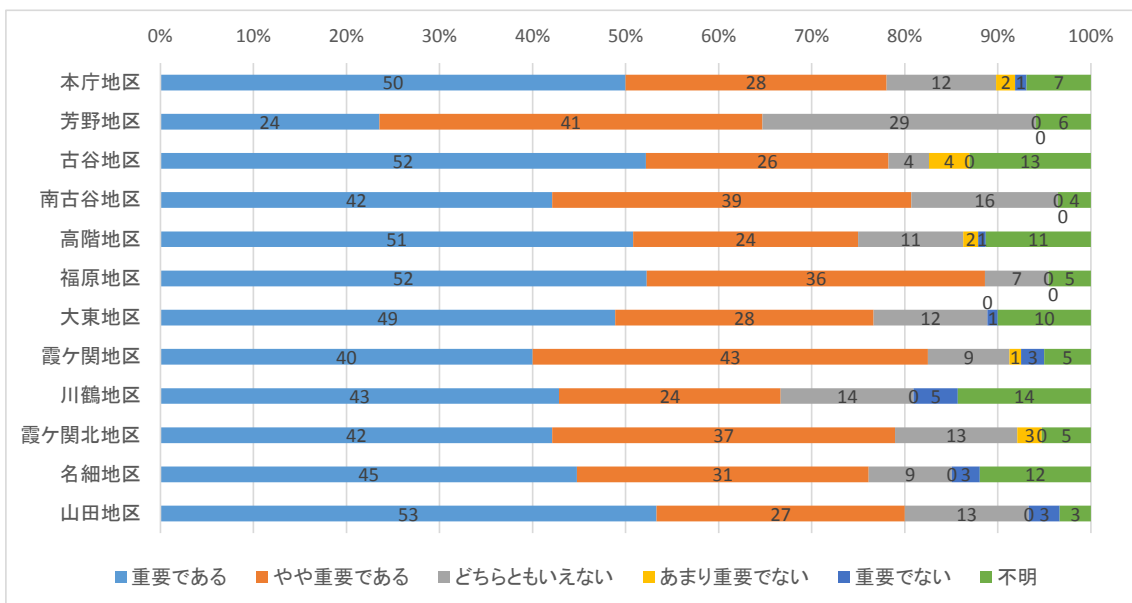
≪男女別≫



≪年齢別≫



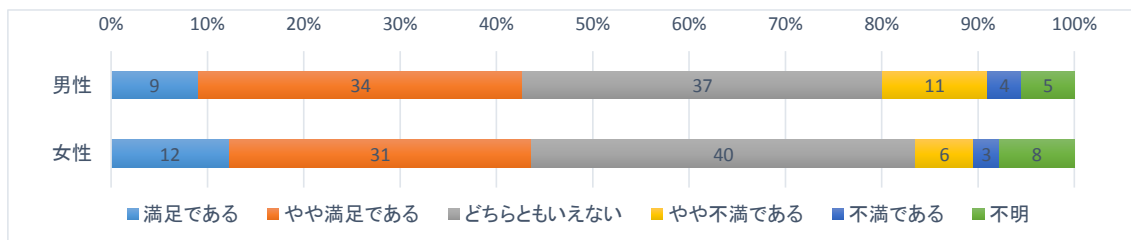
≪地区別≫



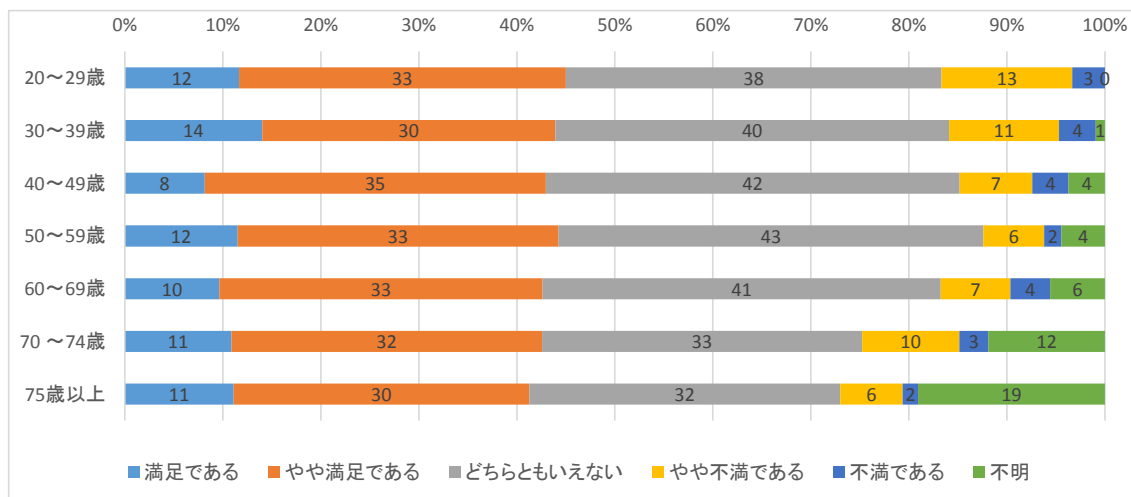
10) 良好な都市景観の形成を図り、音風景の保全、都市緑化・美化など都市のうるおいを創造する取組

■満足度

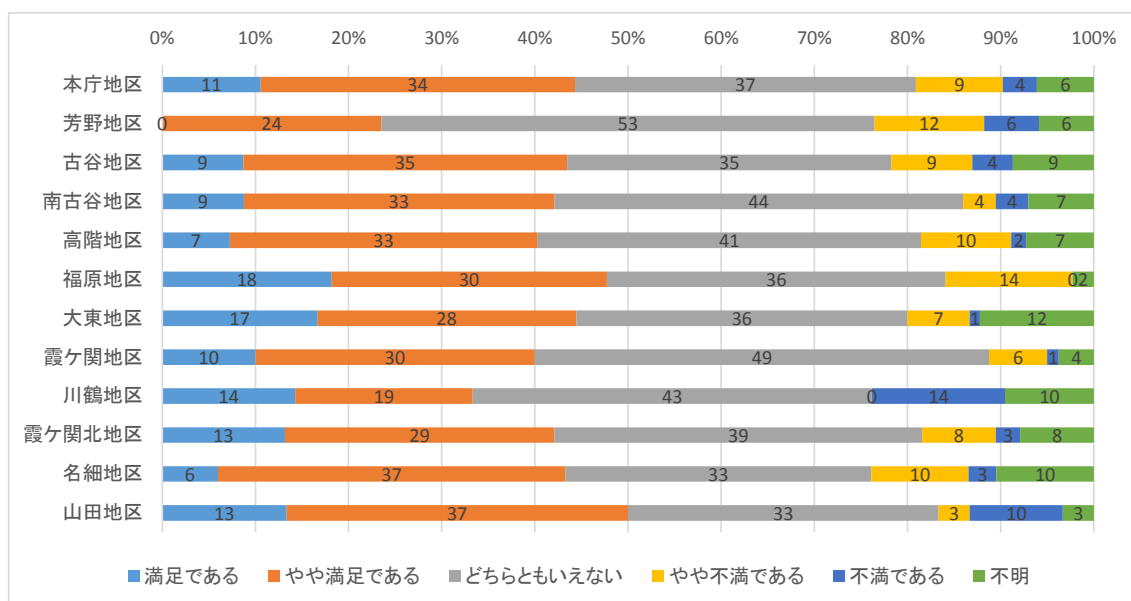
《男女別》



《年齢別》

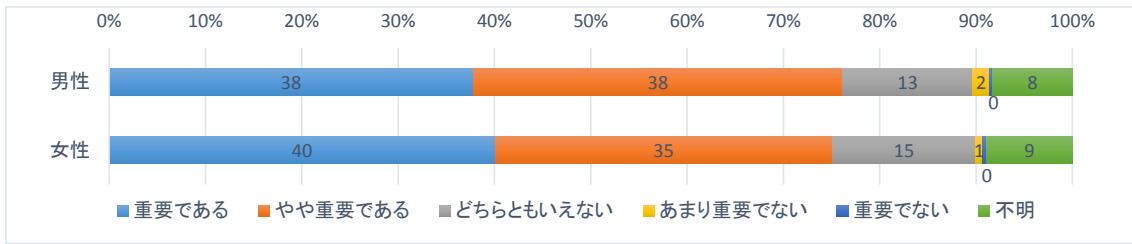


《地区別》

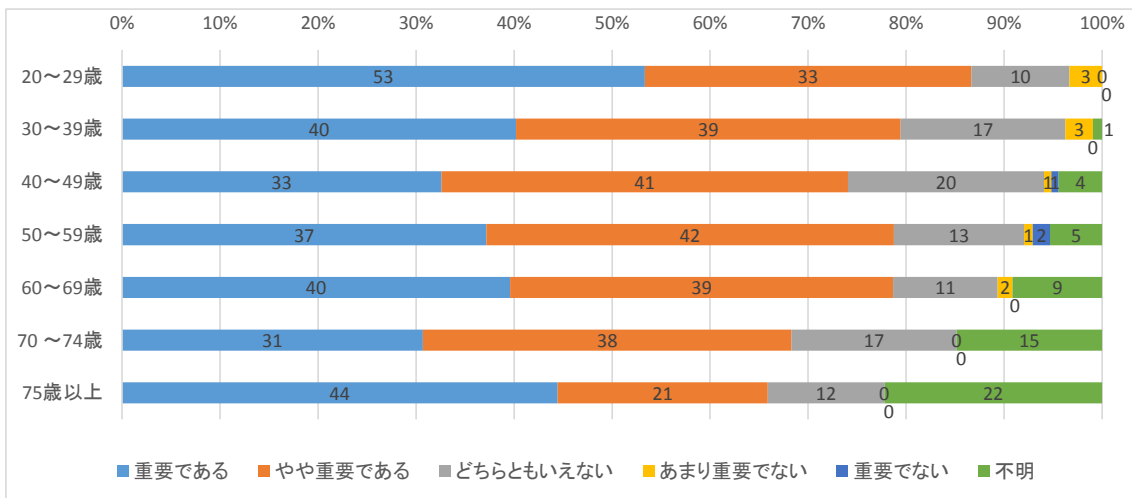


■重要度

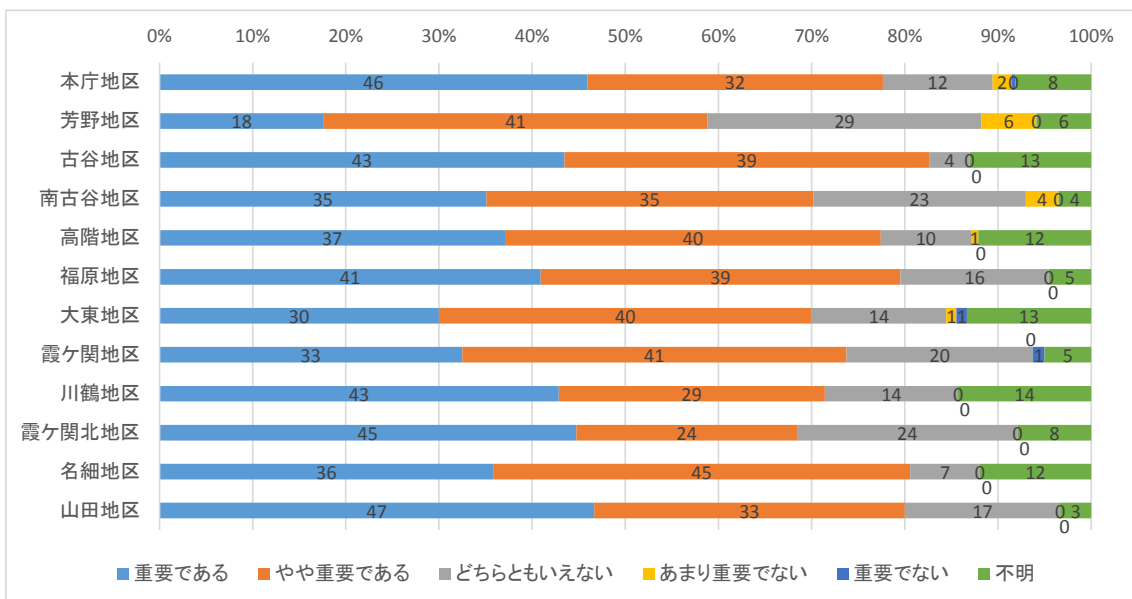
《男女別》



《年齢別》



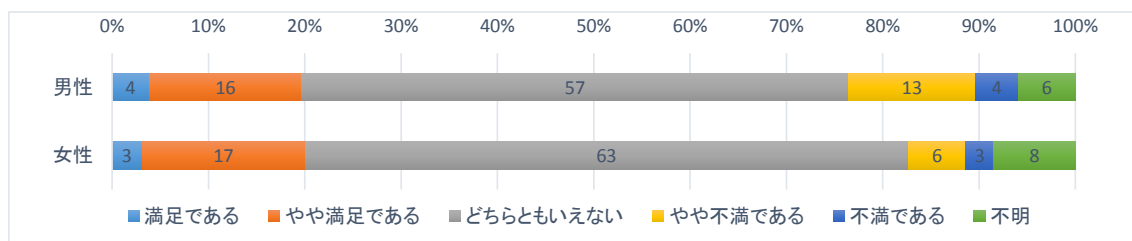
《地区別》



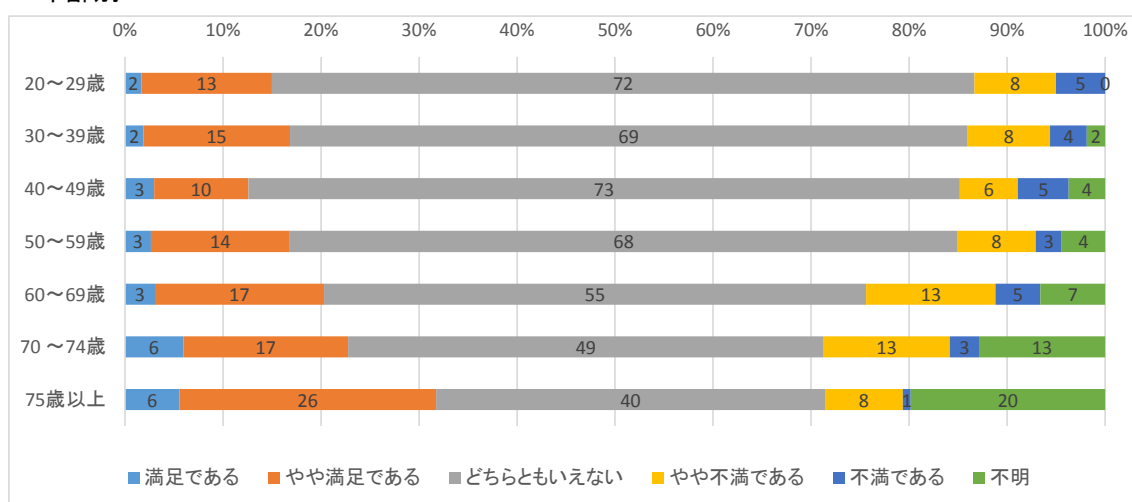
11) 環境情報の提供や環境教育・環境学習の機会を推進する取組

■満足度

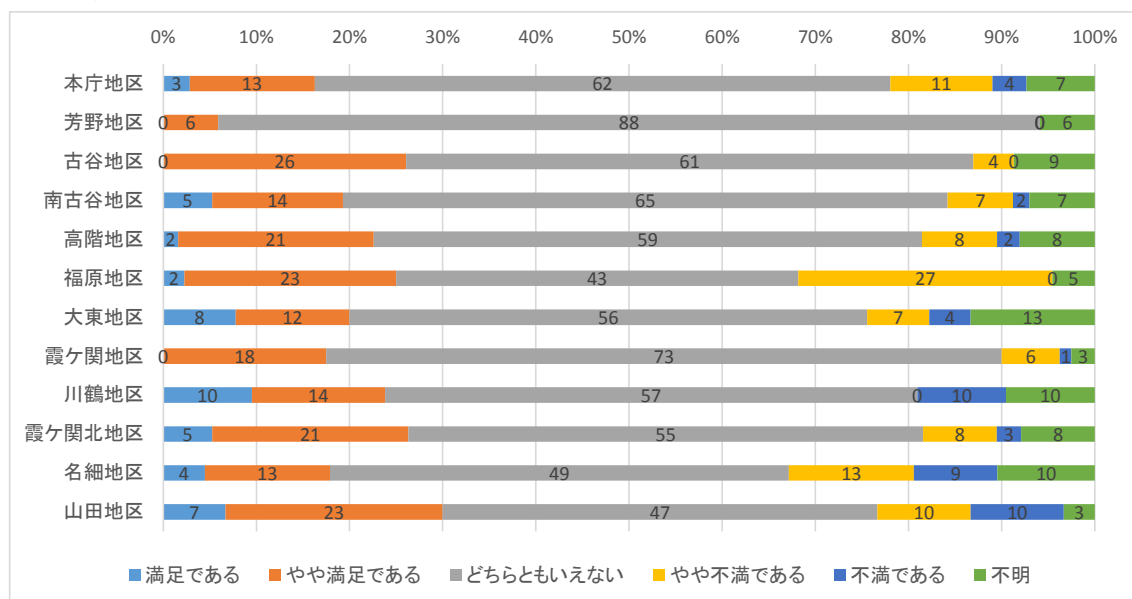
≪男女別≫



≪年齢別≫

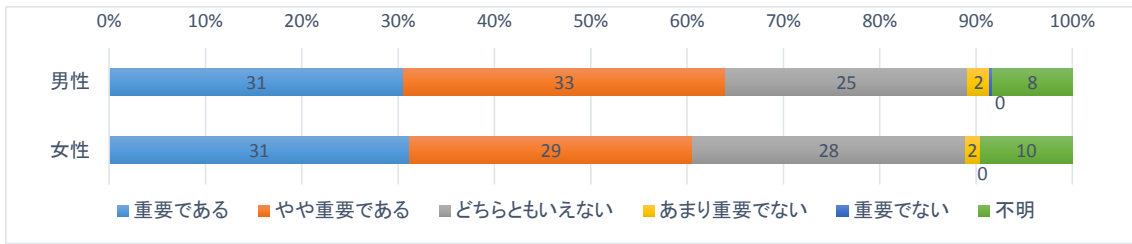


≪地区別≫

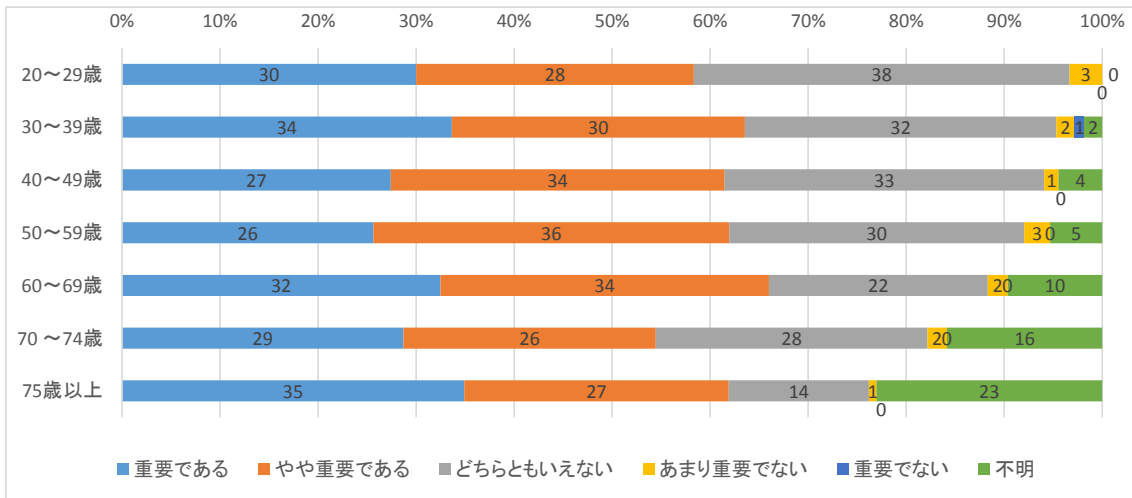


■重要度

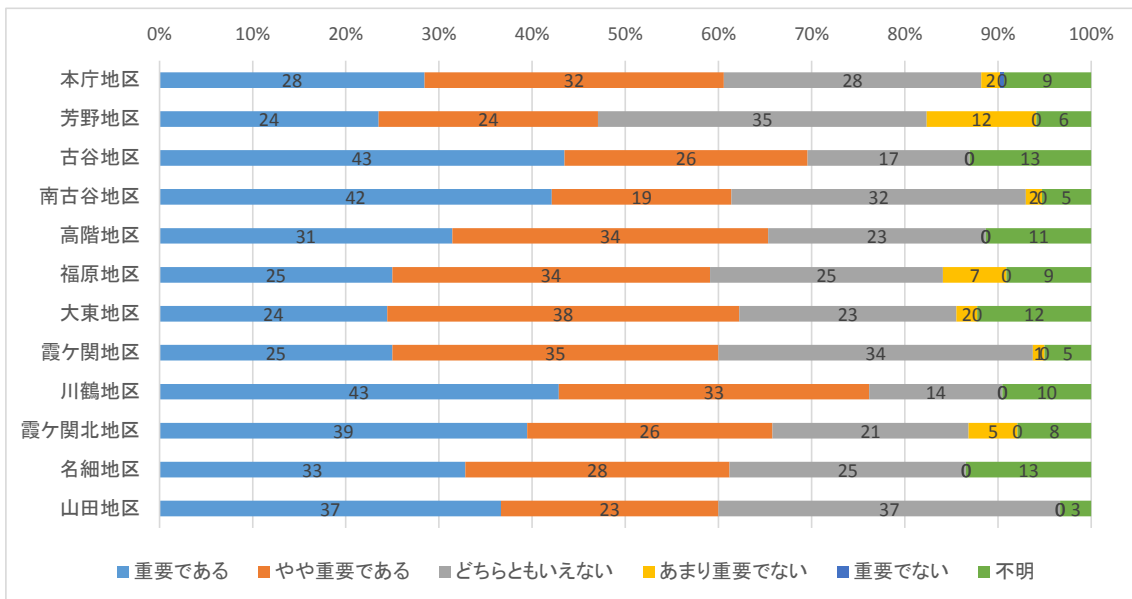
《男女別》



《年齢別》



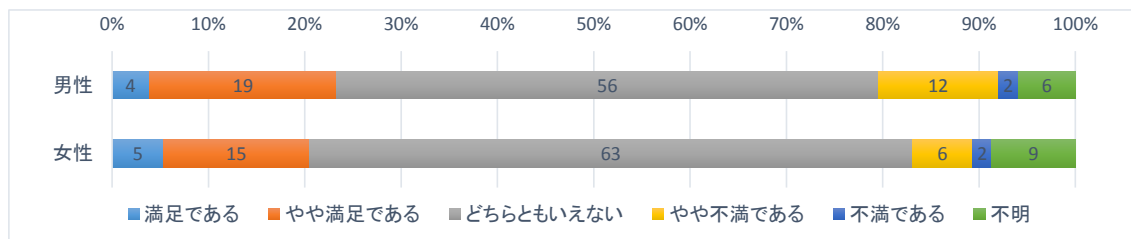
《地区別》



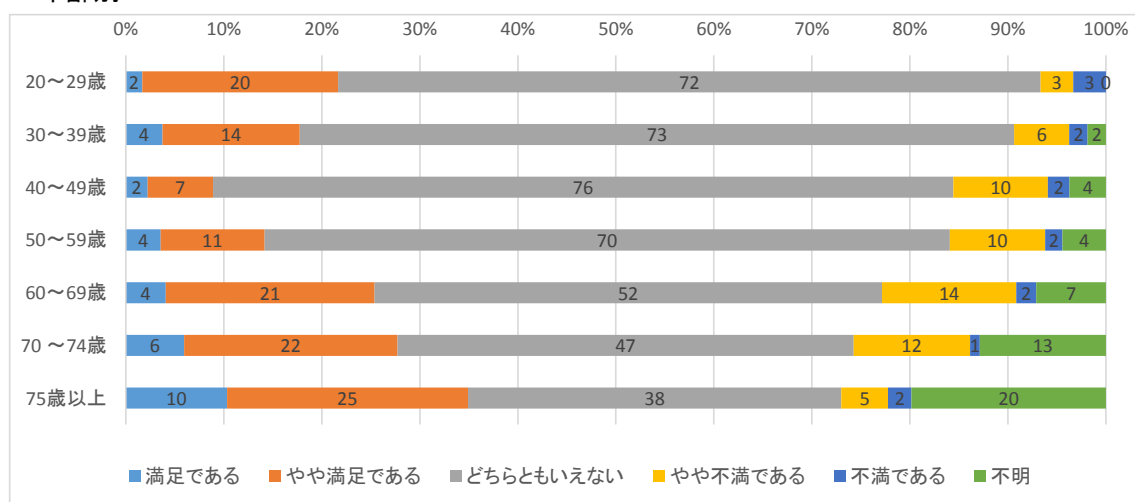
12) 市民・事業者・民間団体・市の協働による環境活動を推進する取組

■満足度

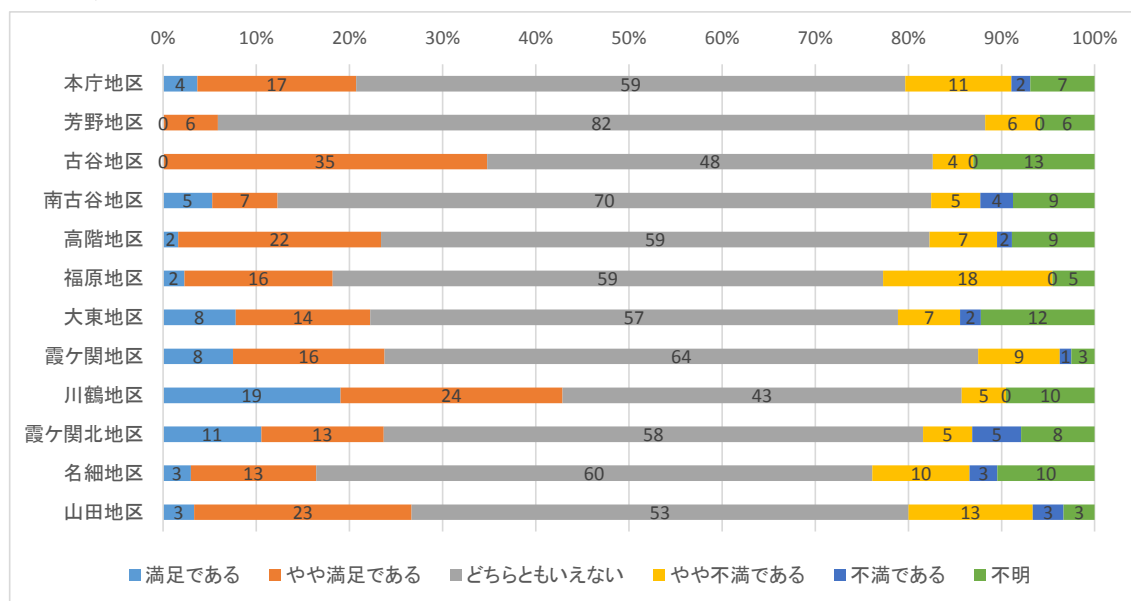
《男女別》



《年齢別》

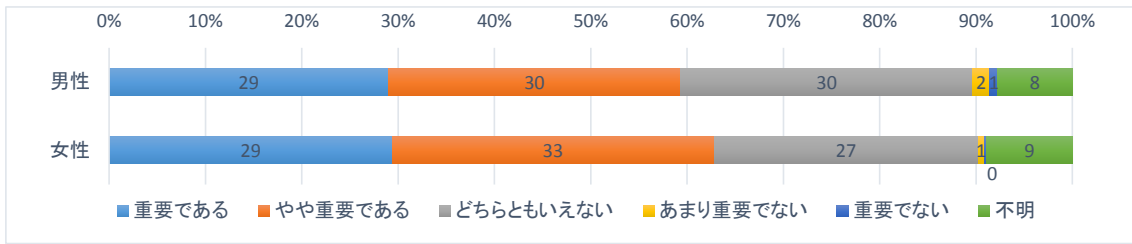


《地区別》

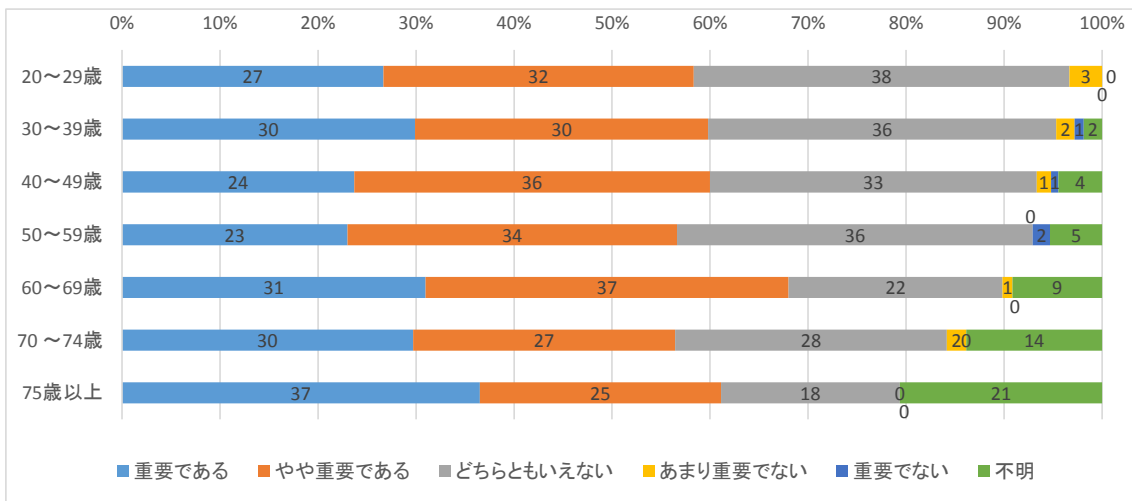


■重要度

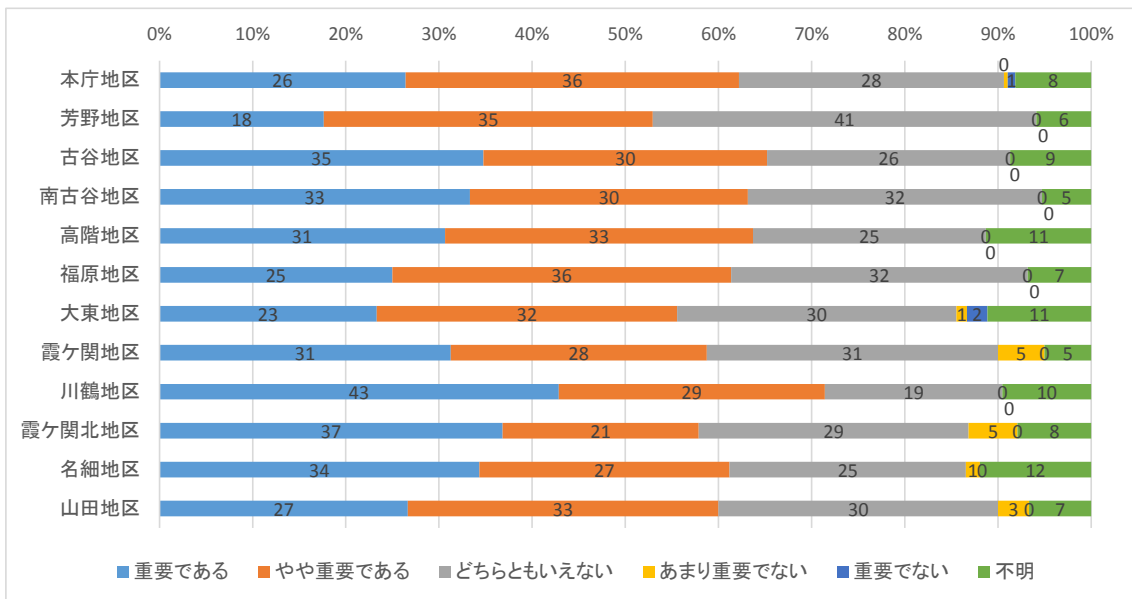
《男女別》



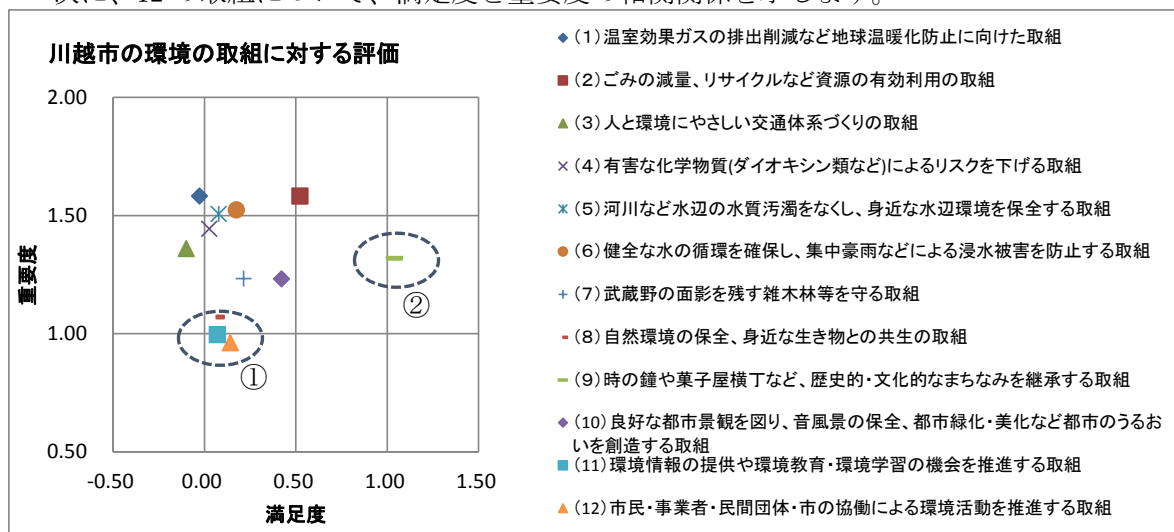
《年齢別》



《地区別》



次に、12 の取組について、満足度と重要度の相関関係を示します。



注意) 図中の満足度・重要度に対する評価の数値は、以下の算式にて求めています。

$$\text{満足度 (重要度)} = (\text{「満足である」「重要である」} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足である」「やや重要である」} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満である」「あまり重要でない」} \times -1 \text{点} + \text{「不満である」「重要でない」} \times -2 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

上図に示した相関関係から、以下の点が特徴として見られます。

① 重要度において、以下3つの取組に対する評価が他と比較して低い

(8) : 自然環境の保全、身近な生き物との共生の取組

(11) : 環境情報の提供や環境教育・環境学習の機会を推進する取組

(12) : 市民・事業者・民間団体・市の協働による環境活動を推進する取組

「重要である」「やや重要である」を合わせた割合で見ると、他の取組に対する重要度は全て70%を超えているのに対し、この3つは60%台と低くなっています。

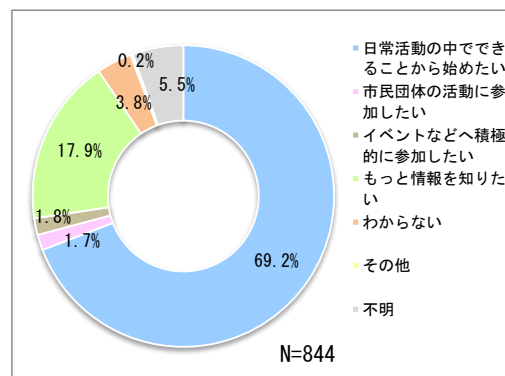
② 満足度において、以下の取組の評価が特に高い

(9) : 時の鐘や菓子屋横丁など、歴史的・文化的なまちなみを継承する取組

他の取組では、「満足である」の割合は高くても10%ほどであるのに対し、この取組については32.8%と特に高くなっています。また、「やや満足である」も39.7%であり、合わせると72.5%と特に高い評価となっています。

問6. 環境を良くするためにしたいと思うこと

・環境を良くするためにしたいと思うことについては、「日常活動の中でできることから始めたい」が69.2%と最も多く、約7割を占めています。

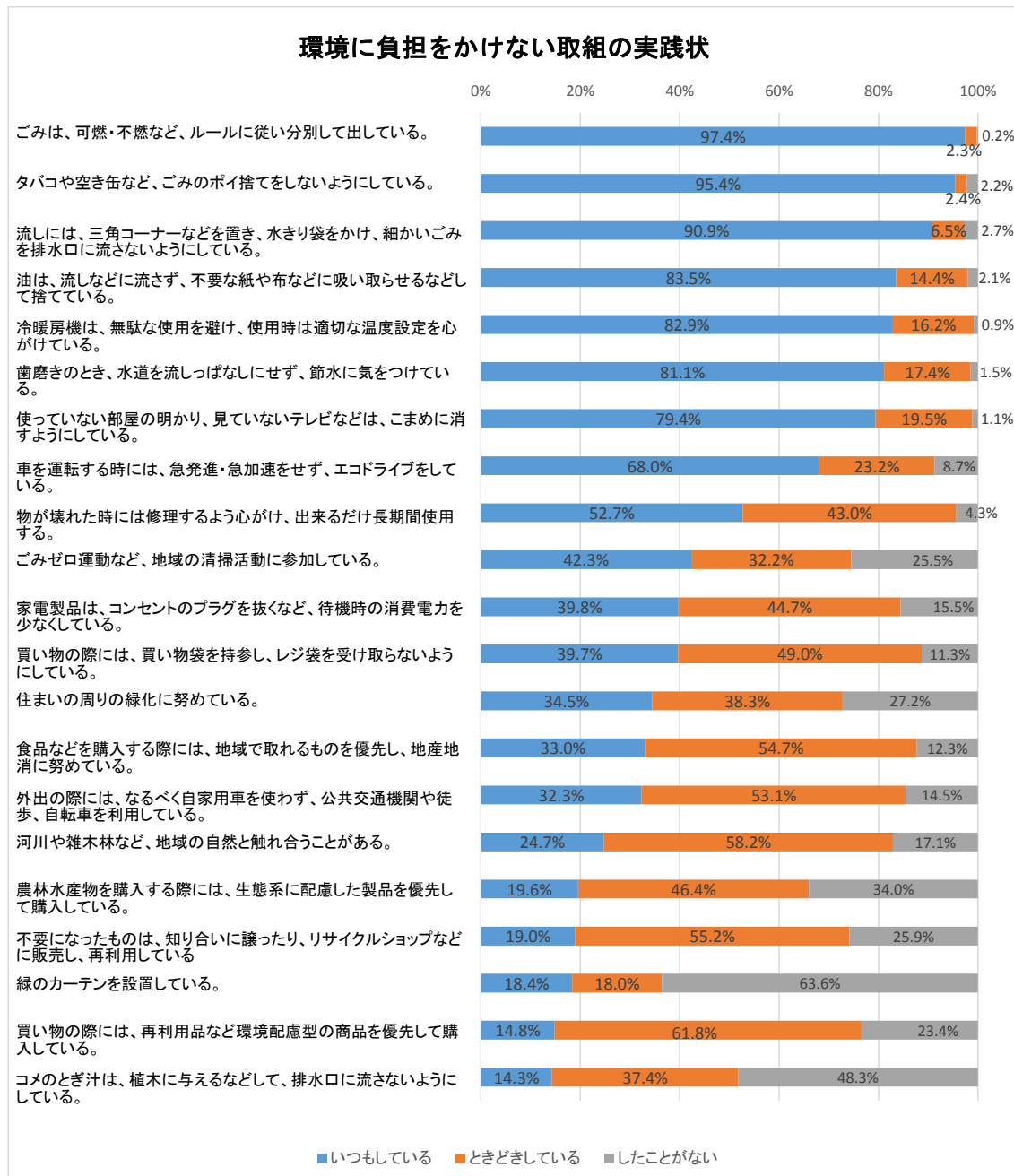


日常生活について

ここからは、日常生活の中で、環境に負担をかけないように実践している取組について示します。

問7. 環境に負担をかけないように実践していること

環境に負担をかけないように実践していることについては、「ごみは、可燃・不燃など、ルールに従い分別して出している」が97.4%と最も多く、次いで「タバコや空き缶など、ごみのポイ捨てをしないようにしている」が95.4%、「流しには、三角コーナーなどを置き、水きり袋をかけ、細かいごみを排水口に流さないようにしている」が90.9%となっています。



次に、今回の調査結果と、過去のアンケート調査結果（平成5年、平成12年）の比較が可能な項目について、実践していると回答した割合の比較を示します。過去と比べると、「住まいの周りの緑化に努めている」を除いた全ての項目の割合が高くなっています。特に、「買い物の際には、買い物袋を持参し、レジ袋を受け取らないようにしている」は前回の2倍以上の割合となっています。また、唯一減少した「住まいの周りの緑化に努めている」については、毎回数値が下がっていることから、緑に対する市民の意識が低下傾向にあることがうかがわれます。

取組	実践していること	平成26年度	平成12年度	平成5年度
ごみの減量・リサイクル	ごみは、可燃・不燃など、ルールに従い分別して出している	99.8%	96.7%	99.5%
	買い物の際には、買い物袋を持参し、レジ袋を受け取らないようにしている	88.7%	41.6%	-
	物が壊れた時には修理するよう心がけ、出来るだけ長期間使用する	95.7%	93.6%	-
	不要になったものは、知り合いに譲ったり、リサイクルショップなどに販売している	74.1%	-	-
	買い物の際には、再利用品など環境配慮型の商品を優先して購入している	76.6%	-	-
節水・水の循環	油は、流しなどに流さず、不要な紙や布などに吸い取らせるなどして捨てている	97.9%	88.1%	92.1%
	コメのとき汁は、植木に与えるなどして、排水口に流さないようにしている	51.7%	48.0%	41.7%
	流しには、三角コーナーなどを置き、水きり袋をかけ、細かいごみを排水口に流さないようにしている	97.3%	89.6%	93.1%
	歯磨きするとき、水道を流しっぱなしにせず、節水に気をつけている	98.5%	91.8%	94.1%
省エネルギー	使っていない部屋の明かり、見ていないテレビなどは、こまめに消すようにしている	98.9%	97.4%	97.8%
	冷暖房機は、無駄な使用を避け、使用時は適切な温度設定を心がけている	99.1%	95.1%	96.7%
	緑のカーテンを設置している	36.4%	-	-
	外出の際には、なるべく自家用車を使わず、公共交通機関や自転車の利用、徒歩を心がけている	85.5%	78.4%	83.1%
	車を運転する時には、急発進・急加速をせず、エコドライブをしている	91.3%	72.6%	85.8%
	家電製品は、コンセントのプラグを抜くなど、待機時の消費電力を少なくしている	84.5%	79.7%	-
自然や生き物の保全	河川や雑木林など、地域の自然と触れ合うことがある	82.9%	-	-
	農林水産物を購入する際には、生態系に配慮した製品を優先して購入している	66.0%	-	-
	食品などを購入する際には、地域で取れるものを優先し、地産地消に努めている	87.7%	-	-
	住まいの周りの緑化に努めている	72.8%	75.4%	77.1%
美化活動	タバコや空き缶など、ごみのポイ捨てをしないようにしている	97.8%	-	-
	ごみゼロ運動など、地域の清掃活動に参加している	74.5%	71.9%	66.8%

「緑」に対する考え方

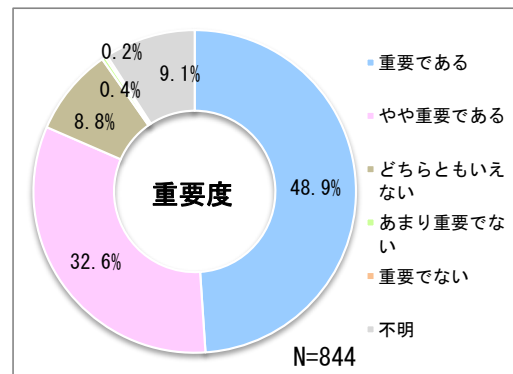
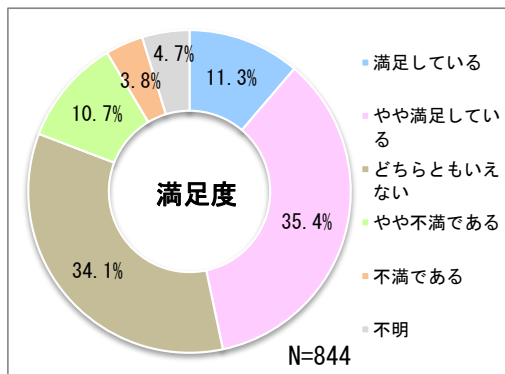
次に、「緑」に対する考え方について示します。

問 8. 緑に期待する役割

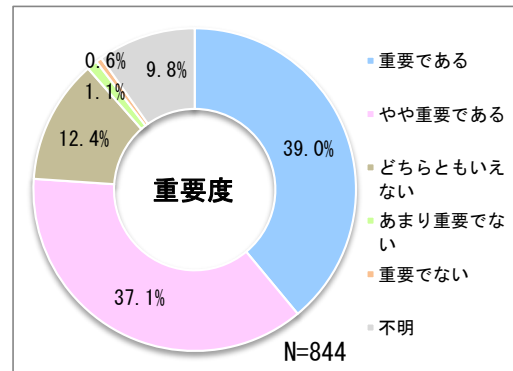
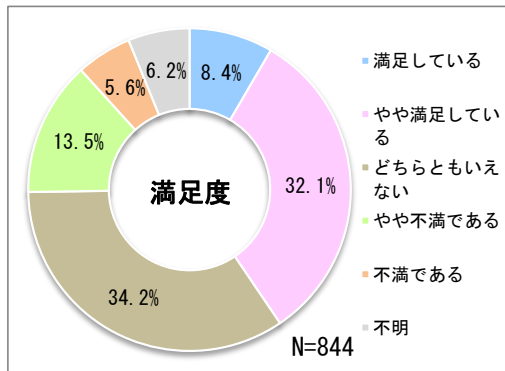
緑に期待する役割について、以下の7つの項目に対する満足度と重要度を示します。

- 1) 日常生活での潤い、安らぎ
- 2) 散策や休養、スポーツなどレクリエーションの場
- 3) 美しい景観や快適な環境の提供
- 4) 災害の拡大防止や避難場所としての活用
- 5) 空気の浄化やヒートアイランド現象の緩和
- 6) 水を貯え、地下に浸透させてくれる
- 7) 動植物の生息場所

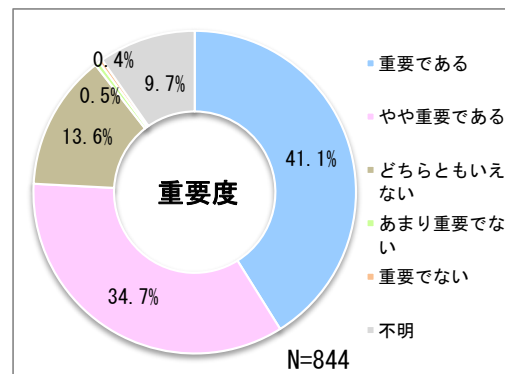
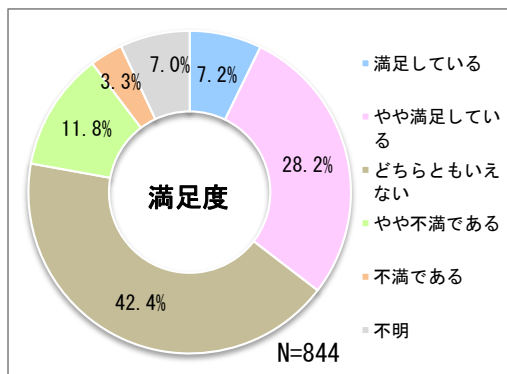
1) 日常生活での潤い、安らぎ



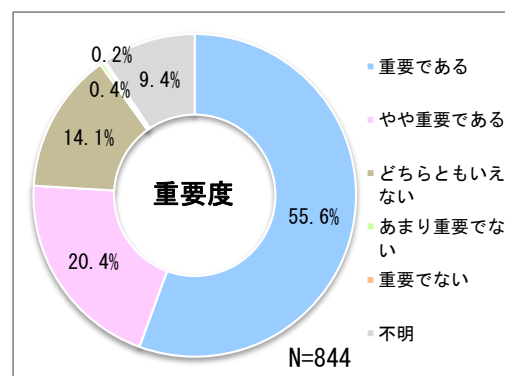
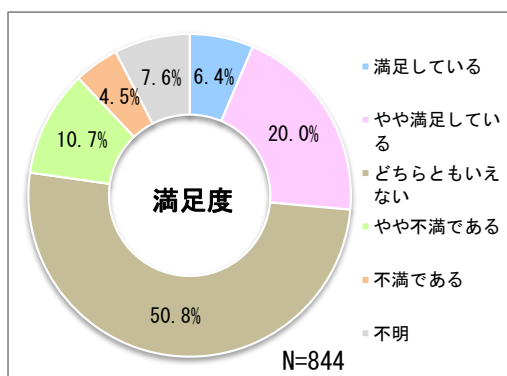
2) 散策や休養、スポーツなどレクリエーションの場



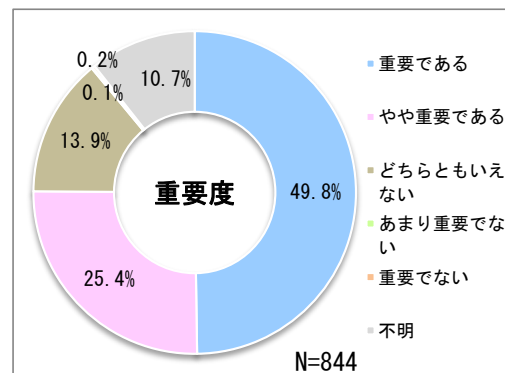
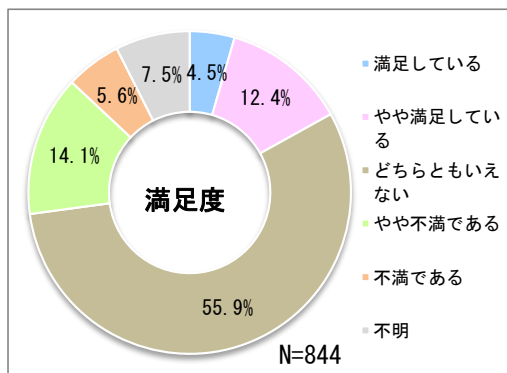
3) 美しい景観や快適な環境の提供



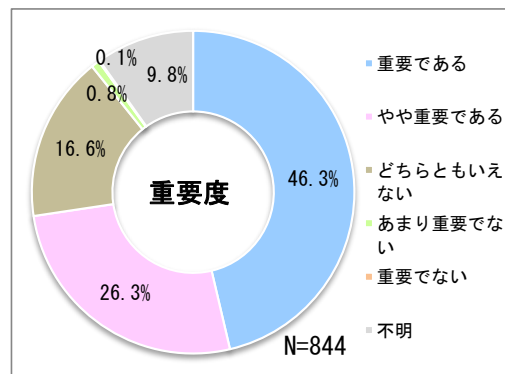
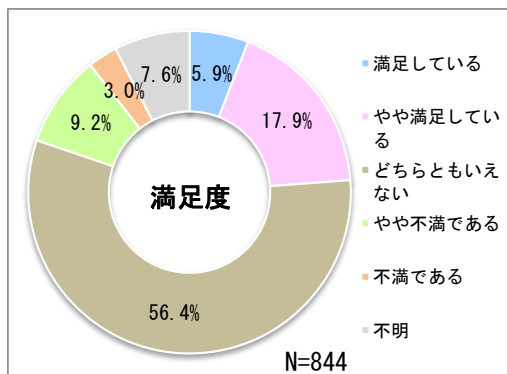
4) 災害の拡大防止や避難場所としての活用



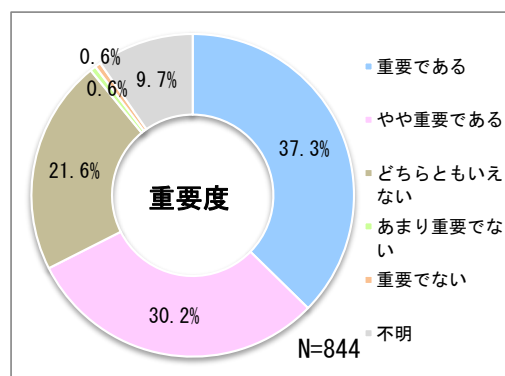
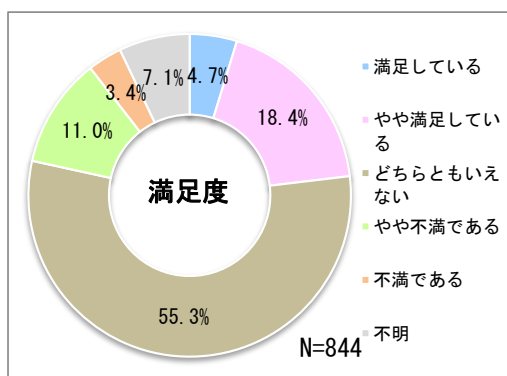
5) 空気の浄化やヒートアイランド現象の緩和

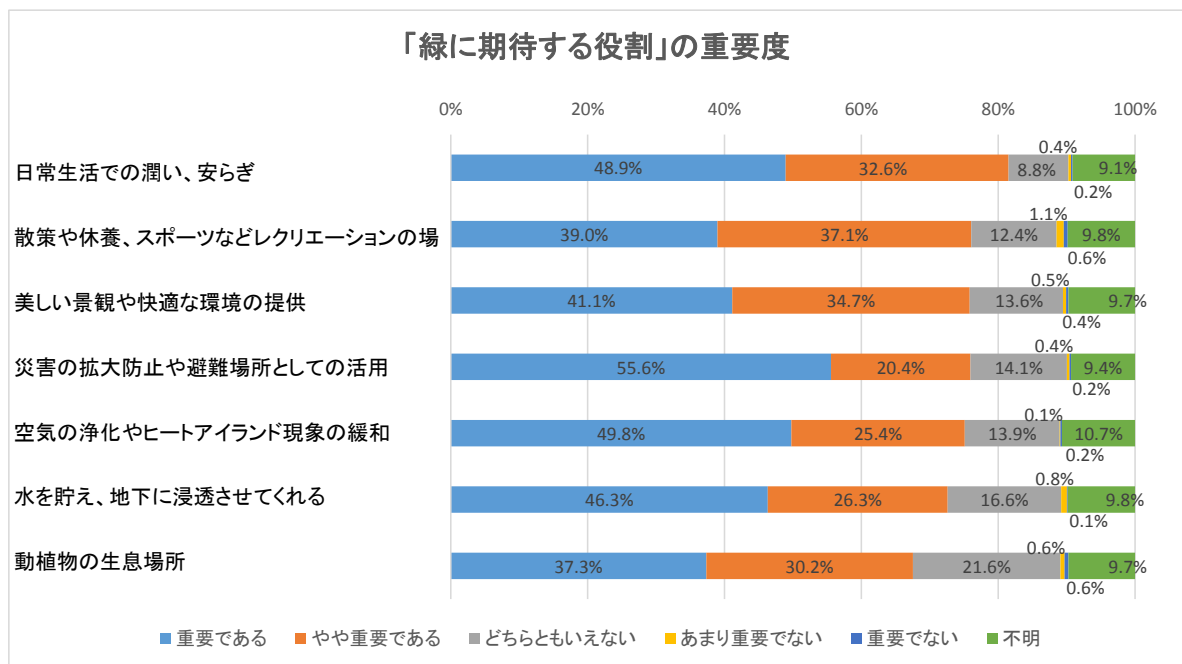
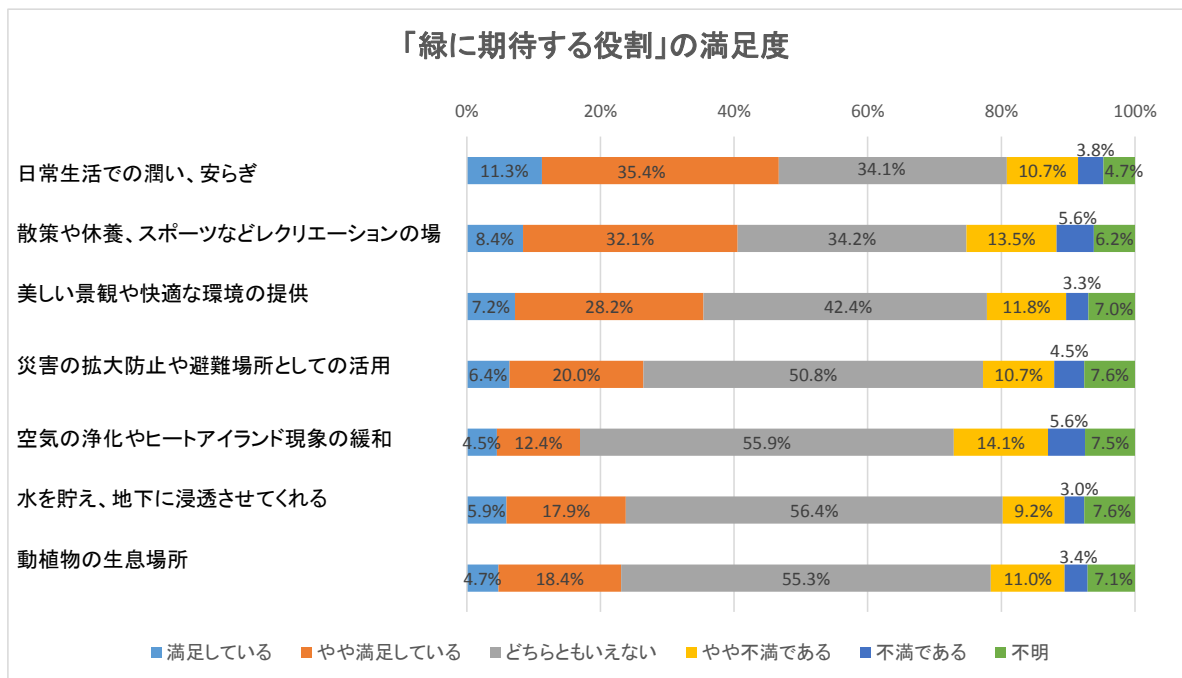


6) 水を貯え、地下に浸透させてくれる



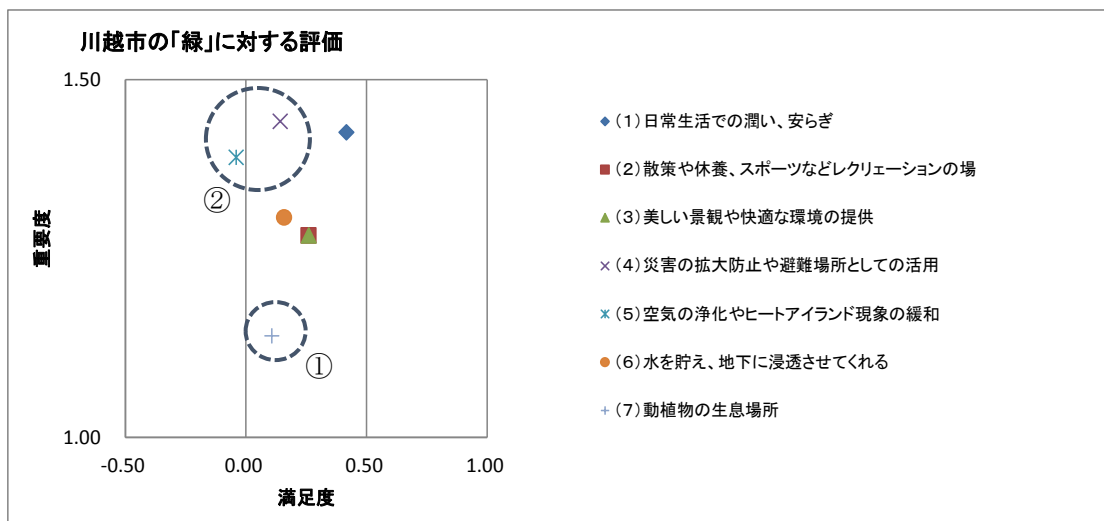
7) 動植物の生息場所





回答結果から、緑に期待する役割については、重要度が高い一方で、満足度は低い傾向がみられます。

次に、これら7つの項目ごとに、その満足度と重要度の相関関係を見てみます。



注意) 図中の満足度・重要度に対する評価の数値は、以下の算式にて求めています。

満足度 (重要度) = (「満足している」「重要である」×2点 + 「やや満足している」「やや重要である」×1点 + 「やや不満である」「あまり重要でない」×-1点 + 「不満である」「重要でない」×-2点) ÷ 回答者数

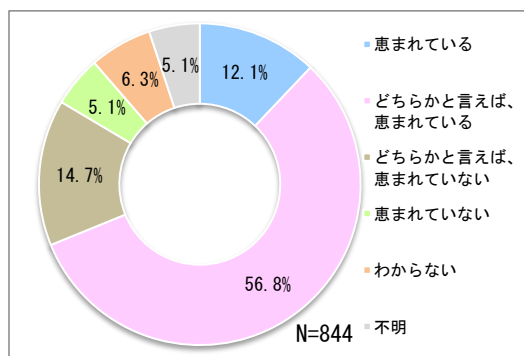
「(7)動植物の生息場所」に対する重要度が低くなっています。(①)

一方で、「(4)災害の拡大防止や避難場所としての活用」「(5)空気の浄化やヒートアイランド現象の緩和」については重要度が高く、満足度は低い傾向が見られます。(②)

問 9. 川越市は緑に恵まれているか

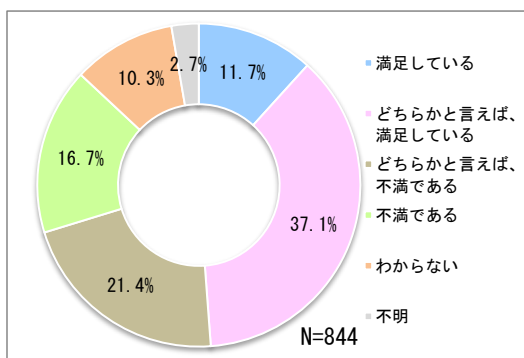
「どちらかと言えば、恵まれている」が 56.8%と最も多く、半数以上を占めています。

「恵まれている」の 12.1%を合わせると、全体の約 7 割を占めており、全体としては緑に恵まれた市と評価されています。



問 10. 住んでいる地域の公園や広場に対する評価

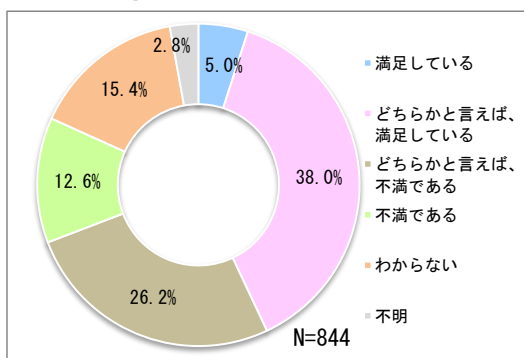
「満足している」「どちらかと言えば、満足している」が合計で 48.8%と約 5 割となっています。一方で、「どちらかと言えば、不満である」「不満である」「わからない」の合計も 38.1%ありました。



問 11. 住んでいる地域の川などの水辺に対する評価

「満足している」「どちらかと言えば満足している」の合計は 43.0%、「どちらかと言えば不満である」「不満である」の合計は 38.8%となっています。

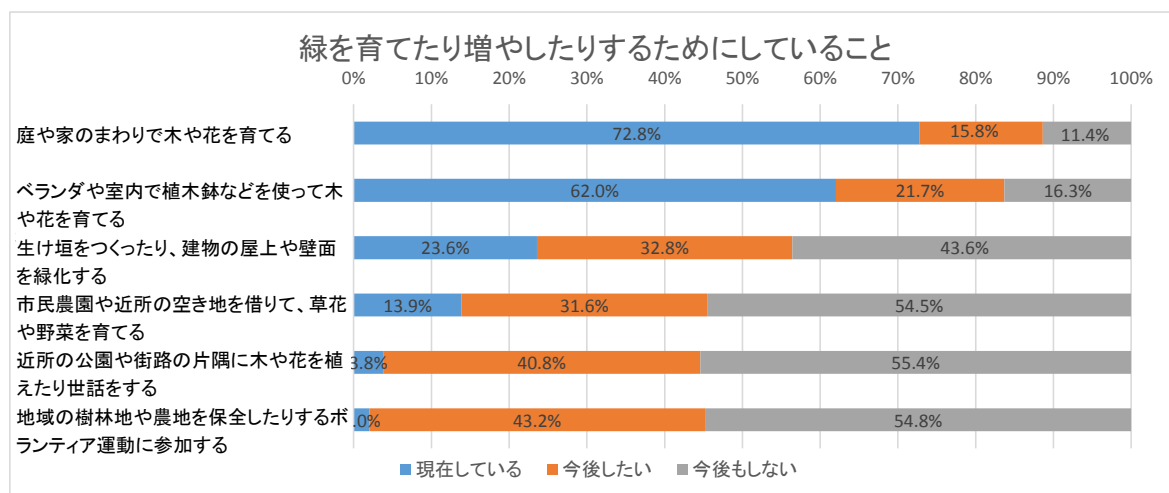
また「わからない」は 130 人（15.4%）と高くおり、問 10 と同様、共住地域の環境の違いが影響しているものと思われます。



問 12. 緑を育てたり増やしたりするためにしていること

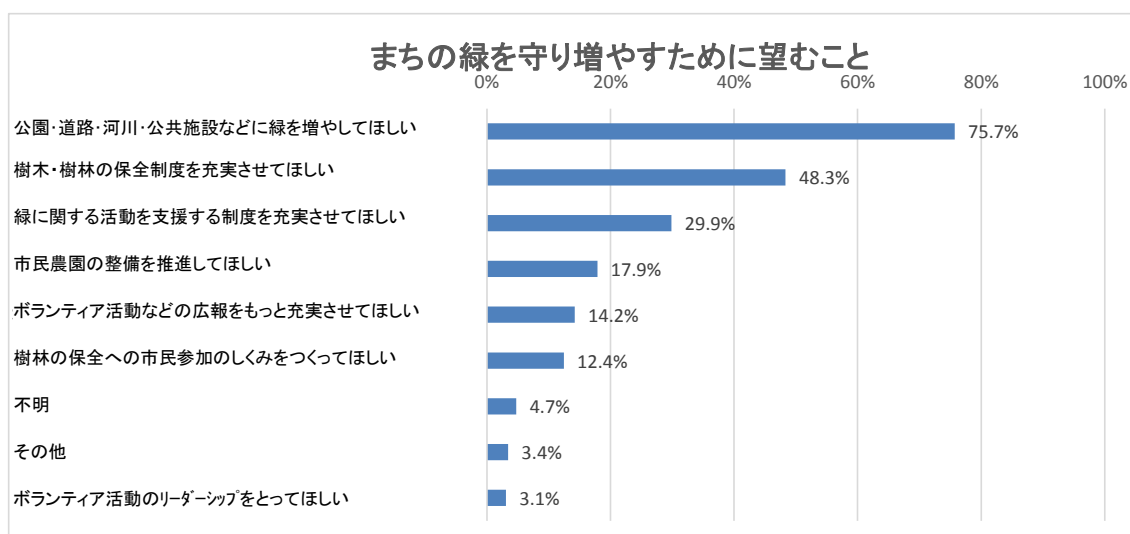
「現在している」ことは、「庭や家のまわりで木や花を育てる」が 72.8%、「ベランダや屋内で植木鉢などを使って木や花を育てる」が 62%と高く、身近で出来ることに関し

てはすでに取り組んでいる様子がうかがえます。
また、「今後したい」は「市民農園や近所の空き地を借りて、草花や野菜を育てる」が 31.6%、「近所の公園や街路の片隅に木や花を植えたり世話をする」が 40.8%、「地域の樹林地や農地を保全したりするボランティア運動に参加する」が 43.2%、と多くの市民が公共の活動への参加意欲を見せていますが、一方では「今後もしない」も 55%前後となっており、さらに市民への啓蒙が重要と思われます。



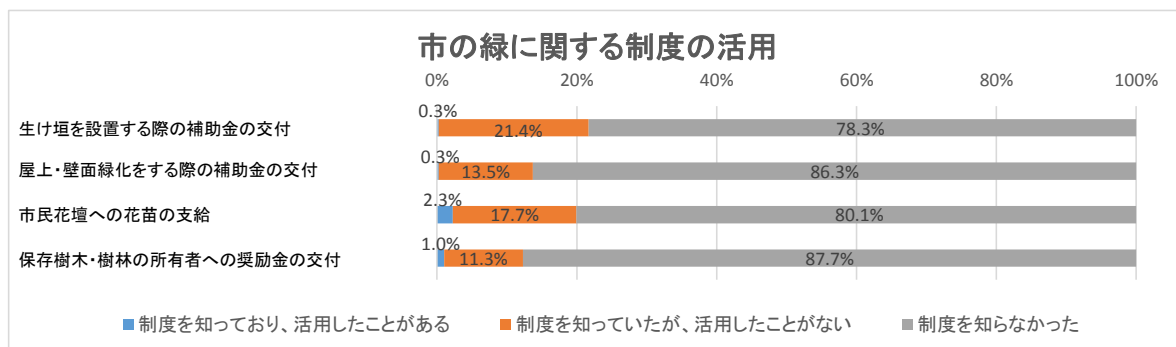
問 13. まちの緑を守り増やすために望むこと

「公園・道路・河川・公共施設などに緑を増やしてほしい」が 75.7%と最も多く、次いで「樹木・樹林の保全制度を充実させてほしい」が 48.3%となっています。



問 14. 市の緑に関する制度の有無

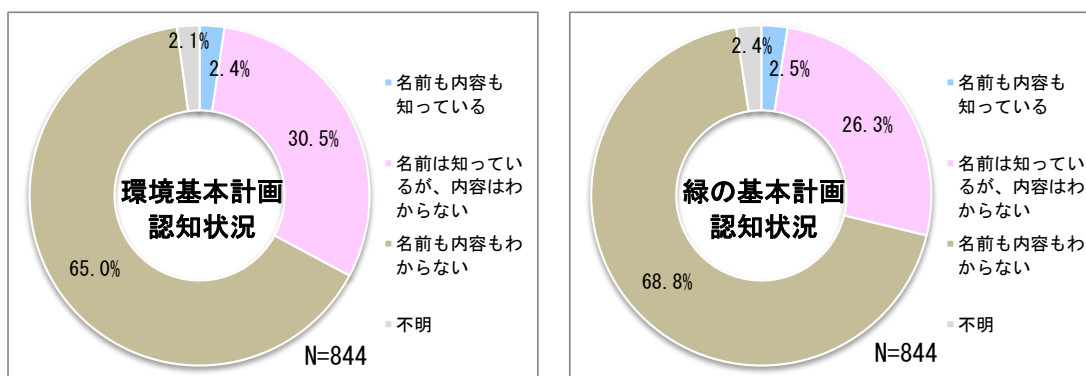
各項目とも、「制度を知らなかった」が全体の約 8 割を占めています。



川越市の環境に対する評価・要望

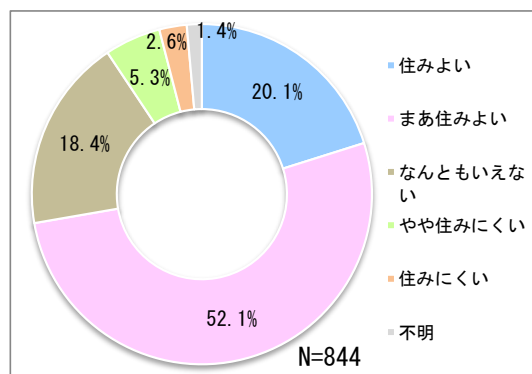
問 15. 市で策定している計画の認知状況について

市で策定している計画の認知状況については、「川越市環境基本計画」は「名前も内容もわからない」が 65.0%と最も多く、「川越市緑の基本計画」についても「名前も内容もわからない」が 68.8%と最も多くなっています。



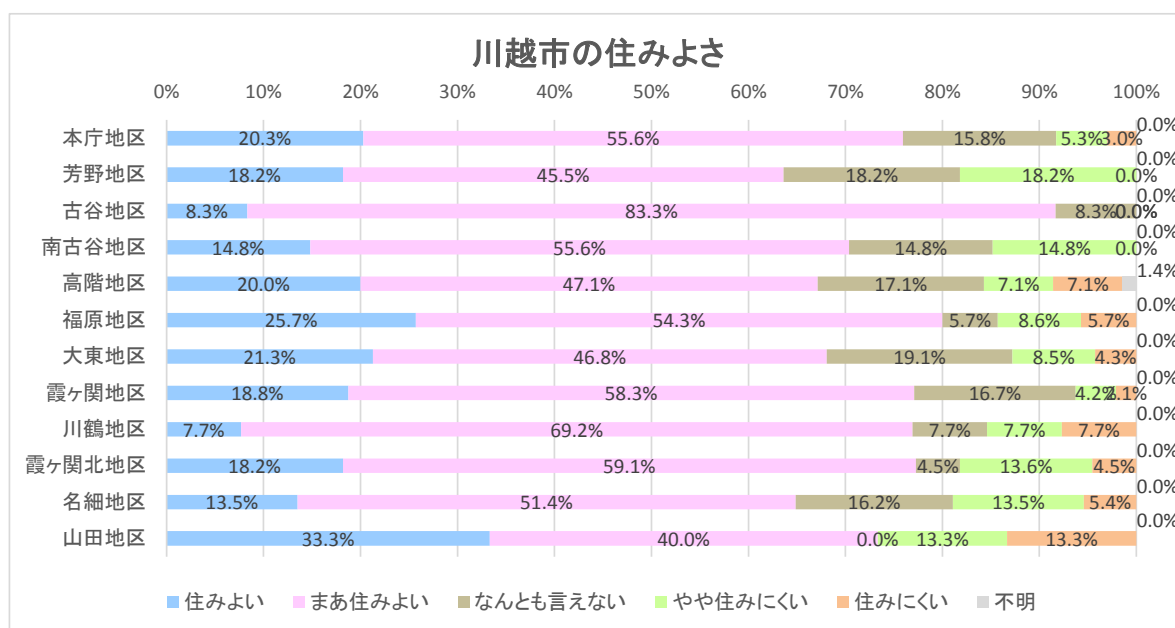
問 16. 川越市の住みよさ

環境面からみた川越市の住みよさに対する評価については、「まあ住みよい」が 52.1%と最も多くなっています。



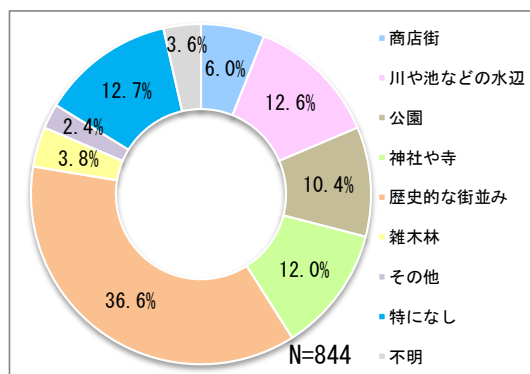
次に、住みよさを地区別に見ると、どの地区も、「住みよい」「まあ住みよい」が多くなっており、6～9割を占めています。

山田地区においては、「住みよい」「住みにくい」「やや住みにくい」と回答した人数の構成比が他の地区より高くなっていますが、回答者数が少ないため、誤差の範囲が大きくなることに留意する必要があります。

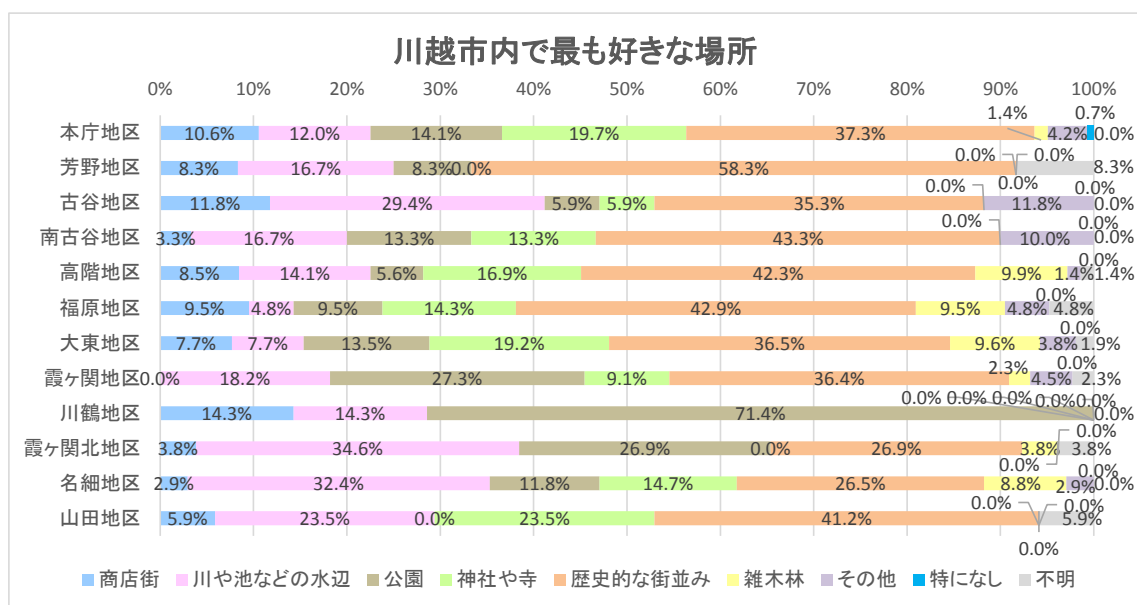


問 17. 川越市内で最も好きな場所

川越市内で最も好きな場所については、「歴史的な街並み」が 36.6%と最も多くなっています。



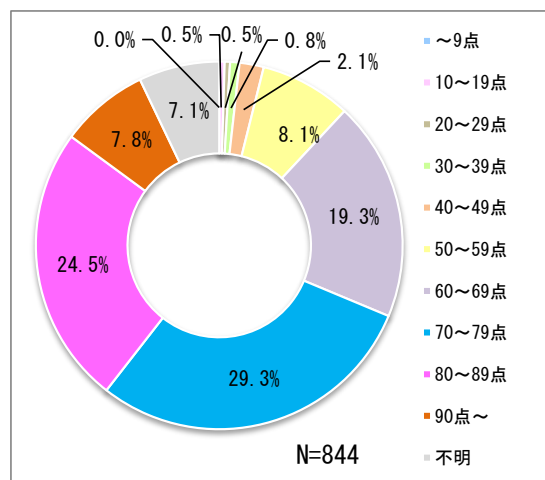
地区別に見ると、12 地区中 9 地区で、「歴史的な街並み」が最も多くなっています。



問 18. 川越市の環境の点数

最後に、川越市の環境について、100 点満点で点数を尋ねました。結果を見ると、60～69 点が 19.3%、70～79 点が 29.3%、80～89 点が 24.5%で、合計すると全体の 73.1%が 60 点以上と回答しています。

また、全体の平均点は 69.9 点でした。

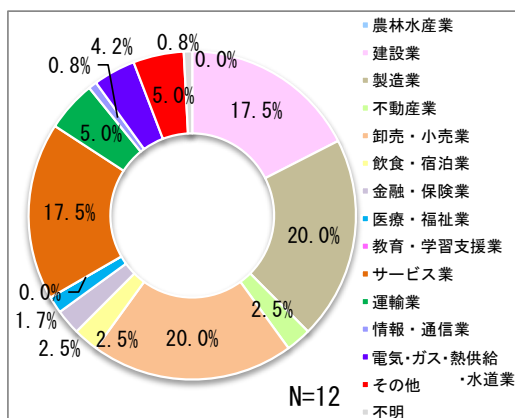


2.2 事業者アンケート

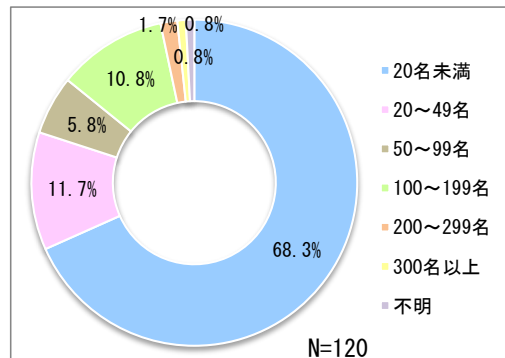
事業所の属性について

事業所に対するアンケートは120社から回答が有り、業種別に見ると「製造業」と「卸売・小売業」がそれぞれ24社(20%)、「建設業」と「サービス業」がそれぞれ21社(17.5%)となっており、全体の75%を占めています。従業員数で見ると「20名未満」が68.3%と最も多く、また所在地では「本庁地区」の事業所が37.5%となっています。

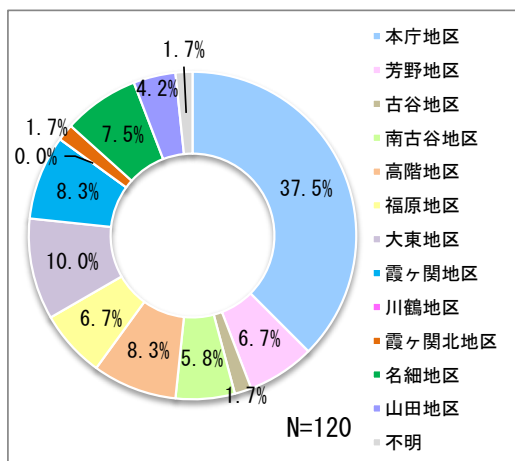
F1 (業種)



F2 (従業員数)



F3 (所在地)

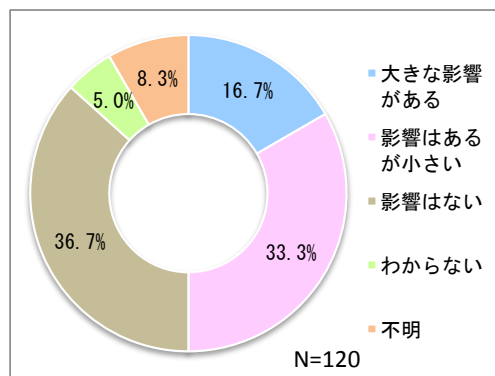


事業活動と環境への取組

ここからは、各事業所における事業活動と、環境への取組に関する回答結果を示します。

問１．事業活動が環境に与える影響の度合い

事業活動が環境に与える影響の度合いについては、「影響はない」が36.7%と最も多くなっていますが、一方で、「大きな影響がある」「影響はあるが小さい」の合計も50.0%という結果となっています。

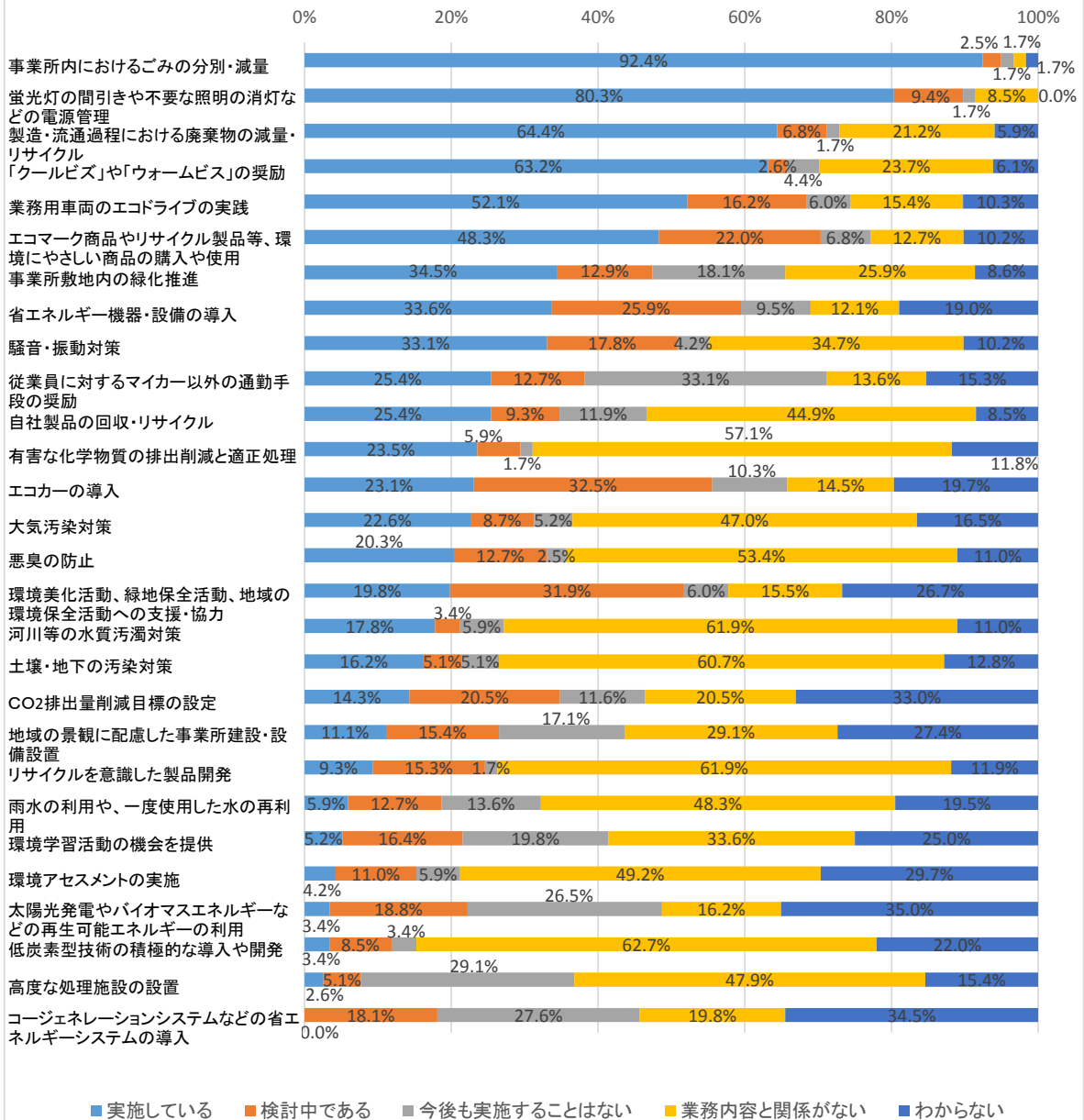


問２．環境に対する取組

環境に対する取組については、「事業所内におけるごみの分別・減量」を「実施している」と回答した事業所が92.4%、「蛍光灯の間引きや不要な照明の消灯などの電源管理」を「実施している」と回答した事業所が80.3%ありました。投資を伴わずに、すぐに実施出来ることについてはすでに多くの事業所が取り組んでいることが分かります。

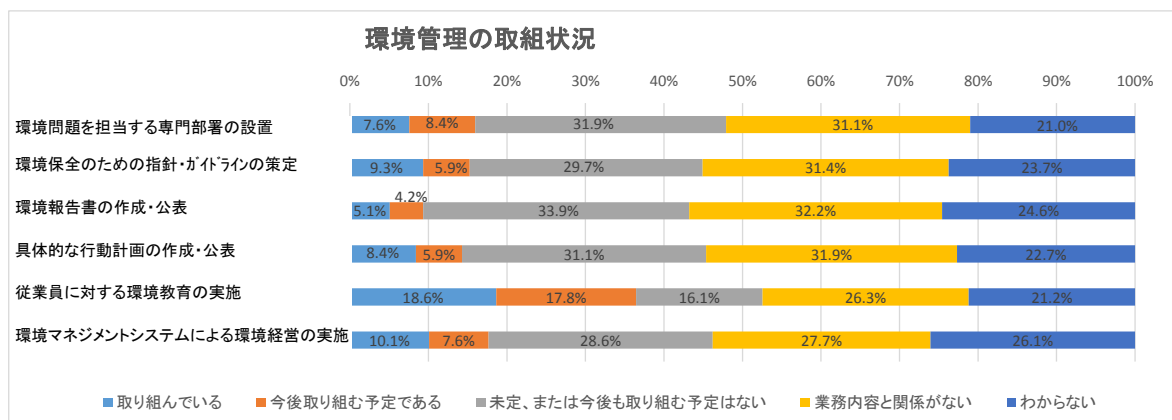
一方、「エコカー（ハイブリッドカー、電気自動車など）の導入」や、「環境美化活動、緑地保全活動、地域の環境保全活動への支援・協力」については、多くの事業所が意識はあっても、なかなか実施に結びついていない状況であることもうかがわれます。

事業所における環境に対する取組の実施状況



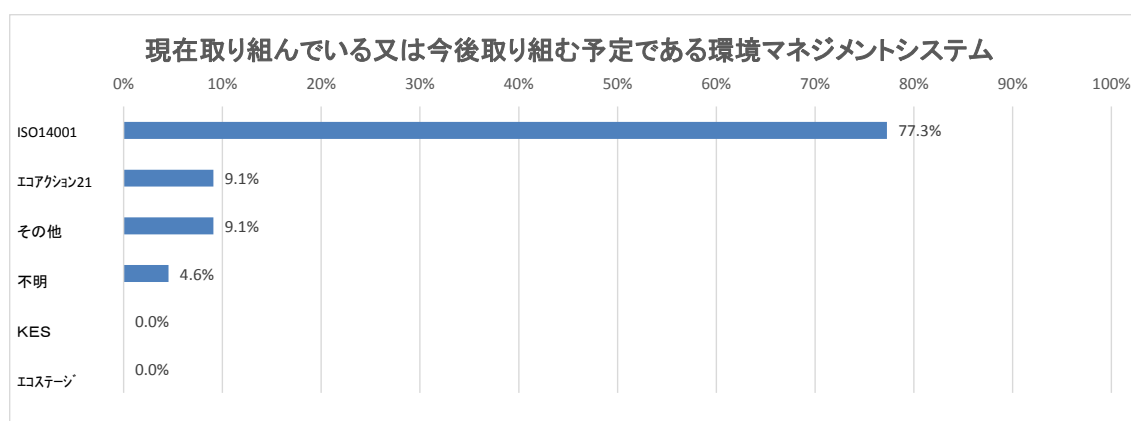
問 3. 環境管理への取組状況

環境管理の取組については、「実施している」「検討中である」の合計で見ると、「従業員に対する環境教育の実施」が 36.4%と最も高く、次いで「環境マネジメントシステム（ISO14001 など）による環境経営の実施」が 17.7%となっています。



問 4. 現在取り組んでいる、又は今後取り組む予定である環境マネジメントシステム

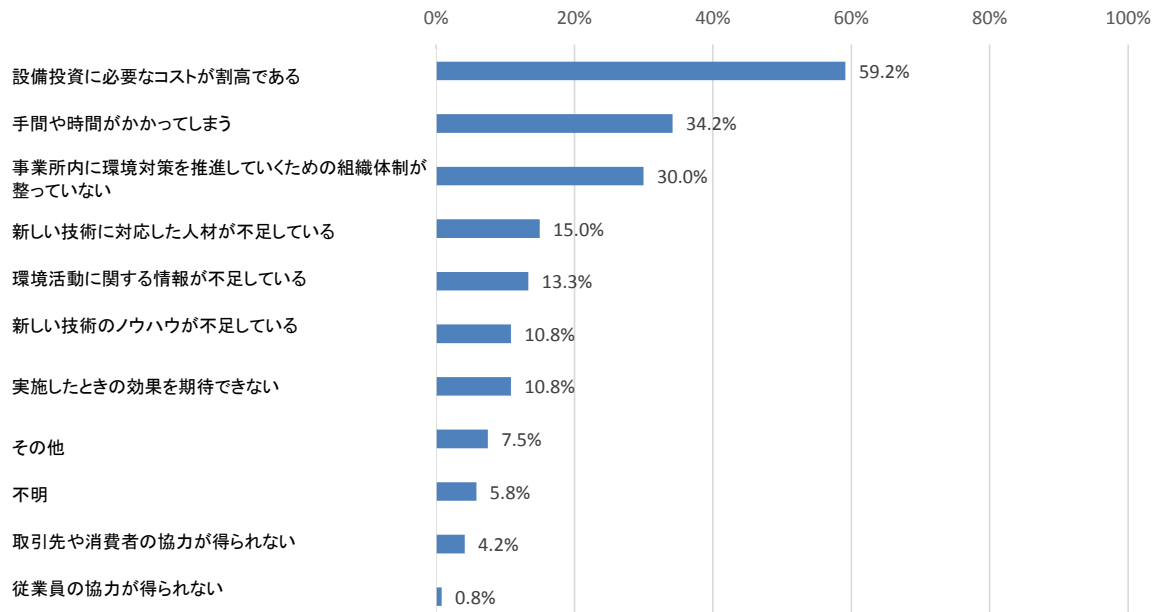
前問の「環境管理の取組状況」の「環境マネジメントシステムによる環境経営の実施」で「取り組んでいる」または「今後取り組む予定である」と回答した事業所 17.7%のうち、77.3%が「ISO14001」と回答しています。



問 5. 環境に対する取組を実施するにあたり、支障となるもの

環境に対する取組を実施するにあたり、支障となるものについては、「設備投資に必要なコストが割高である」が 59.2%と最も多く、次いで「手間や時間がかかってしまう」が 34.2%となっています。

環境に対する取組を実施する上での支障

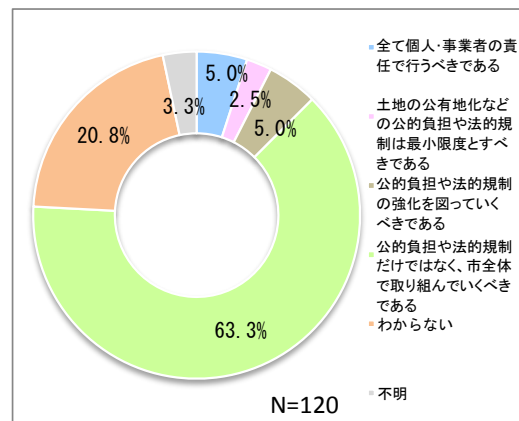


緑の保全についての考え方

次に、各事業所における緑の保全についての考え方に関する回答結果を示します。

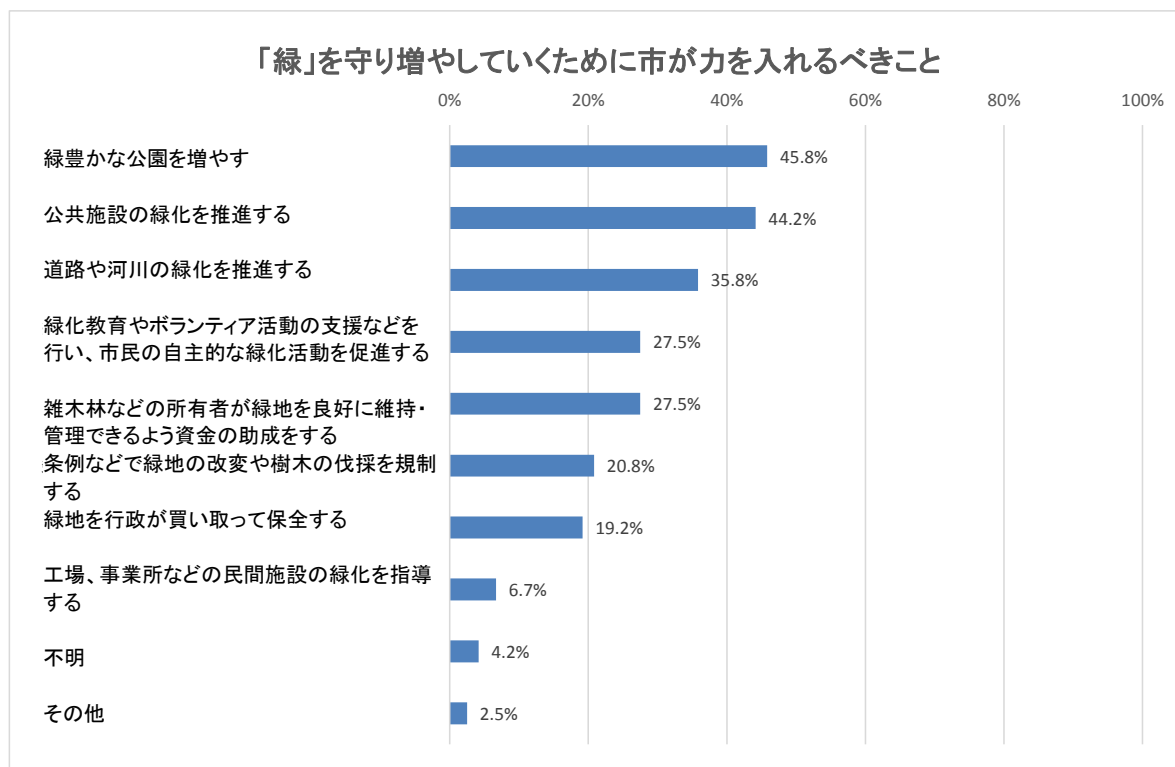
問6. 「緑」を守り増やすための負担のあり方

「公的負担や法的規制だけではなく、市全体で取り組んでいくべきである」とする回答が 63.3%と最も多くなっています。



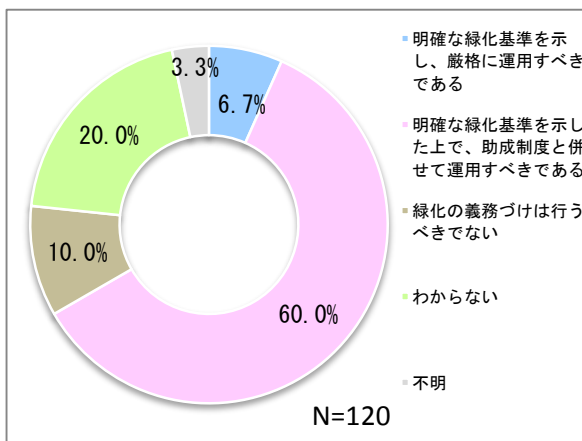
問7. 「緑」を守り増やしていくために、市が力を入れていくべきこと

「緑」を守り増やしていくために、市が力を入れていくべきことについては、「緑豊かな公園を増やす」が 45.8%と最も多く、次いで「公共施設の緑化を推進する」が 44.2%となっています。



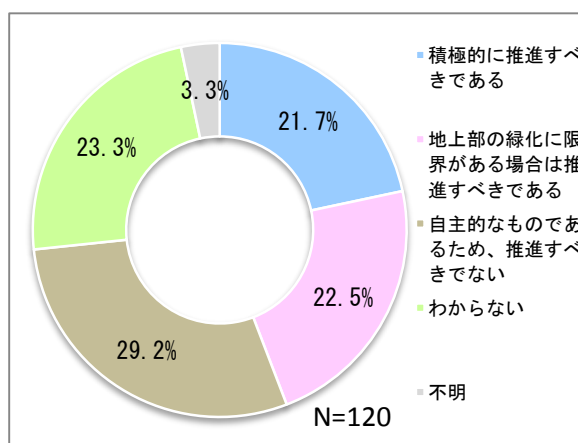
問8. 開発等に際し、緑化を義務づける規制に対する考え

「明確な緑化基準を示した上で、助成制度（補助金交付など）と併せて運用すべきである」が60.0%と最も多くなっています。



問9. 屋上や壁面など建物周りに緑化を行うことに対する考え

「自主的なものであるため、推進すべきでない」と回答した事業所が29.2%と最も多くなっています。一方で、「積極的に推進すべきである」という回答は21.7%となっており、「地上部の緑化に限界がある場合は推進すべきである」の22.5%を合わせると、全体の44.2%が建物周りの緑化を推進すべきと考えているという結果となっています。

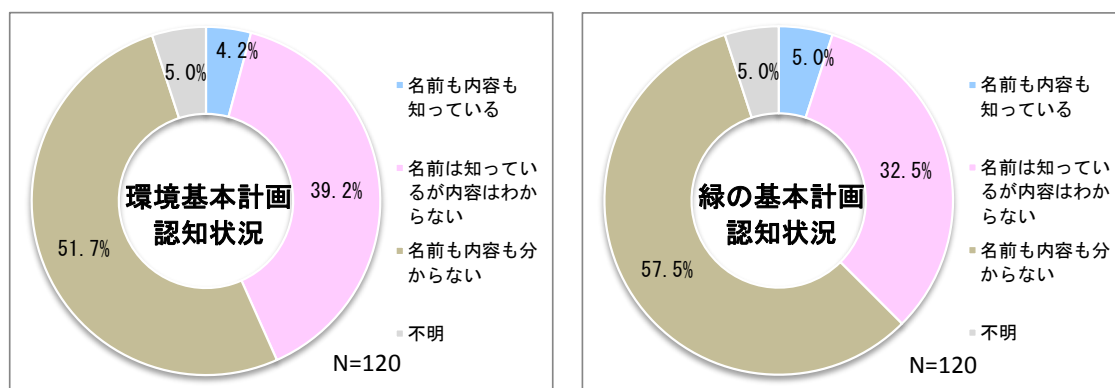


川越市の環境に対する取組

川越市の環境に対する取組についての回答結果を以下に示します。

問 10. 市で策定している計画の認知状況

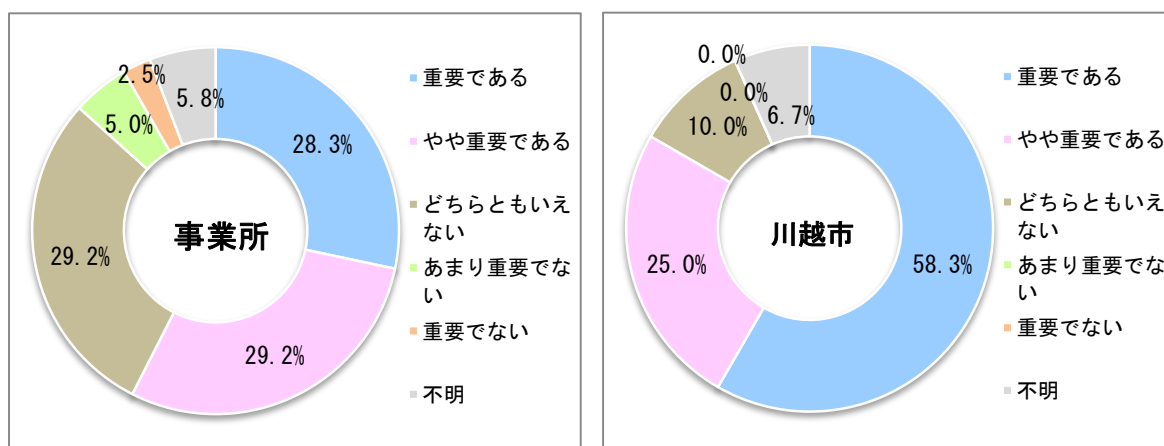
「川越市環境基本計画」及び「川越市緑の基本計画」については、「名前も内容もわからない」がいずれも 50%を超え、最も多くなっています。「名前は知っているが内容はわからない」を合わせると 90%を超えており、認知度は低い状態と言えます。



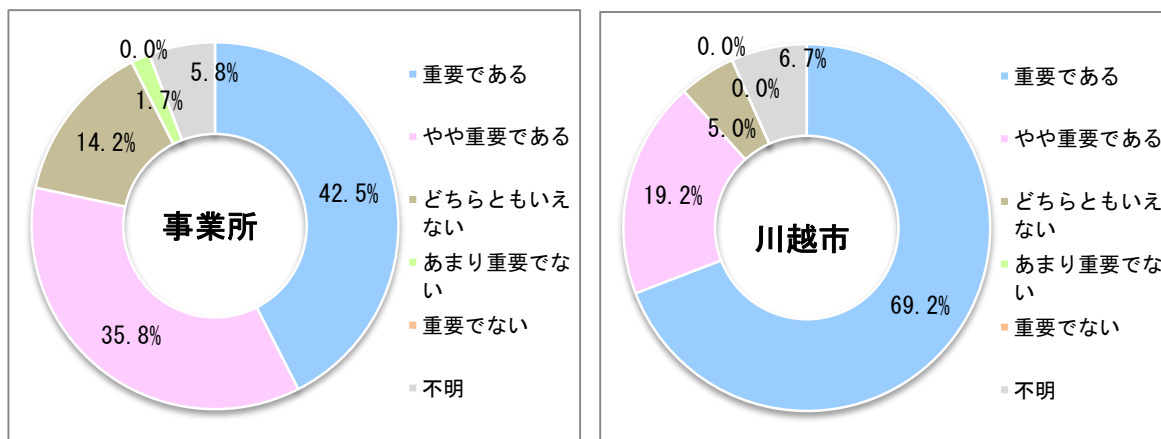
問 11. 川越市における環境の取組

ここでは、川越市における 12 項目の環境の取組について、事業所にとっての重要度と、川越市（行政）が行う取組としての重要度について尋ねました。以下、各項目についての回答結果を示します。

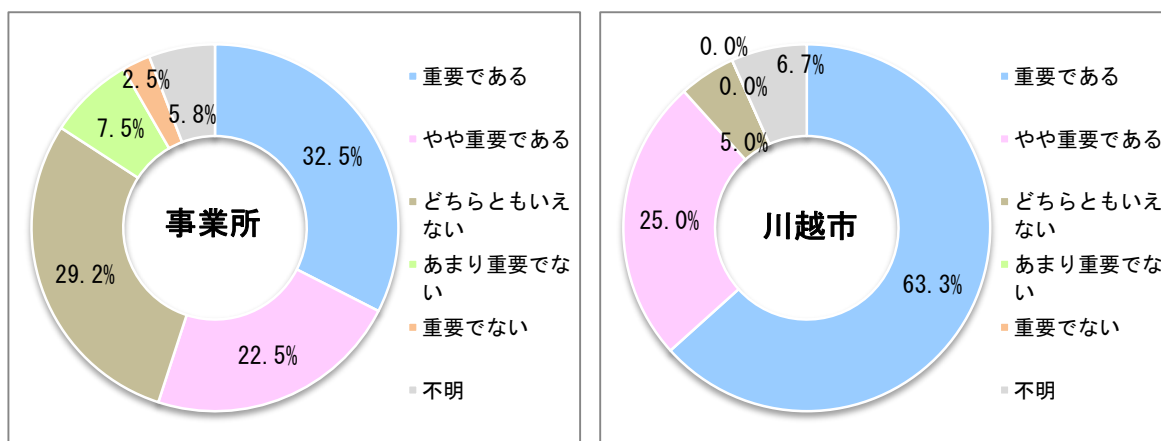
（１）温室効果ガスの排出削減など地球温暖化防止に向けた取組



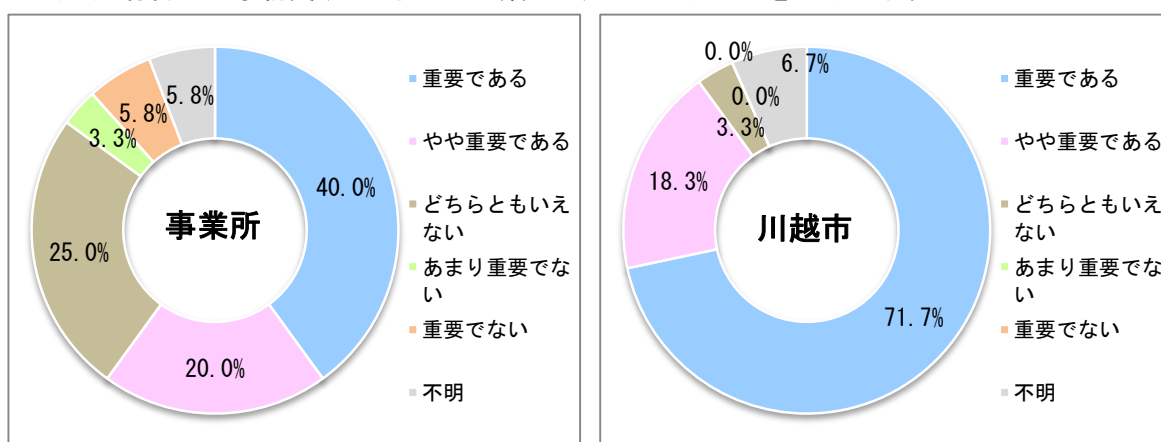
(2) ごみの減量、リサイクルなど資源の有効利用の取組



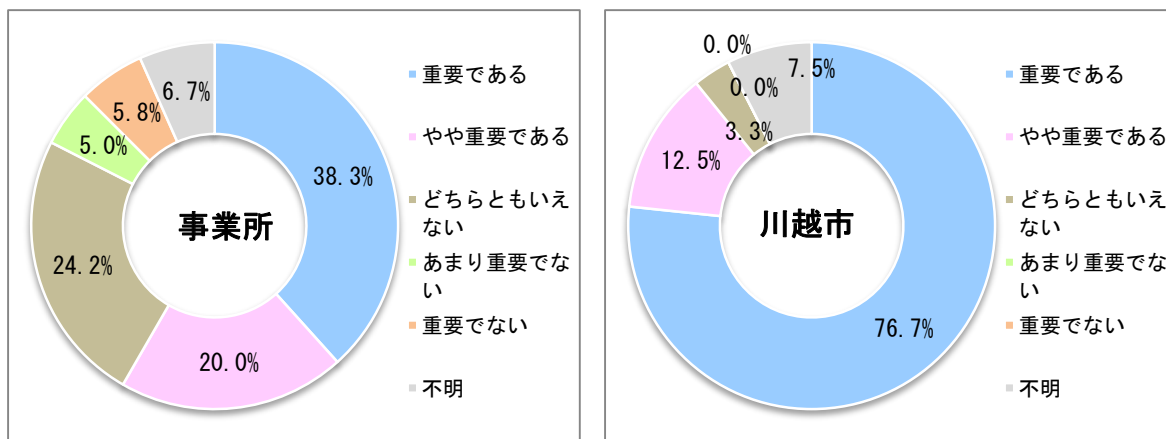
(3) 人と環境にやさしい交通体系づくりの取組



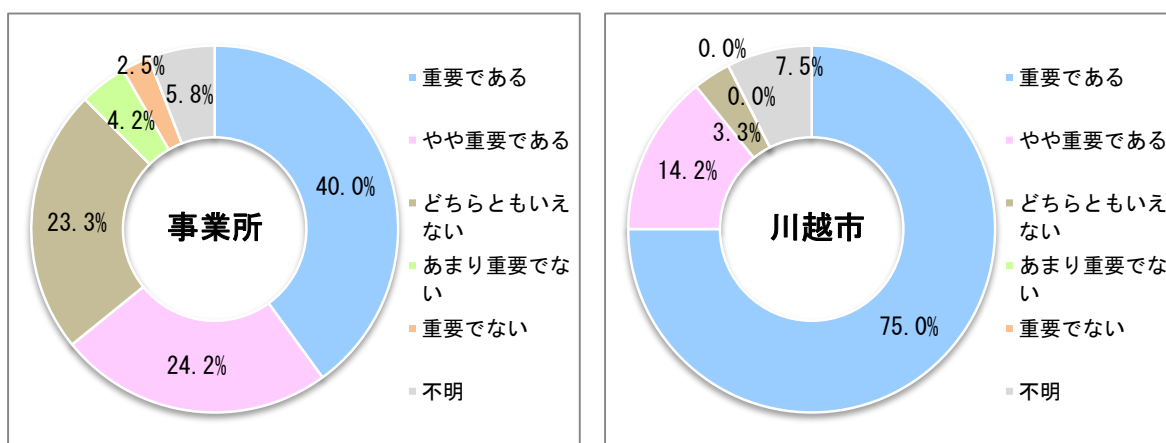
(4) 有害な化学物質(ダイオキシン類など)によるリスクを下げる取組



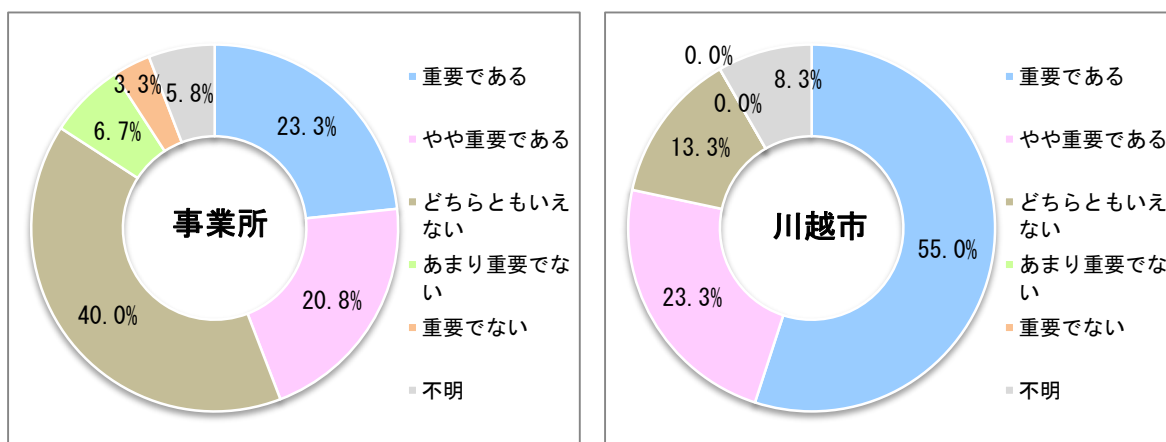
(5) 河川など水辺の水質汚濁をなくし、身近な水辺環境を保全する取組



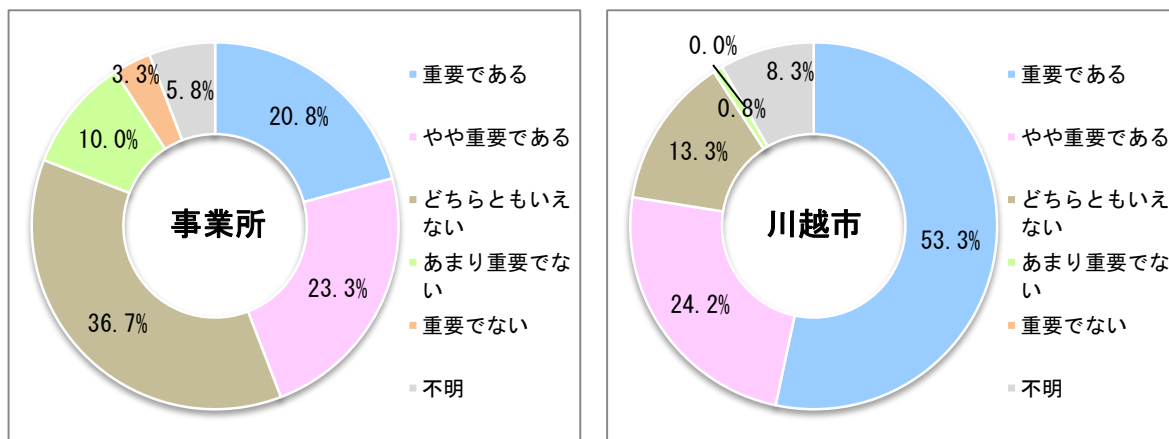
(6) 健全な水の循環を確保し、集中豪雨による浸水被害を防止する取組



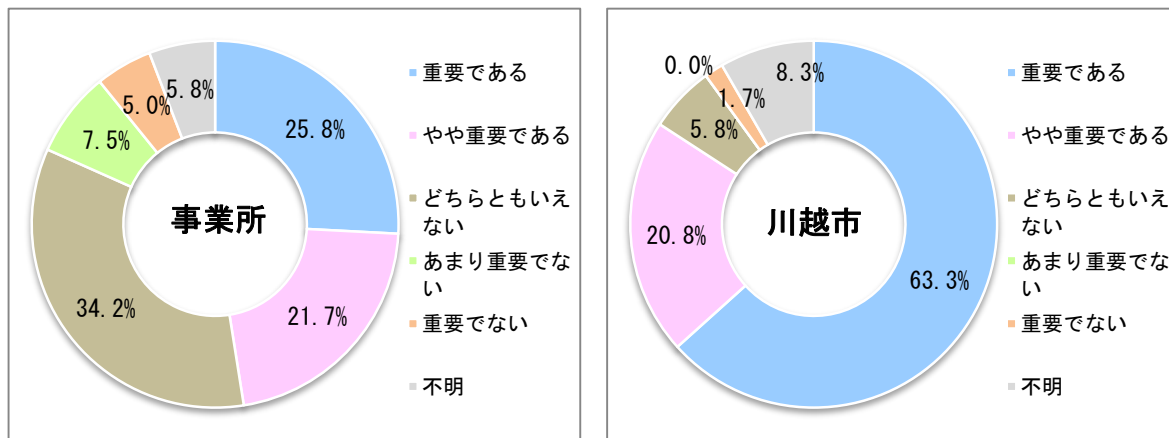
(7) 武蔵野の面影を残す雑木林等を守る取組



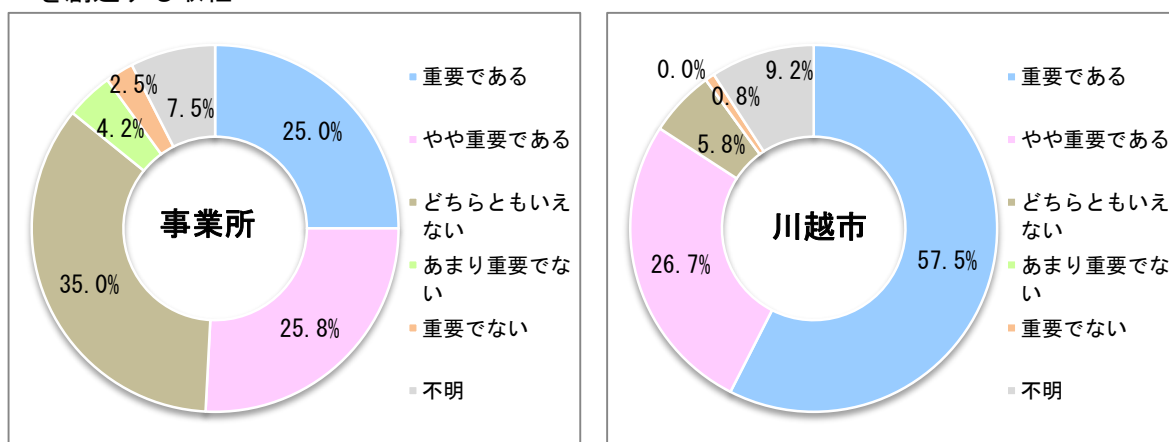
(8) 自然環境の保全、身近な生き物との共生の取組



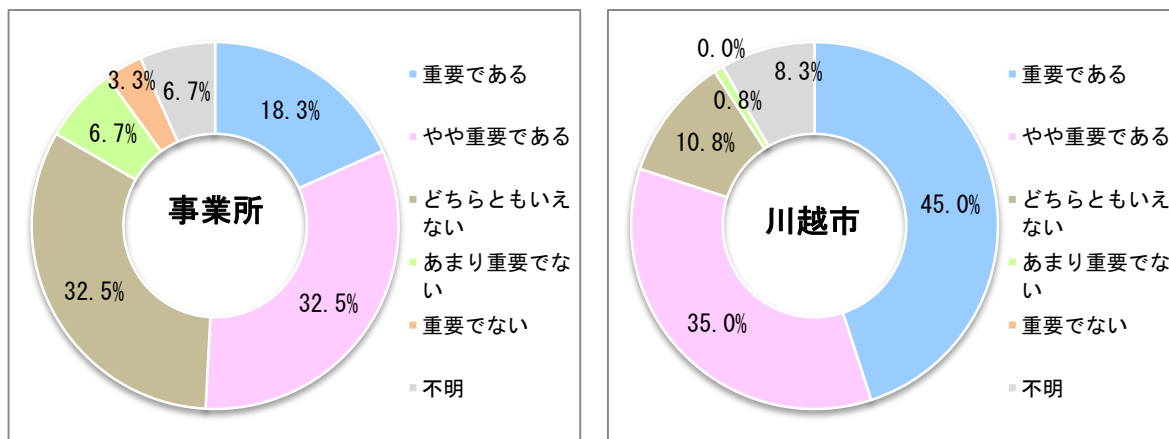
(9) 時の鐘や菓子屋横丁など、歴史的・文化的なまちなみを継承する取組



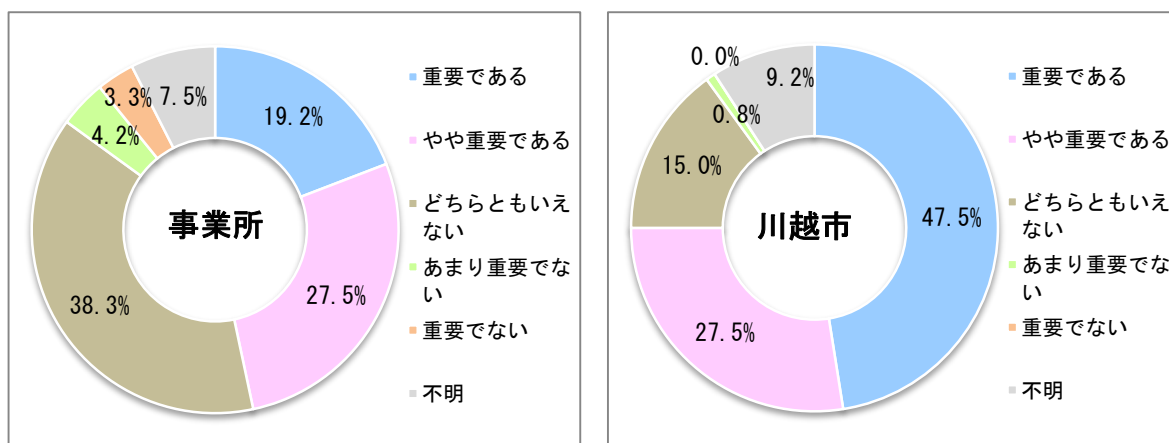
(10) 良好な都市景観の形成を図り、音風景の保全、都市緑化・美化など都市のうるおいを創造する取組



(11) 環境情報の提供や環境教育・環境学習の機会を推進する取組

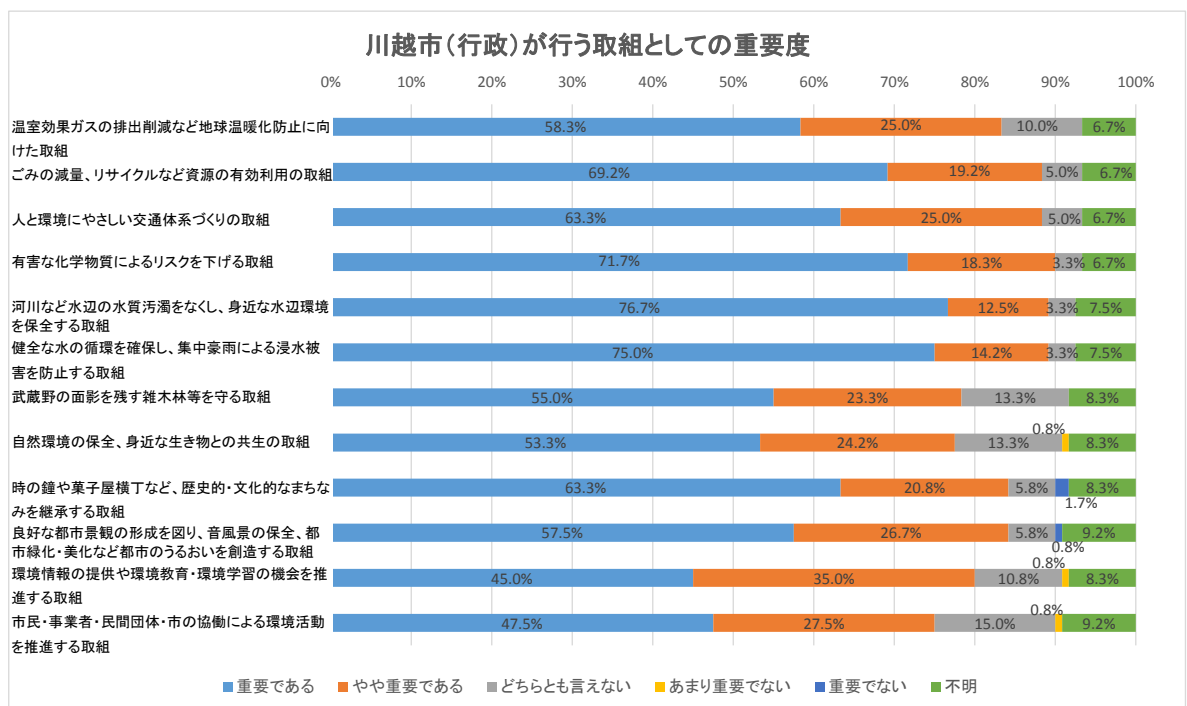
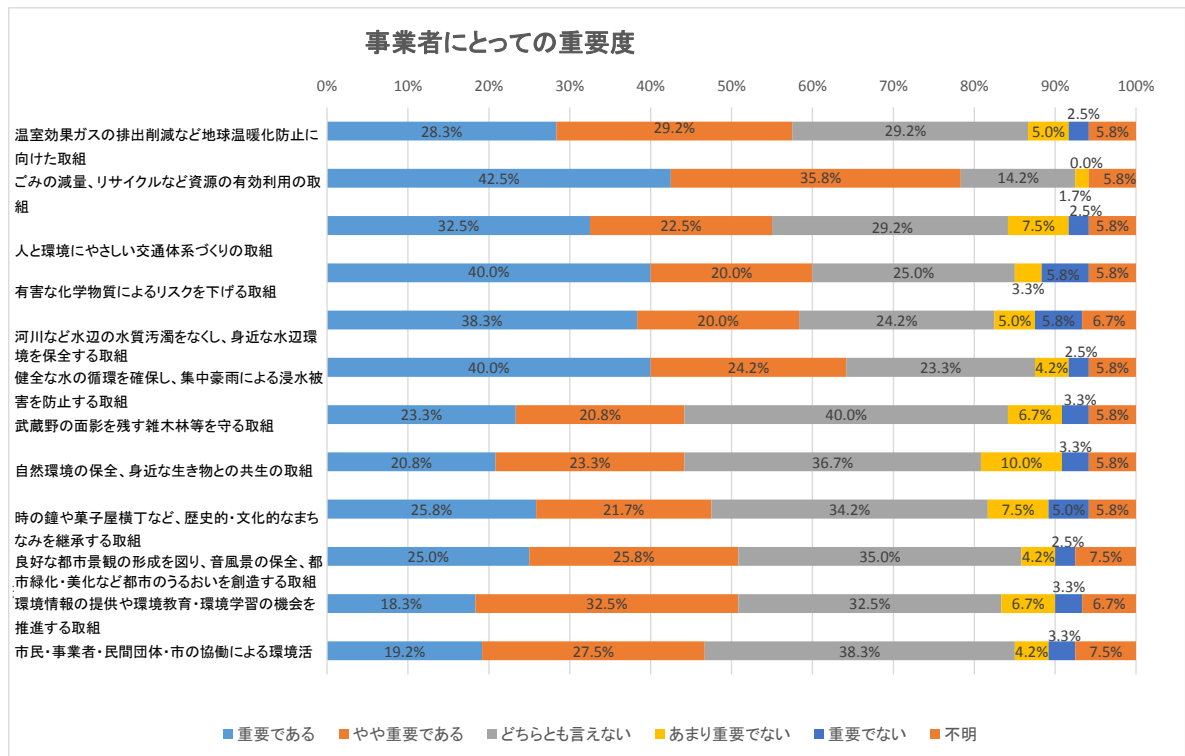


(12) 市民・事業者・民間団体・市の協働による環境活動を推進する取組



次頁では、12 項目に関する回答結果を一覧で示します。ほぼ全ての項目において、事業所にとっての重要度、川越市（行政）が行う取組としての重要度のいずれも高い傾向となっています。

事業所にとっての重要度と川越市（行政）が行う取組としての重要度を比較すると、全ての項目において、川越市（行政）が行う取組としての重要度の方が、より高い結果となっています。



問 12. 川越市の環境の点数

川越市の環境に対する評価については、100 点満点で、50 点から 89 点までの回答が 70%を超えています。不明の 16.7%を除くと、49 点以下は 5.9%であり、川越市の環境については比較的高い評価となっています。

全体の平均点は 66.5 点でした。

